

お言葉

お言葉

注意

1. 本電の取扱いに慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡せられたい。

極秘

電信写

大 政 事 外 外 官
大 務 務 典 房
次 次 典 房
臣 秘 官 官 審 審 長 長

北 経 環 査 総 官 外 研 長
大 大 ア 察 査 房
使 使 大 審 審 密

（総）口対文会厚情研

察 人 電 在 儀 警 史 オ

外 報 官
参 報 際 内 外

文 長
審 一 二

移 長
参 政 保 対 旅 外

審 地 中 東
参 北 東 西

長
北 米 長
審 一 二 保 地

中 南 長
参 一 二

欧
審 西 口 洋
西 東

近 ア
審 一 二 ア ア
一 二

経 途
次 総 経 途
参 経 漁 国
一 二 経 エ 国
安 一 二

長
参 海 審 準

経 協 長
審 政 国 開 無
審 調 技 有 理

条 長
審 条 協 規

国 長
審 政 経 入
参 軍 社

科 密
科 原

情 調 長
審 情 析 調
企 安

総 番 号 R162493

月 12日

平成 4年 8月 12日

中 国 発

本 省 着

アジア局長

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

てん皇へい下の御訪中

第3046号 極秘 大至急

（限定配布）

往電第3037号に関し、

12日、外交部れい賓司チン・ダイシン副司長と第一回目の事務レベルの打ち合わせを行つたところ、先方より以下の点につき要望越したところ、右検討の上、適き準備願いたい。

（1）必要書類等

（イ）両へい下のお写真

8インチサイズのを2まいずつ。

（ロ）両へい下の略歴

中文。日文及び英文でも可。

（ハ）両へい下の生活習慣の説明文

具体的には、食べ物のし好、起しよう時間・おひるねの習慣の有無等日常生活の一般的なタイムスケジュール等。

（ニ）一行名簿

本件については、速ければ速いほどベターである旨、先方より付言。

（ホ）てん皇き（ハタ）・皇ごうきのし様及び掲ようのし方等

（ヘ）両へい下のお好みの民ようのがくふ

（ト）両へい下のけつえき型

（チ）専用機の機材番号・型式等

外 務 省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

電信写

(2) 服装

当地におけるかん迎セレモニー、御会見等に際してのい装については、以下の形式が一般的。即ち、男性（てん皇へい下）の場合はせ広または民族い装を着用。

女性（皇ごうへい下）の場合はひざ上のミニスカート以外であれば、ドレス、民族い装いずれも可。また、半そで、長そで、ワンピース、ツーピースいずれの形でも問題ないとの由。

(3) えん会あいさつ

あいさつについては、最近当地においては、ぎれい簡素化を進めていることから、正式なあいさつは会見の時のみとし、えん会の際には、ごく簡単な言ばを即きよう的に（原こうなしで）添えるにとどめている。こうした形式については、これまで各国の国賓の方々にもご理解いただけてきている由。

(4) 専用機への同乗

特別機の中国国内におけるフライトに関し、中国側接伴員、随員、警備員等計30-40名を同乗させてもらいたい旨要望越した。よつて、専用機一機のみでプレスを含む全員を収容できるか否かにつき検討の要あり。（了）

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会（内線 2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会（内線 3169）に連絡ありたい。

限定配布

極秘

電信写



（大）政事（外）
大務務 典房
次次 臣秘官官審審長長

北経環査官 外研長
大対ア察括房
使使大密審密

対口文会厚情研

察人電在儀歴史オ

外報官 審報際内外

文長 審一二

長 参政保対旅外

（ア）審地中東
長 参北東西

北米長 審一二保地

中南長 参一二

欧 審西口洋
長 西東

（ア）長 審一二アア
長 一二

（ア）長 次総経途
長 参経漁国
経エ国
安ネ二

長 参海 審準

経協長 審政国開無
審調技有理

条長 審条協規

国 審政経人
長 参軍社

科 科原
審 審情折調

情調長 企安

総 番 号 R169306

月 22日

平成 4年 8月 22日

中 国 発

本 省 着

主 管

アジア局長

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

てん皇御訪中（本使・ジョ・トンシン外交部副部長会見）

北村儀典官

第3198号 極秘 至急（ゆう先処理）

FL322

（限定配布）

22日午前、本使はジョ・トンシン外交部副部長を往訪したところ、その概要次の通り。（同席者：先方一
張テイエン・アジア司副司長、張ジュンボク日本処副処長他、当方一当館マキタ、ミツオカ）

1. 冒頭、本使より、一時帰国しててん皇へい下に御訪中をお迎えする中国側の考え方などを御進講するに
察し、心得おくべきことあらば聞かせて欲しい旨申し入れた。

2. 右に対し、ジョ・トンシン副部長は次の通り述べた。

てん皇皇ごう両へい下の御訪中が実現する運びになったことについて日本側の払われた努力に対し感謝申し
上げる。今後引き続き御訪中の円満な成功のためお互いに努力していきたい。両へい下をお迎えするに当た
って中国側の気持ちはくり返し日本側に伝えてきているので、特に付け加えることはない。

3. よつて本使より、一つ気になることがある、それは中国の一部民間団体が両へい下御訪中の際に、北京
や上海でてん皇に対する謝罪要求、あるいは賠償要求を行うデモを行う計画をもっているとの情報があるこ
とである、このようなことが行われることは、誠に遺憾であり善処方、よろしくお願いする旨述べた。

4. これに対し先方は次の通り述べた。

（1）そのような動きがあるとの情報は外交部として特に聞いていないが、過去の問題に対する一部の人々
の気持ちを考えれば、そのような動きが全然ないとは言えないであろう。そうである¹³こそ、中日双方の共
通の努力が必要である。両へい下の御訪中は中日関係史上の意義のある大きなできごとであるから、中国側
としては全力をつくしてこれを成功させたいと考えており、中国国民にその意義をわかってもらうよう新聞
発表と同時に努力をしていく予定である。御訪中期間中に悪影響が生ずることが起きないように、全力

外 務 省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

極秘

電信写

をつくしていきたい。また、中国側としては両へい下御訪中の直前、直後に右御訪中に悪影響を及ぼすような事態が一切起きないようこれまで努力してきたし、今後とも引続き努力するつもりである。他方、日本側におかれても同じような努力をしていただきたい。不ゆかしいことや御訪中にマイナスになることが起きないように事前にこれをおさえる努力をしていただきたい。例えば、中国側はてん皇へい下御訪中の際に過去について謝罪をして欲しいと対外的に一度も言つたことはないにもかかわらず、逆に、日本側から謝罪は絶対にしないといったような発言が政府、あるいはマスコミから出てくると（中国国内では反応が生じ）マイナスとなる。

（2）「お言ば」についてもこれはあくまで日本側で決める問題であるが、御訪問の円満なる成功のためには、非公式に貴使との間で事前に相談をしていただくことが必要と思う。両国国民が満足するような形でこの問題を解決したい。（了）

天皇陛下中国御訪問時の各種会見御発言用資料

天皇皇后両陛下の中国御訪問に際しては各種の会談が予定されているところ、その際の御発言用資料 別添の通り。

(別添資料目次)

1. 楊尚昆中国国家主席との御会見のための資料
2. 江沢民総書記との御会話のための資料
3. 李鵬総理御引見のための資料
4. 白清才陝西省省長との御会話のための資料
5. 黄菊上海市長との御会話のための資料
6. 中国科学院御訪問の際のお言葉
7. 橋本大使主催レセプションの際のお言葉

楊尚昆中国国家主席との御会見のための資料（案）

一、貴国の累次にわたる丁重な御招待に感謝。貴国訪問は私と皇后の長年の願い。このたび初めて貴国を訪問し、その美しい自然と世界に誇る文化に接することができるとは大きな喜び。

二、本年はまた、折しも日中国交正常化二十周年にあたる。両国民にとってのこのような重要な節目に貴国を訪問できたことは、私にとって二重の喜び。

三、先般の江沢民総書記と万里委員長の訪日は、日中間の友好親善を深める上で、大変意義のあるもの。その際御二人にお目にかかったが、今回、貴国家主席と親しく接する機会を得たことを嬉しく思う。貴国家主席は貴国の改革・開放による近代化の推進に重責を担い、その叡智と指導力をもって成果を積み重ねてこられたと承知。

四、貴国は我が国との間で永きに亘る国民交流の歴史を有する重要な隣国。日中両国の国民が、古来、営々と築き上げて来た国民交流の伝統はかけがえのない貴重なもの。両国の国民がかかる交流を更に広範なものへと発展させつつあることを喜ばしく思う。このたびの訪問を通じ、貴国の未来を担う若い世代の人達とできるかぎり接触することを楽しみに

している。両国の新たな世代は、必ずや両国民間の伝統的な交流を継承し、より豊かなものとしていくものと確信。

五、貴国は、天然資源のみならず豊富な人的資源にも恵まれており、将来にわたって益々発展していくものと確信。このたびの訪問で、貴国の新たな発展の息吹に触れることを楽しみにしている。

六、現在貴国に在住する約八、四〇〇人の邦人は、各種の事業に従事し、貴国国民と共に両国の経済、社会、文化の交流の発展に努力してきている。貴国の政府と国民により貴国在住邦人に示された温かい友情と配慮に改めて感謝。

七、今回の訪問を契機に、将来に向かって日中両国民間の相互理解が一層促進され、国民間の交流と友好協力の関係が一層実りあるものとなることを念願。

ヤン シャン クン

楊 尚 昆

(Yang Shangkun、よう・しょうこん)

1. 現 職

国家主席、党中央政治局委員、党中央軍事委員会第一副主席、
国家中央軍事委員会副主席、党中央党史工作指導小組組長

2. 略 歴

- 1907 出生（四川省潼南県出身）
- 1926 中国共産党入党
- 1927 モスクワ中山大学留学（～31）
- 1932 党中央宣伝部長
- 1934 長征参加
- 1945 中国人民革命軍事委員会秘書長
- 1953. 11 党中央弁公庁主任（～65）
- 1956. 9 党第8期中央委員（～11期、12期）、党中央書記処候補書記
- 1958. 7 党中央直屬機関委第1書記（～65）
- 1965 広東省党委書記
- 1978. 12 広東省党委第二書記、同省革命委副主任（その後副省長）、広州市党委第一書記兼革命委主任（いずれも～80. 11）
- 1981. 7 党中央軍事委常務委員兼秘書長
- 1982. 9 党中央政治局委員（現職）、党中央軍事委常務副主席兼秘書長
- 1983. 6 国家中央軍事委副主席（現職）
- 1988. 4 国家主席（現職）
- 1989. 11 党中央軍事委第一副主席（現職）

3. 訪日歴

- 1979. 4 広州市友好訪問団団長として福岡市訪問

4. 家族構成

子息の楊紹明氏は写真家で中国撮影家協会副主席、また娘である楊李氏は国際友好連絡会会長補佐。楊白冰党中央軍事委秘書長兼総政治部主任は実弟

5. 概 観

(1) 党内に高い声望を有する革命時代の元老の一人。元来、解放前に軍の政治委員を長く務めた政治家。

文革前に11年間にわたり党中央弁公庁主任を務め、このうち9年間は党中央総

書記であった鄧小平氏の直接指導下にあった。

- (2) 1978年に名誉回復してからは、再び党・軍の要職を歴任、85年からは鄧小平氏を助けて軍の100万人兵員削減という難題と取組み、88年には李先念氏に代り国家主席の地位に就任。現在、対台湾工作でも党の最高責任の任にある。鄧小平氏との関係は特に密接といわれ、92年1月には鄧小平氏と共に深圳、珠海両経済特区を視察している。元老の中で唯一党政治局委員であり、また、中央軍事委第一副主席として軍を掌握。改革・解放政策の積極推進を呼びかけている。
- (3) 国内で頻繁に各種会談・行事に出席する他、対外活動も極めて活発。91年には3回にわたりインドネシア、タイ、モンゴル、パキスタン、イランを歴訪、92年に入ってから、年頭にシンガポール、マレーシアを訪問、4月には北朝鮮を、また6月からは北アフリカ3カ国を訪問した。

江沢民総書記との御会話のための資料（案）

一、このたびの貴国訪問は大きな喜び。貴国の累次にわたる丁重な御招待に感謝。また、今夕は、貴総書記より晩餐の御招待をいただき御礼申し上げます。

二、本年はまた、折しも日中国交正常化二十周年にあたる。両国民にとってのこのような重要な節目に貴国を訪問できたことは、私にとって二重の喜び。

三、貴総書記にお目にかかるのは、本年四月に貴総理が我が国を公式訪問されて以来であり、今回、再び、貴総書記と親しくお会いする機会を得たことを嬉しく思う。貴総書記は、党の責任者として、先の第十四回党大会を始めとして政治・経済の両面に亘る改革・開放を先頭に立って推進してこられたと承知。今回は貴総書記がかつて市長を務められた上海も訪れる予定。改革・開放の最前線を拝見できることを楽しみにしている。

四、貴国は我が国との間で永きに亘る国民交流の歴史を有する重要な隣国。日中両国の国民が、古来、営々と築き上げて来た国民交流の伝統はかけがえのない貴重なもの。両国の国民がかかる交流を更に広範なものへと発展させつつあることを喜ばしく思う。このたびの訪問を通じ、貴国の未来を担う若い世代の人達とできるかぎり接触することを楽しみに

している。両国の新たな世代は、必ずや両国民間の伝統的な交流を継承し、より豊かなものとしていくものと確信。

五、貴総書記は電子工学という最先端技術にも造詣が深いと伺っているが、これからの人類の繁栄にとって科学技術の発展は不可欠。貴国は、伝統的に輝しい科学技術の業績を残されており、これからもこの分野での貢献を期待。また、貴総書記は科学者であると同時に、中国の古典にもことのほか明るいと承知。西安においては碑林を訪れることとなっているが、我が国にもなじみの深い石碑が多く、楽しみにしている。

六、今回の訪問を契機に、将来に向かって日中両国民間の相互理解が一層促進され、国民間の交流と友好協力の関係が一層実りあるものとなることを念願。

ジャン ソー ミン

江 沢 民

(Jiang Zemin、こう・たくみん)

1. 現 職

党中央総書記、党中央政治局常務委員、党及び国家中央軍事委員会主席

2. 略 歴

- 1926. 7 出生（江蘇省揚州市出身）
- 1946. 4 中国共産党入党
- 1947 上海交通大学電気工学科卒業
- 1949以降 上海益民食品第1工場第一副工場長、上海石炭製造工場第一副工場長、政務院第1機械工業部上海第2設計分局電器專業課長等歴任
- 1955 モスクワ・スターリン自動車工場へ研修留学（～56）
- 1956 長春第1自動車工場動力分工場工場長、第1機械工業部上海電器科学研究所副所長、同部武漢熱機械研究所所長等歴任
- 1972 第1機械工業部派遣の専門家としてルーマニアに滞在（～73）
- 1980. 8 国務院輸出入管理委員会副主任
- 9 国家外国投資管理委員会副主任
- 1982. 5 電子工業部副部長
- 9 党12期中央委員（87. 11、13期再選）
- 1983. 6 電子工業部長（～85. 6）
- 1985. 6 上海市党委員会副書記
- 7 上海市長（～88. 4）
- 1987. 11 党中央政治局委員、上海市党委員会書記
- 1989. 6 党中央総書記（現職）、党中央政治局常務委員（現職）
- 1989. 11 党中央軍事委員会主席（現職）
- 1990. 4 国家中央軍事委員会主席（現職）

3. 訪日歴

- 1965. 10 日本国貿促の受入れにより中国IEC（国際電気標準会議）参加代表団副団長（当時、上海電器工業公司副經理）として訪日
- 1985. 5 日本国貿促の招聘により電子工業代表団長（当時、電子工業部長）として訪日
- 1992. 4 公式訪問

4. 家族構成

江総書記は江蘇省揚州市の知識階級の家に生れ、父親・江上青氏は若くしてマルクス主義の啓蒙を受け、揚州中学時代から革命運動に身を投じた。

江総書記の夫人・王冶萍女史は同郷（江蘇省揚州市）の幼馴染で、かつ遠縁の女性であった人であり、上海時代には夫君が勤めていた上海電器科学研究所に勤務。

子息が2人おり、長男・民康氏は米国留学、次男・綿康氏は西独での企業研修の経歴を有し、2人とも現在上海で仕事に就いているといわれる。

5. 横 顔

- (1) 上海交通大学電気工学科卒業のテクノクラートで、第1機械工業部及び電子工業部での経歴が長い。1950年代には、モスクワで1年間自動車製造実習に当たった他、第1機械工業部派遣による専門家グループの長として約2年間ルーマニアに滞在した経歴も有している。このため、外国語に堪能であり、英語、ロシア語、ルーマニア語の他、フランス語、日本語もある程度出来ると言われる。また、人をそらさぬ巧みな弁舌でも知られる。
- (2) 「6・4事件（天安門事件）」後の党13期4中全会では、上海市党委員会書記（中央政治局委員）から中央に抜擢され、解任された趙紫陽氏の後に総書記に就任。同年秋から翌年春にかけては、更に鄧小平氏引退のあとを受けて、党及び国家中央軍事委員会主席も兼任。
- (3) 江総書記は85年上海市長になった当時、揚州で親戚一同を集め、「旧社会では一人が功成るや、その恵みが、犬や鶏にまで及んだが、我々は共産党員であり、市長の親戚だと言って『七光り』を振り廻してはならない」と諭したと言われる。子息に対しても、厳格な家庭教育をもって臨んだといわれ、質実な作風で知られている。他方、自ら、「自分は理工系の出身であるが、興味・関心の範囲が広く、またそれが多方面にわたっている」と述べている通り、極めて多趣味であり、中国の古典文学に造詣が深い他、書画、音楽なども愛好し、自らピアノをひくこともあるという。
- (4) 92年4月に訪日した際、「中国は以前のことを忘れて未来を見つめ、日本は過去の歴史を真剣に見つめ平和的な発展の道を堅持することが重要」との大局的観点からの発言や、我が国の政治的役割を容認する発言等21世紀に向け「世界に貢献する日中関係」の観点から新たな日中関係を築こうという我が方の呼びかけに応ずる発言を行ったことは注目された。

李鵬総理御引見のための資料（案）

一、このたびの貴国訪問は大変な喜び。貴国の累次にわたる丁重な御招待に感謝。

二、本年はまた、折しも日中国交正常化二十周年にあたる。両国民にとってのこのような重要な節目に貴国を訪問できたことは、私にとって二重の喜び。

三、貴総理にお目にかかるのは、4年前に貴総理が我が国を公式訪問されて以来であり、今回、再び、貴総理と親しくお会いする機会を得たことを嬉しく思う。貴総理は、中国政府の責任者として、改革・開放を精力的に推進してこられたと承知。今回の訪問を通じ、その成果を拝見させて頂くことを楽しみにしている。

四、貴国は我が国との間で永きに亘る国民交流の歴史を有する重要な隣国。日中両国の国民が、古来、営々と築き上げて来た国民交流の伝統はかけがえのない貴重なもの。両国の国民がかかる交流を更に広範なものへと発展させつつあることを喜ばしく思う。このたびの訪問を通じ、貴国の未来を担う若い世代の人達とできるかぎり接触することを楽しみにしている。両国の新たな世代は、必ずや両国民間の伝統的交流を継承し、より豊かなものとしていくものと確信。

五、貴総理は科学技術に造詣が深く、この分野での発展に力を注いでおられると承知。科学技術の発展はこれからの人類の繁栄にとって不可欠の要素。本日午後に貴国の諸分野の科学者とお目にかかる機会を得たが、大変に有意義であった。また皇后は北海幼稚園を訪れ、貴国の次世代を担う幼な児の元気な姿を拝見して大変感謝している。

六、今回の訪問を契機に、将来に向かって日中両国民間の相互理解が一層促進され、国民間の交流と友好協力の関係が一層実りあるものとなることを念願。

リー ボン

李 鵬

(Li Peng、リ・ほう)

1. 現 職

国務院総理、党中央政治局常務委員

2. 略 歴

1928 10月20日出生(上海市。但し、原籍は四川省成都市)
1939 重慶育才学校で学習
1941 延安中学、延安自然科学学院、張家口工業専門学校で学習
1945. 11 中国共産党入党
1948 モスクワ動力学院留学(中国在ソ連留学生總會主席)(～55)
1955 吉林省の豊満水力発電所副所長、同技師長、東北電力調達局局長、遼寧阜新発電所所長
1966 北京電力管理局局長、党委書記
1979 電力工業部副部長
1981. 3 電力工業部長
1982. 3 水利電力部第一副部長
9 党第12期中央委員
1983. 6 国務院副総理(～87. 11)
1985. 6 国家教育委員会主任(～88. 4)
9 党中央政治局委員(現職)、党中央書記処書記(～87. 11)
1987. 11 党中央政治局常務委員(現職)、国務院総理代理(～88. 4)
1988. 4 国務院総理(現職)、国家経済体制改革委員会主任(～90. 9)
(現職)

3. 訪日歴

1984. 8 外務省賓客
1989. 4 公式訪問

4. 家族構成

朱 琳(夫人) 1933年生(上海市)。55年ハルビン外国語学院ロシア語学科卒業。84年、華北電力管理局から広東の大亜湾原子力発電所に招聘され、現在は広東原子力発電合営有限公司取締役兼北京事務処主任。また、対外友好協会理事、婦女発展基金会理事も務める。
李小鵬(長男) 1959年生。82年華北電力学院卒業、現在はエネルギー部電力学科研究院の技師。
李小琳(長女) 1961年生。89年清華大学電力学科の修士課程終了後、北京供

電局に技師として就職。

李小勇（次男） 1963年生。15才で軍隊に入り、現在人民解放軍の少佐。

5. 横顔

- (1) 父親・李碩勲氏は中国共産党早期の党員で革命活動家。母親・趙君陶氏は、全国政協委員、北京化工学院副院長を歴任、85年病死。李鵬氏が「革命烈士」の遺児の一人として延安に引き取られ養育された少年時代から、周恩来夫妻の薫陶を受けたことは有名。中央指導部へ若手を抜擢する必要が叫ばれた81年に李鵬氏を強く推薦した陳雲氏の発言等から見て、延安時代はもとよりソ連留学時代から一貫して、今日の党内元老、特に国務院系統の元老から、矚目されて来たことが伺われる。
- (2) 長らく電力部門の仕事にたずさわり、電力工業部長、国務院副総理、同総理代理を経て、88年4月以来国務院総理の職にある。その人柄とも相俟って、従来、経済政策については、バランスと安定を重視する姿勢で一貫。92年1月には、「6・4事件（天安門事件）」以降中国首脳として初めて西側諸国を訪問するとともに、ニューヨークで開催の国連安保理首脳会議に出席。趣味はテニスと水泳。

白清才陝西省省長との御会話のための資料（案）

一、西安は日中間の永きに亘る伝統的交流の歴史の中で特別の地位を占める古都。このたび初めてこの地を訪れ、その美しい自然と世界に誇る文化に接することができたことは、大きな喜び。

二、日中両国の国民が、古来、営々と築き上げて来た国民交流の伝統はかけがえない貴重なもの。西安は、かつて我が国が一千年以上前に奈良や京都に都をつくる時に範としたところ。爾来、我が国より、遣隋使や遣唐使を始めとして多くの留学生がこの地に学び、我が国の文化的発展に大きく寄与。その中には、弘法大師空海や阿倍仲麻呂ら我が国の国民に馴染み深い人々もあり、我が国国民は西安には特別の親しみの情あり。両国の国民が将来に向けてかかる伝統的交流を更に広範なものへと発展させていくことを希望。

三、貴省長は、中国の伝統文化を代表するこの古都西安にあって改革・開放政策を積極的に推進し、かつてシルクロードを通じて全世界に開かれていた唐の都の長安を彷彿とさせるような都市造りを行ってこられたと承知。かかる実績に敬意を表すると共に、貴省政府と国民が陝西省に在住する邦人、陝西省を訪れる邦人に対し示された温かい友情と配慮に改めて感謝。

四、今回の訪問を契機に、日中両国民間の相互理解が一層促進され、国民間の交流と友好協力の関係がこれまで以上に緊密化していくことを強く希望。

(了)

バイ　　チン　　ツァイ

白　清　才

(Bai Qingcai、はく・せいさい)

1. 現　職

陝西省省長、中国共産党陝西省委員会副書記

2. 略　歴

1932

出生(山西省五台)

1949

中国新民主主義青年団入団

1955

中国共産党入党

その後、中国人民銀行山西省分行係長、山西省計画委員会弁公室主任、中国共産党山西省委員会財貿政治部副主任、晉東南地域党委員会書記を歴任

1983

山西省副省長

1985

中国共産党山西省委員会常務委員

1990

3 中国共産党陝西省委員会副書記 (現職)

4 陝西省省長 (現職)

黄菊上海市長との御会話のための資料（案）

一、上海は中国の推進する改革・開放の最前線にある国際的大都市。このたび初めてこの地を訪れ、その活気溢れる街並みと新たな発展の息吹きに接することができたことは、大きな喜び。

二、日中両国の国民が、宮々と築き上げて来た国民交流の伝統はかけがえない貴重なもの。上海は現代中国を代表する近代的大都市として、また、中国経済の活気溢れる中心として、我が国とは主として経済面で太い絆を有してきている。引き続き、両国の国民が将来に向けてかかる交流を更に広範なものへと発展させていくことを希望。

三、貴市長は、この大都市上海にあって、改革・開放の旗手として積極的な政策運営を行い、多大な成果を上げてこられたと承知。かかる実績に敬意を表すると共に、貴市政府と市民が上海市に在住する邦人、上海市を訪れる邦人に対し示されてこられた温かい友情と配慮に改めて感謝。

四、このたびの訪問を通じ、貴国の未来を担う若い世代の人達とできるかぎり接触し、日中両国民間の友好交流の更なる発展について語り合うことを希望。かかる観点から、交通

大学の青年達との会見を特に楽しみにしている。今回の訪問を契機に、日中両国民間の相互理解が一層促進され、国民間の交流と友好協力の関係がこれまで以上に緊密化していくことを強く希望。

(了)

ホアン

チュ

黄 菊

(Huang Ju、こう・ぎく)

1. 現 職

上海市市長、上海市党委員会副書記、浦東開発領導小組組長、党第13期中央委員候補

2. 略 歴

- 1938 出生（浙江省嘉善県）
- 1963 北京清華大学電気機械学部卒業
- 1966 中国共産党入党
- 1967 中華冶金廠副工場長、工程師
- 1979 上海市電気機械局副局長
- 1982 上海市機電第一局副局長
- 1983 上海市党委員会常務委員
- 1985 上海市副市長、上海市党委員会副書記（現職）
- 1986 同常務副市長
- 1987. 11 党第13期中央委員候補
- 1991. 4 上海市市長（現職）

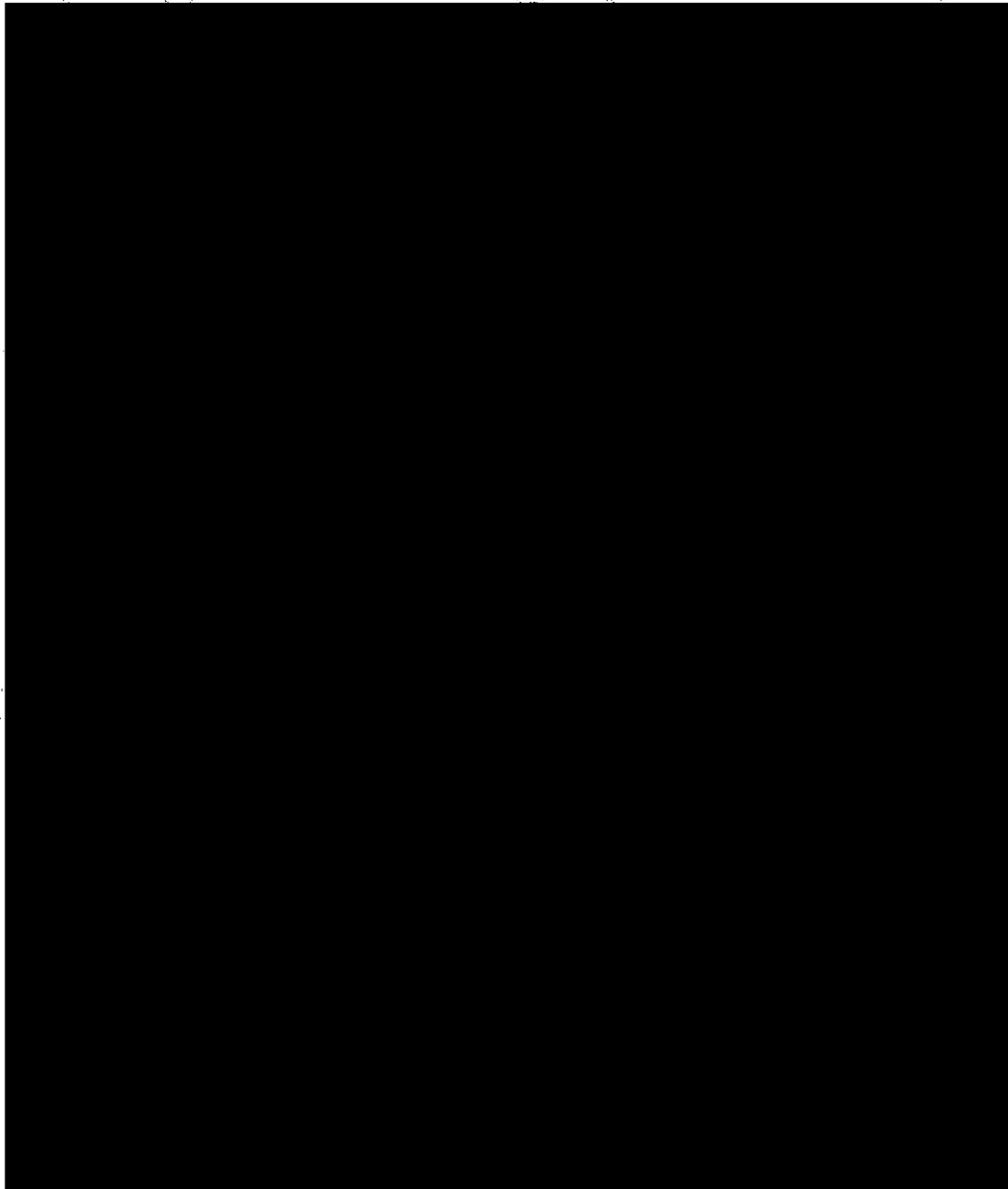
3. 訪日歴

- 1980 日中経済協会の招きで名古屋で約半年間技術研修
- 1990. 10 中国沿海地区市長代表団の団長として訪日
- 1992. 5 大阪府・市の招きで訪日

4. 横 顔

- (1) 1991年4月、朱鎔基・前市長の中央転出（現國務院副総理）に伴い、常務副市長から市長に昇格。朱・前市長と同じ清華大学出身のテクノクラートで、大学卒業後一貫して上海で勤務。中央での経験はないが、常務副市長として江沢民元市長（現総書記）、朱市長に仕えたため、中央とのパイプも太い。性格は誠実・実直。何時も人前では笑顔を絶やさず、部下の意見をよく聴取した上で決断すると云われる。
- (2) 刺身が好物。簡単な日本語を理解し、歌謡曲（十八番は「北国の春」）も日本語で歌える。知日家であり、我が国に対する事案の処理も極めて好意的。仕事も熱心だが、毎週日曜日には虹橋開発区にある市政府所有のジム内でアスレチックに汗を流す習慣がある。
- (3) 上海はかつて東洋の真珠と呼ばれ、租界に立ち並ぶ石造りの建物や瀟洒な洋風建築を訪り、本来市民の親欧米意識は強く、外国投資の導入についても欧米企業に対する期待が強かったが、88年の朱市長の就任以来、とくに、90年の浦東開発政策発表後は、ますます日本に対する期待を強め、日本を重視している。

天皇陛下の中国科学院御訪問の際のお言葉（案）



天皇陛下の橋本大使主催レセプションの際のお言葉（案）

（了）

天皇皇后両陛下御訪中時の話題（案）リスト

92.10.12

中 国 課

1. 北京ご到着日（10月23日）

- 14年前の1978年10月23日、日中両国間で東京において日中平和友好条約の批准書が交換され、同条約が即日発効した。（鄧小平副総理（当時）夫妻が来日し、同日、昭和天皇皇后両陛下が御引見された。）
- 1984年10月23日は、北京において我が国の無償援助により建設された日中友好病院が完成、開院した。
- また、本年10月23日は、秋篠宮真子様のお誕生日。

2. 「中国友好観光年」

中国国家観光局は本年を「中国友好観光年」として海外に積極的にPR活動。中国側統計によれば、本年上半期（1～6月）に海外から中国を訪れた観光客は約307万人で、前年同期比34.1%増。観光に伴う外貨収入も約17億米ドルに達し、前年同期比30.5%の増収。

3. バルセロナ・オリンピックでの中国選手の活躍

前回のソウル・オリンピックと比べ、金メダルが5→16個、メダル総数28→54個と大躍進。金メダルは女子競泳、飛び込み、体操が中心。特に女性の活躍が目立った。

なお、中国は2000年の北京オリンピック開催に向けてキャンペーン中。

4. 「曾侯乙墓」特別展

○ 中国湖北省随州市付近で発掘された、戦国時代前期（紀元前5世紀）の「曾」侯国の統治者「乙」の墓に副葬されていた「編鐘」等青銅器、漆器、玉器、金器の展覧。

○ 天皇皇后両陛下並びに皇太子殿下が本年5月に夫々同特別展を参観されたことは、中国国内でも大きく報じられている。

5. 中国の子供の名前の流行

改革・開放に伴い、中国の子供に洋風の名前が増えているとの中国の国内報道。建国後には「建国」「躍進」、文化大革命の頃は「紅」という名前が増加したが、最近では洋風の名前が特に都市の女の子に目立ち、例えば「安娜（アンナ）」「麗嘉（リカ）」「麗沙（リサ）」等が流行っている。また、洋風化の一方で、一般的な3文字の姓名から4文字化したり、女の子に男の子の名前をつけるとの傾向も見られ、全国的に個性的な名前を求める時代に入ったとの分析。

6. 「フラフープ」の流行

「過ぎし日のスマートさを取り戻し、幼いころの思い出を呼び起こす」とのテレビCMにより、今年の冬から春にかけて流行。ほとんどの小学校が課外活動に取り入れたとの報道もある。中国語で呼拉圈（フーラーチュアン）。

7. 西安・名古屋間の定期便就航

本年10月6日より西安・名古屋間で定期便（中国民航：週4便）が就航。西安と日本との距離が4時間半に大幅に短縮された。（日本側は採算

ベースに乗らない為、当面チャーター便を運航。)

8. 北京市民の寿命

○ 中国の報道では、北京市ではこの10年、生活水準の向上と相俟って、市民の平均寿命が大幅に伸びている。ある資料では90年の北京市民の平均寿命は75.7歳で、81年の71.9歳から3.8歳伸びた。

○ 「中国統計年鑑」によれば、81年の中国全体の平均寿命は男66歳、女69歳。別の資料によれば、85年は男67歳、女70.98歳。

9. 交河故城遺跡保存への協力

○ 交河故城遺跡は、新疆省ウイグル自治区吐魯番（トルファン）市の西約10キロに位置する集落遺跡。シルクロード北道（天山南路）における一大中継地として5世紀から7世紀の中ごろにかけて東西経済・文化交流に重要な役割を果たした。天山山脈から吹き下ろす風と大きな温度の日較差、洪水、観光地化による車両の振動による破壊が進行。

○ 我が国は先般江沢民中国総書記が訪日した際、中国政府の希望する同遺跡の保存につきユネスコ文化遺産保存日本基金より100万ドルを限度として協力する旨の意図を表明した。

10. 敦煌莫高窟への協力

○ 甘粛省の敦煌莫高窟は4世紀から14世紀にかけて造営された仏教遺跡。砂漠の厳しい自然による壁面の崩壊、観光客増加による石窟内の環境の変化等により壁画の損傷が進行。

○ 我が国は「敦煌石窟文化財保存研究・展示センター」に平成3年度より2年間で総額9億7500万円の無償資金協力を行うこととしている。

11. 上海市民の「新三種の神器」

○ 中国ではかつてラジオ、自転車、ミシン、腕時計が「四種の神器」と呼ばれ、民衆の人気耐久消費材のベスト・フォーを占めていたが、現在では、カラーTV、冷蔵庫、洗濯機、ラジカセが「新四種の神器」と呼ばれている。

○ ところが、消費社会化で一步先行している上海では、今やビデオ、カラオケ、クーラーが「新三種の神器」として、上海市民の憧れの的となっている。

(了)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

秘

電信写

08-027

大 政事外外官
大 務務 典房
臣 秘官官審審長長

北 経環査官 外
大 大ア察括房 研
使 大審審審 長

口対文厚情研

察人電在警史オ

外 報官
審 内

文 長
審 二

参政保因旅外

東
北東西

北米長
審一二保地

中南長
参一二

欧 審西口洋
西東

審一二アア
一二

次総経途
参経漁国

経エ国
安ネ二

参海 審準

審国開無
審調技有理

審条協規

審政経人
参軍社

科 科原

審情析調
企安

総 番 号 R 2 1 2 8 5 8

主 管

月 2 0 日

中 国 発

儀

平成 4 年 1 0 月 2 0 日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

EEV (お言ば原こう)

第4070号 秘 大至急

20日、外交部れい賓司より当館に対し、ヨウ・ショウコン主席主催かん迎ばんさん会の際のてん皇へい下のお言ば原こうにつき、事前に中国側に中文200部、英文50部、日文20部を提供方願いたき旨申し越した。

ついては、右原こうについては、日・英・中文各200部を御用意して来る由なるも、右要請にもかんがみ、日・中文各100部増やし各300部、英文については200部のまま御用意願いたく、23日到着時、当館チョウ魚台国賓館内ロジ室担当官（エンドウ研修員）に手交願いたい。

上海に転電した。（了）

秘

※総第12852号001公館宛

平成 12 年 10 月 26 日 秒受付

電 信 案

電信課長

大臣
秘書官
政務次官
事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長

主管

中国課長
首席事務官

総務班

210-泉
23

※発電係

1

2

起案

平成 4 年 10 月 24 日

起案者

電話番号

高田 2428

協議先

主管変更事務
処置済、電信課

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中国

大使
総領事

あて

外務大臣 発

件名

天皇皇后両陛下のご訪中(お言葉)(主管変更)

主管・文書記号

亜 中

※電番

第3276号

大至急

至急

普通

(優先処理)

パターン・コード

転電

転送 在

転報

※転電番号

大使・総領事あて

大至急

至急

普通 (優先処理)

貴電第4149号の主管課をアジア局

中国課長に変更した。新パターンコードは

(13)

※

11285254

普通

YUUGOKU

漢

GB-1

外務省

回覧番号

1729

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

族抄

楊尚昆国家主席主催晩餐会における答辭

楊尚昆国家主席閣下、ならびに御列席の皆様
今夕は、私共のために、このような宴を催していただき、また、ただ今は楊尚昆主席閣下から、心温まるお言葉をいただき、厚くお礼申し上げます。

貴国と我が国との交流の歴史は古く、特に、七世紀から九世紀にかけて行われた遣隋使、遣唐使の派遣を通じ、我が国の留学生は長年中国に滞在し、熱心に中国の文化を学びました。両国の交流は、そのような古い時代から長い間平和裡に続き、我が国民は、長年にわたり貴国の文化に対し深い敬意と親近感を抱いてきました。私自身も年少の頃より中国についての話を聞き、また、本で読むなどして、自然のうちに貴国の文化に対する関心をもってきました。子供向きに書かれた三国志に興味を持ち、その中に出てくる白帝城についての「朝辞白帝彩雲間」に始まる李白の詩を知ったのも少年時代のことでありました。

また、今世紀に入ってから、貴国の有為の青年が数多く我が国を訪れるようになり、人的交流を含む相互の交流は一層活発なものとなりました。私は、このような両国民間の交流の伝統をかげがえない、貴いものと考えます。

このような深い関係にある貴国を、この度、主席閣下のお招きにより訪れることができましたことは、私共の深く喜びとするところであります。

しかし、この両国の関係の永きにわたる歴史において、我が国が中国国民に対し多大の苦難を与えた不幸な一時期がありました。これは私の深く悲しみとするところであり、戦争が終わった時、我が国民は、このような戦争を再び繰り返してはならないとの深い反省にたち、平和国家としての道を歩むことを固く決意して、国の再建に取り組みました。爾来、我が国民は、世界の諸国との新たな友好関係を築くことに努力してまいりましたが、貴国との間においては、両国の先人たちははじめとする多くの人々の情熱と努力によって、将来にわたる末長い平和友好を誓い合う関係が生まれ、広範な分野での交流が深まりつつあります。私はこのような両国民間の関係の進展を心から喜ばしく思うとともに、この良き関係がさらに不動のものとなることを望んでやみません。

今日、国際社会は、人類の平和と繁栄の達成という崇高な理想に向けて共同の努力を行っておりますが、この中であって、日中両国民の友好親善関係の進展は、大きな意義を持つものと信じます。

本年は、日中国交正常化二十周年という両国間における大きな節目の年にあたり、両国民の間で、相互理解と友好親善を目指して様々な行事が行われております。貴国からは、江沢民総書記閣下ならびに万里委員長閣下が我が国を御訪問になり、両国間のきずなをより太くより強いものとするに貢献されました。この度の私共の貴国訪問が、このようなきずなに結ばれた両国民にとり、お互いに良き隣人として将来に向かって歩む契機となれば誠に喜ばしく思います。

私共は北京のほか西安と上海を訪れることになっております。西安では、かつて我が国から、航海の危険を冒しつつ唐に渡り、長安で中国の文化を学んだ遣唐使や留学生の労苦をしのびつつ、貴国の歴史に触れたいと思います。また、上海では、貴国の新たな発展の息吹に触れることができるでありましょう。私共は、このたびの訪問において、できるだけ多くの若い人々にも接する機会を得たいと考えております。両国の若い世代は必ずやこれまでの伝統的な交流の歴史を継承し、これをさらに豊かな心の交流として発展させていくにちがいありません。

北京の秋の美しさは多くの人によって語られてまいりました。この美しい季節にこの地を訪れる機会をえましたことを私共は心よりうれしく思っております。

楊尚昆国家主席閣下、ならびに御列席の皆様

ここに日中両国民間の友好親善の発展を念じますとともに、楊尚昆主席閣下の御健勝と貴国の繁栄、そして貴国民の幸せを祈って杯を挙げたいと思います。

(Provisional Translation)

Your Excellency President Yang Shangkun,
Distinguished Guests:

I am deeply grateful to you for holding such a banquet for us this evening, particularly for the heartwarming remarks of His Excellency President Yang Shangkun.

There is a long history of exchange between our two countries. Especially from the seventh to ninth centuries, the dispatch of envoys from Japan to the Sui and Tang dynasties enabled Japanese students to stay in China for many years and learn earnestly Chinese culture. Exchanges between our two countries continued in peace for long since such ancient times, and the Japanese people entertained profound respect and a feeling of affinity for Chinese culture. Since I was small, I have heard about China, read books and naturally developed an interest in its culture. It was when I was a young boy that I took an interest in the Romance of the Three Kingdoms written for children and learned a poem of Li Bai on the castle of Baidi, one of the scenes of this Romance, beginning with the words, "Baidi amid its rainbow clouds we quitted with the dawn", contained in that book.

Since the beginning of this century, promising young people of your country started to come over to Japan in large numbers and person-to-person and other mutual exchanges became ever more active. I deem the tradition of such exchanges between our peoples to be invaluablely precious.

It gives us great pleasure that we have been able to pay a visit to your country, so deeply related to ours, at the cordial invitation of His Excellency the President.

However, in the long history of relationship between our two countries, there was an unfortunate period, in which my country inflicted great sufferings on the people of China. I deeply deplore this. When the war came to an end, the Japanese people, believing with a sense of deep reproach that such a war should never be repeated, firmly resolved to tread the road of a peaceful nation, and addressed themselves to national reconstruction. Since then, they have endeavored to build up new friendships with countries of the world. With your country, there has emerged a relationship of mutual commitment to everlasting peace and friendship for the future, thanks to the enthusiasm and efforts of forerunners and many other people concerned of the two countries; and there are between them ever deepening exchanges in broad fields. I am heartily pleased at such a development of relations between our peoples and earnestly desire that such happy relations become immutable.

Today, the international community is engaged in joint efforts of nations for the realization of the supreme ideal of the peace and prosperity of mankind. I believe that the advancement of the relations of friendship and goodwill between our peoples is of great significance in these efforts.

This year marks the 20th anniversary of the normalization of relations between our two countries, a significant milestone in their mutual relations. There are various events held by our peoples for better mutual understanding, friendship and goodwill. We had the pleasure of welcoming to Japan His Excellency General Secretary Jiang Zemin and His Excellency Chairman Wan Li, who made great contributions to enlarging and strengthening the ties between our two countries. I should be very happy if our current visit to your country would serve as an occasion for our two peoples, so bound by such ties, to make a stride for the future as good neighbors to each other.

We are going to visit Xian and Shanghai, besides Beijing. In Xian, I hope to observe for myself some part of your history, recalling the toil of the Japanese envoys to the Tang dynasty and students who crossed the sea risking the dangers of voyage to come to Tang and study Chinese culture at Changan. In Shanghai, we shall be able to feel the emanation of energy for the new development of your country. We wish to have an opportunity to come in personal contact with as many young people as possible during these visits. There is no doubt that new generations in our countries will not fail to inherit the history of the tradition of exchanges and develop them into richer heart-to-heart exchanges.

The beauty of the autumn of Beijing has been told and retold by many people. We are very happy that we have been given the opportunity to visit this capital at this beautiful season.

Your Excellency President Yang Shangkun,
Distinguished Guests:

I now wish to raise my glass and drink to the development of friendship and goodwill between the peoples of our two countries, to the health of Your Excellency President Yang Shangkun, to the prosperity of your country, and to the well-being of your people.

天皇陛下在杨尚昆国家主席

举行的晚宴上的答词

(一九九二年十月二十三日)

杨尚昆国家主席阁下以及在座的各位：

承蒙主席阁下今晚为我们举行如此盛大的宴会，刚才杨尚昆主席阁下又发表了热情洋溢的讲话。我谨表示深切的感谢。

我国和贵国的交流历史悠久，特别是通过七世纪到九世纪之间派遣的遣隋使和遣唐使，我国留学生长年在中国逗留，专心学习了中国文化。两国的交流从古代开始，得到了长期和平的持续。我国国民多年以来对贵国的文化抱有深深的敬意和亲切的感情。我本人也从少年时代开始听到有关中国的介绍，看到一些有关书藉，自然而然地关心贵国的文化。当时我对为儿童编写的三国志感兴趣。书中引用李白的一首描写白帝城的诗，以“朝辞白帝彩云间”为开头，也是我在少年时代学习的。

到本世纪以后，贵国很多有为的青年来访我国，包括人员往来在内的彼此交流更加活跃。我认为这种两国国民间的交流传统是无比宝贵的。

此次承蒙主席阁下的邀请，能访问具有如此深远关系的贵国，我们感到十分高兴。

但是，在两国关系悠久的历史，曾经有过一段我国给中国国民带来深重苦难的不幸时期。我对此深感痛心。战争结束后，我国国民基于不再重演这种战争的深刻反省，下定决心，一定要走和平国家的道路，并开始了国家的复兴。从此，我国专心致力于建立与世界各国之间的新的友好关系。在同贵国的关系上，通过两国前辈们等许多人士的热情努力，建立了要永誓和平友好的关系，两国在广泛领域交流正在不断加深。我对两国国民之间关系取得了这样的进展感到由衷的喜悦，同时衷心希望这种良好的关系进一步发展成为不可动摇的关系。

今天，国际社会为达成人类和平与繁荣的崇高目标正在进行共同的努力。我相信，在此情况下，日中两国国民增进友好亲善关系具有重大意义。

今年正值日中邦交正常化二十周年，在此两国关系继往开来的年头，为增进相互理解和加强友好亲善，两国国民之间正在进行各种各样的活动。贵国江泽民总书记阁下和万里委员长阁下相继访问了我国，为进一步扩大和加强两国间的友好纽带做出了贡献。此次我们访问贵国，如能作为一个契机，使以此友好纽带连接在一起的两国国民作为良

好邻居向着未来共同迈进，我将感到无比高兴。

我们除北京以外还将访问西安和上海。在西安，我希望一面缅怀当年遣唐使和留学生冒着航海的危险来到大唐，在长安学习中国文化的艰难历程，一面接触贵国的历史。此外，我相信还可在上海感受到贵国新发展的气息。通过这次访问，我们还希望和尽量多的年青人有接触的机会。两国年青一代一定会继承以往交流的传统历史，并使它发展成为更丰富多采的心灵间的交流。

北京秋天风景之美是许多人所赞扬的。我们能有机会在此美丽季节访问此地，衷心感到高兴。

杨尚昆国家主席阁下以及在座的各位：

我谨在此举杯，

为祈念日中两国国民之间友好亲善的发展，

为祝愿杨尚昆主席阁下的健康和贵国的繁荣，

为贵国国民的幸福，

干杯。

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

琴

電信写

08-055

因政事外外儀直
大務務典房
次次
臣秘官官審審長長

外研長
官房審
査官
査察大
環了大
經大使
北大
大使

研情厚文對口總

才史醫機在電人察

報官 外

區長 審日二

移長 参(保)旅外

東二
西

米長	地保二一審
----	-------

中南長

洋口西審
一
東西

近ア巨

途經總次
國准經次

長 一 工 一 国
經 不 二
安

参海	番準
----	----

審 協 長	無 開 國 國 審	理 有 技 調 審
-------------	-----------------------	-----------------------

長	規協案審
國	人絳政審

長	參軍社
科	科原

	審情析調
--	------

氏. 氏.

総 番 号 R217134

月 24 日

平成 4 年 10 月 24 日

外務大臣殿

中 国 発

本 省 着

橋 本 大 使

主 管

儀中

でん皇皇ごう両へい下の御訪中（お言ば）

第4149号 秘 大至急

往電第4092号に関し、

てん皇へい下のお言ばに関し、23日よるのかん迎えんで同席したブダイ・アジア局次長（日本処長兼任）よりタлуй中国課長に対し、自分（ブ）は、20年来一かんして日本を担当してきたが、このたびのへい下のお言ばの内容は素ばらしいものであり、これまでの日本側指導者のスピーチの中で最も感動した。中国の民衆は必ず心を動かされるだろう旨述べるところがあつた。（了）

陛下への謝罪要求

警備
反対

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-027

大 政事外外官
大務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

北経環査官 外研長
大大ア察括房
使使大審審審

対文厚情研

察人電在史オ

外報官 審内四ブ

文長 審二

移長 参政保旅外

長 東
北東西

北米長 審一二保地

中南長 参一二

欧 審西口洋
西東

近ア長 審一二アア
一一

経 次総経途
参経漁国
経エ国
安ネ二

参海 審準

経協長 審国開無
審調技有理

条長 審条協規

国 審政経人

長 参軍社

科審 科原

情調長 審情析調
企安

総番号 R216126

月 23日

平成 4年 10月 23日

上 海 発

本 省 着

主 管

儀

外務大臣殿

蓮見 総領事

EEV (警備:デモ)

第504号 秘 大至急

(以下FAX送信 SH0054-01)

秘

22日、香港文汇报記者某（北京で十四党大会を取材、帰途上海に立ち寄ったもの）が、当地出張中の大嶋に対し、北京大学の学生が天皇陛下御訪中の折にデモを予定していると聞いたが、当局はすでにその動きを察知しており混乱はなかろうと述べていた。御参考まで。

と云ふ、

中国、香港に転電した

(了)

追配

注意

1. 本電の取扱いに慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-015

大 政事外外儀官
大 務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

北経環査総官 外
大大ア察括房 研
使使大審審審 長

総口対文会厚情研

察人園在警史オ

外 報 官
審 報 際 内 外

文 長
審 一 二

移 長
参 政 保 対 旅 外

参 地 東
参 北 東 西
一

北 米 長
審 一 二 保 地

中 南 長
参 一 二

欧 審 西 口 洋
四 東
二

近 ア 長
審 一 二 ア ア
一 二

経 次 総 経 途
参 経 漁 国
一 経 エ 国
長 安 ネ 二

参 海 審 準

経 協 長
審 政 国 開 無
審 調 技 有 理

条 長
審 条 協 規

国 審 政 経 人
長 参 軍 社

科 審 科 原

情 調 長
審 調 調
企 安

総 番 号 R184992

月 14日

平成 4年 9月 14日

香 港 発
本 省 着主 管
亜 中

外 務 大 臣 殿

折 田 総 領 事

EEV (20団体による謝罪要求ちん情書の新聞掲載)

第1135号 至急 (ゆう先処理)

往電第1122号に関し、

11日付当地中立系華字紙「明報」は、「日本てん皇は訪中期間中、中国人民に対し公開謝罪せよ」と題し、
てん皇へい下の御訪中に際し以下の2点を求める、ホンコン教育専門人員協会やホンコンさく償協会をはじめ
めとする20団体連名による公開ちん情書を、1ページ全面を用いて大きく掲載しているところ、報告申し
上げる。(同ちん情書別FAX信)

1. 中国人民に対し中国侵略の罪行を認めると共にてい重に謝罪せよ。
2. ホンコン及び海外華きようを含めた日本侵略時のひ害者に対し賠償せよ。

別FAX信と共に中国に転電し、本電のみ英及び在中国3総領事館に転電した。(了)

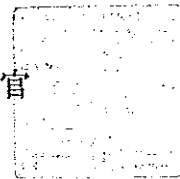


宮内式発第 1243 号

平成4年10月 6 日

外務省御訪問準備室長 殿

宮 内 庁 式 部 官



天皇皇后両陛下の中国御訪問中の御動静に関する連絡に
ついて（依頼）

天皇皇后両陛下の中国御訪問中の御動静に関する現地在外日本
公館からの報告については、お手数ながら、貴省で電信を受信し
たときは、写8通を当職に回付してくださるよう、お取り計らい
願います。

入国及び出国の御発着並びに御日程の変更等重要かつ緊急を要
すると認められるものについては、勤務時間中は本多式部官へ、
時間外は当庁当直主管あて電話で御連絡願います。

備考 電話番号 宮内庁 (3 2 1 3) 1 1 1 1

式部官 (本多) 内線 4 1 0

同 (朝日) 内線 4 2 5

式部職外事第一係 内線 4 1 2

当直主管 (3 2 1 3) 1111、1112、1252 直通

御発着通知

2

(予定稿)

※総第12101号002公館宛

平成 ※平成 10 10 23 日 秒受付

電 信 案

大至急

電信課長	大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典長 訪中準備室長 首席 総務班長 ロジ班長 会計・庶務班長	※発電係 1 2 起案 平成 4 年 10 月 21 日 起案者 電話番号 覚田 3041
	協議先 中国課長		

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中国	大使 総領事 あり	外務大臣 発
件名 EEV (輸出発通報)		
主管・文書記号 儀	※電番 第3253号	大至急 至急 普通 (優先処理)
電転送 在 上海	※電番号 第686号	大至急 至急 普通 (優先処理)
1210134 大至急 TYUUGOKU 等002 漢		
GB-1 外務省		回覧番号

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

両陛下御一行は、^本~~予定通り~~23日10時²⁵~~30~~分日本航空特別機
にて貴地に向け~~出発された。~~御発になられた。
上海に転電した。

(了)

②

※総第 114003号002公館宛

平成 4年 10月 28日
1時 35分 43秒 受付

電 信 案

大至急

電信課長

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典長 訪中室長 首席 総務班長 ロジ班長 会計・庶務班長	※発電係 1 ☒ 2 ☒
		起案 平成 4年 10月 21日 起案者 電話番号 覚田 3041
協議先 中国課長		

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中国、上海	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名	EEV (帰到着 通報)		
主管・文書記号	※電番	大至急 至急 普通 (優先処理)	パターン・コード
儀	合第21091号		
転電 転送 在 転報	※転電番号	大使・総領事あて	大至急 至急 普通 (優先処理)
※ 11400363 大至急 TYUUGOKU 等002 漢			
GB-1 外務省			回覧番号

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

両陛下^本~~一行~~は、予定通り28日17時25分日本航空特別機
にて羽田空港に到着~~された~~。

御~~に~~な~~ら~~

(了)

御
動
靜

御
動
靜

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-027

大 政事外外官
大務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

北経環査官
人大ア察括房
使使大審審審 外研長

口対文厚情研

察人電印審史オ

外報官 審内内ブ

文長 審二

修長 参政保旅外

長 東
北東西

北米長 審一二保地

中南長 参一二

欧 審西口洋
西東

戸 審一二アア
二二

経 次総経途
参経漁国
長 経エ国
安ネ二

参海 審準

経協長 審国開無
審調技有理

条長 審条協規

国 審政経人
長 参軍社

科審 科原

情調長 審情析調
企安

総 番 号 R 2 1 6 1 0 5

月 23日

平成 4年 10月 23日

中 国 発
本 省 着

主 管

儀

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

EEV (両へい下の御動せい)

第4141号 大至急

両へい下の特別機は、23日13時40分（北京時間）、北京首都国際空港に無事到着した。

上海に転電した。（了）

注意

1. 本電の取扱いには慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線 2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線 3169）に連絡ありたい。

電信写

08-055

大 政事外外義自

典房
長長
審審
官官
次次
務務
大
臣秘

外研長
自房審
總括審
查察審
環了大
經大使
北大使

◎口対文◎厚情研

才史醫儀在電人察

外報官

二日審

参国保网旅外

東 西
北 東
長

米長 審一二保地

中南
参一二

	洋口西審 一 西東 二
---	----------------------

了長

途二国二
經一漁一
總二
次參
長

参海	審準
----	----

協長
無開國政審
理有技調審

審条協規

国 審政經人
刊 参軍社

科	科原
---	----

審情析調

企安

総 番 号 R217135

月 24 日

平成 4年 10月 24日

外務大臣殿

中 国 発

本 省 着

橋本大使

主管

儀

E E V (御動せい: 23日)

第4150号 秘 大至急

(以下FAX送信 PK1702-04)

加、ソレ手交済 10/24

和上宮內府。元。石原列左官。
省由要配布

秘

「 R I / U d . I

1. 23日、10:30、羽田空港を予定通り離陸した御召機は、順調に飛行を続け定刻の当地時間（以下同様）13:40に、北京首都空港（旧飛行場）に到着した。

2. 本使及び魯培新礼賓司長が天皇皇后両陛下をお迎えするため機内に入り、両陛下は、同司長の先導により御降機になられた。両陛下は、御降機の後、機側で中国側の女性より花束をお受けになり、首席接待員夫妻である宋健國務委員兼科學技術委員會主任及び王雨生夫人、徐敦信外交部副部長、楊振華駐日大使夫妻、王英凡アジア司長等中国側要人、当館館員夫妻、日本人会・商工會議所代表夫妻、日本人学校校長夫妻の歓迎や、日の丸の小旗を手に歓声を挙げて両陛下をお出迎えする日本人学校全生徒約270名の熱烈的な歓迎を笑顔でお受けになり、当初の予定に若干遅れて13:57、空港を御出発になった。市街に向かう沿道では両陛下を拝見しようとする北京市民の姿が続いた。

3. 14:37、宿舎である釣魚台国賓館18号楼に御着。前庭広場の道路沿いに鼓笛隊や花束を持った児童の賑やかな歓迎を受けられ、両陛下は、玄関前で児童に歩み寄られお言葉をおかけになった。宿舎御着早々、中国の子供たちと暖かく接せられたことは、両陛下のお人柄を中国側に深く印象付けられたようであった。

秘

PK1702 2

4. 両陛下は、館長の御案内で部屋にお入りになり、御少憩の後、15:50、歓迎式典御出席のため人民大会堂東門外広場に向け御発。若干風が強く肌寒い気候ではあったものの「北京秋天」といわれる通り、快晴の日和の下、16:00より歓迎行事に臨まれた。楊尚昆主席のお出迎えののち、中国の児童より花束の献上を受けられ、ついで中国側要人の紹介をお受けになり、陛下は、楊尚昆主席とともに観閲台に登られた。君が代、次いで中国国歌である義勇軍行進曲が演奏される中、21発の礼砲が前方の天安門広場より轟いた。陛下は、儀仗兵を閲兵、その後、楊尚昆主席とともに軍楽隊、大使館員夫妻の前を歩まれ再び観閲台に登られた。更に三軍儀仗隊の観閲行進を閲兵された後、歓迎行事は終了、楊尚昆主席の先導により皇后陛下と御一緒に御会見の場である人民大会堂河北庁に向かわれた。

5. 引き続き16:15過ぎより約40分間、楊尚昆主席との御会見に臨まれた。冒頭楊尚昆主席より両陛下の中国御訪問を歓迎する言葉があり、陛下は楊尚昆主席のお招きへの感謝を述べられたあと、

お話になり、楊尚昆主席は

言及、両陛下は楊主席とは今回が初対面であられたが、終始和やか

な雰囲気の中で日中友好親善に関するお話を交わされた。尚、中国側は、雷潔瓊全人代常務委員会副委員長、宋健接待団長夫妻、錢其琛外交部長、趙撲初政協副主席、楊振亜駐日大使夫妻他が同席した。

秘

PK1702 3

6. 両陛下は一旦釣魚台にお戻りになり、18:30より人民大会堂における楊尚昆主席主催の歓迎晩餐会に臨まれた。冒頭、新疆庁で晩餐会に出席される日中関係に尽くした中国関係者と約15分御歓談になった [REDACTED]

[REDACTED] 西大庁で開かれた晩餐会は約100名の招客が出席し、華や
いだ中に開宴した。冒頭両国国歌演奏の後、楊尚昆主席より歓迎のスピーチ、天皇陛下よりお言葉があった。お言葉の後で席にお戻りになられた陛下に対し楊尚昆主席より「暖かいお言葉に感謝します」との謝意の表明があった。御食事の間、楊尚昆主席と中国料理、日中両国の文化のつながり及び陛下の御専門である魚類等につき歓談された。また、中国人民解放軍軍楽隊によって日本（北国の春、四季の歌等）及び中国の楽曲の演奏や女性歌手の独唱が行われた。会場に皇后陛下が作詩された「合歓の木の子守歌」及び両陛下御成婚を記念して団伊玖磨氏が作曲した「祝典行進曲」が流れるとひととき大きな拍手が沸き上がった。食事は人民大会堂が用意した特別の中華料理メニューであり、特級のマオタイや中国で作られた赤・白ワインが添えられた。和やかで心暖まる宴会は20:11、つつがなく終了。両陛下は、楽団の方にお進みになり演奏のお礼を述べられ団員たちと御一緒に記念写真に應じられた。20:35、両陛下は宿舎に戻られた。なお、宿舎への車中で陛下は [REDACTED] 述べられたのに対し

し、宋主任は [REDACTED] 応答、また、 [REDACTED]

[REDACTED] を紹介した。

秘

PK1702 4

7. 以上、初の御訪問地である中国北京での初日の行事を全て順調にこなされた両陛下は、お元気であらせられる。尚、人民日報は本日（23日）付け第1面に両陛下のお写真とともに両陛下の中国御訪問を御経歴とともに報じている他、中央電視台（中央テレビ局）は19:00の全国ニュースのトップで約5分間にわたり天皇皇后両陛下の北京御到着、釣魚台御到着、歓迎式典及び楊尚昆主席との御会見の模様を伝える等、当地の両陛下御訪問を非常に重視していることが見受けられた。

上海に転電した。（了）

4882 06/08 P01 R217477

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-055

因 收學外外養自

大務務典
臣秘官官審審長長

外研長
自房審
總括審
查察審
環ア大
經大使
北大使

研情厚文对

才史醫鑑在電人察

外報官

二日審又

長	
長	参國保對旅外

東亞地圖

長 | 西東北

米長	地保二一審
----	-------

中南長 参一二

	洋口西審 東西
長	

審一二アア
一 二

途經一國二
經一國二
總經一國二
次經一國二
參經一國二
長

参海	審準
----	----

協 長	無開國改審
	有理技術調審

審	審条協規
---	------

国	審政經人
長	参軍社

科密	科原
----	----

審情析調

企安

総 番 号 R217477

月 25日

平成 4 年 10 月 25 日

中 国 発
本 省 着

主管

儀

外務大臣殿

橋本大使

EEV (御動せい: 24日)

第4166号 秘 大至急

(以下FAX送信 PK1713-04)

4166号 } → 中国译名通
4167号 } 總理秘書官
官房長官秘書官
仁年文清

秘

往電第 4150 号に関し、

1. 24日、天皇皇后両陛下は、北京滞在2日目の朝をお迎えになり、朝食をお部屋でとられた後、9:30、宿舎の釣魚台を御出発になられ、約1時間後、市内から約75km離れた西北郊外の万里の長城（八達嶺）にお着きになった。御案内の陳希同北京市長が両陛下をお迎えし、入口より向かって右側の通称女坂と呼ばれる坂を登られた。北2楼から北3楼の間まで登られる予定であったが、やや強い風の吹く肌寒い気候にも拘らず北3楼を更に越えた100m程度先のところまでおいでになった。陳希同北京市長より、
との
話があった。現場は芸術節の期間にあたり色とりどりの旗が立てられ、快晴の青い空の下、強い風に煽られて自然の中に聳え立つ万里の長城の威容を際立たせていた。両陛下は、約40分間にわたり、陳市長や陳仁八達嶺井事処主任の御説明をお受けになりながら、雄大な風景を御覧になったり、見学の中国人にお声をおかけになった。

2. 万里の長城への往路、陛下は宋健主任と
を交わされた。

3. 両陛下は、12:10、予定時刻通りに本使公邸に到着され、2階で御少憩の後、公邸中庭にて本使の紹介により大使館員夫妻約100名の御引見に臨まれた。両陛下は、お

秘

一人お一人に丁寧にお声をかけられた後、公邸食堂にて本使夫妻主催の内輪の昼食会に出席され、13:40、公邸を御出発、釣魚台にお戻りになった。

4. 午後は、天皇陛下と皇后陛下が夫々別の場所を御訪問される日程であった。天皇陛下は、15:00、釣魚台を御出発、中国科学院に向かわれた。5分後、同院に御到着。周光召院長他のお出迎えをお受けになり、御引見場所である2階食堂に向かわれた。同場所にて院長から科学者であられる陛下の中国科学院御訪問を歓迎申し上げ、

陛下か

らも、院長の発言を受けたお言葉（別電）があった。

その後、陛下は会場に集まった約25名の各分野の科学者の御紹介を受けられた後、専門分野の科学者とお話を英語で交わされた。陛下は各学者のお話を御熱心にお聞きになり御歓談は和やかな雰囲気に入れられ約50分行われた。御歓談の際には、学問上旧知の古脊椎動物・古人類研究所所長の張弥曼教授との再会も実現し、旧交を暖められた。御歓談終了後、2階エレベーター・ホールにて同教授の解説により化石等の標本を御覧になり、ビクターズ・ブックに御署名の後、中国科学院を後にされた。なお、陛下は、科学院に対しENCYCLOPEDIA OF JAPAN及び魚類大図鑑をお贈りになり、科学院からは

の献上があった。

5. 一方、皇后陛下は、15:05、釣魚台を御出発、15:15、北京北海幼稚園を御

秘

PK1713 3

訪問された。日本の歌が流れる中、100名を越す園児の歓迎をお受けになり、また、予定にはなかった朱琳女史（李鵬総理夫人）が皇后陛下をお迎えした。応接室にて毛蔚園長代理の概況御説明をお聞きになった皇后陛下は、ビクターズ・ブックに署名され園内を御案内しようとお迎えに来た園児とともに応接室を出られ寄宿楼で音楽室、工作室を御覧になった。音楽室では中国の子供が中国語で、日本の在園児が日本語で皇后陛下に曲目を御紹介し、李鵬夫人の係娘を交えての中国と日本の遊戯（おもちゃの兵隊、赤とんぼ、幸せなら手をたたこう等）を御覧になった。紙細工をしている工作室にはこの度皇后陛下から贈られた電子オルガンが置かれ、保育が弾く曲が流れていた。皇后陛下は李鵬夫人と御一緒に園児の手をつないで更に庭を経て親蚕壇（清朝の建物でかつて皇后が蚕に桑を与える儀式を行った場所）の前庭で園児たちの社会生活活動を御覧になり子供たちの輪に加われた。子供たちは活発に皇后陛下にお話をし、皇后陛下はおやさしくこれにおこたえになり、また、御質問されていた。終始李鵬夫人から園長代理とともに御説明を申し上げていたのが印象的であった。御予定を10分超過し幼稚園を御覧になった。

6. 両陛下は、17:00過ぎより約40分間御宿舎である18号楼大応接室にて李鵬総理夫妻の御引見に臨まれた。同総理夫妻は89年4月、公賓として訪日した際に両陛下とお目にかかっており、当時の思い出に言及しつつ和やかな雰囲気の中で両国の友好親善につきお話を交わされた。

7. 夜、両陛下は、釣魚台芳菲苑にて開催された江沢民総書記主催の晩餐会に御出席され

秘

た。18:30より約30分晚餐会開始の前に芳菲苑の応接室で天皇陛下は江沢民総書記と御歓談になり、4月に同総書記が公賓として訪日した際のことや本日おいでになった八達嶺長城のお話等交わされた。皇后陛下は19:00前、芳菲苑に御着、江沢民総書記のお出迎えを受けられ陛下と御一緒に晚餐会に臨まれた。晚餐会は、19:00過ぎより、20:40頃まで和やかに行われた。江沢民総書記との間では日中文化の相似、東洋文化と西洋文化の差異から唐詩・宋辞等の古典文学、仏教、科学技術等親しくお話を交わされた。また、江沢民総書記は今回両陛下が訪問される西安や上海についてもお話した。料理は海苔ばめの巣スープ、田鰻、鍋等多彩な料理が宴席を飾った。なお、当該晚餐会は1日目(23日)の楊尚昆国家主席主催歓迎晚餐会に加え、中国側の希望によりアレンジされたものであり、中国側の両陛下を歓迎する強い熱意が表れたものであった。晚餐会の終わりに当たり、江沢民総書記より、今夕は大変楽しく過ごせた旨感謝の意が示されたのに対し、両陛下よりも楽しい晚餐であった旨の謝意が述べられた。

8. 本日は、郊外の万里の長城御視察に始まりハードなスケジュールであったが、両陛下にはお疲れの御様子もなく御健康である。

24日付人民日報は1面トップの他4面、6面及び7面において両陛下の当地第1日目の御日程等を大々的に報じている。

上海に転電した。(了)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-055

因 政里外外自
大務務 典房
次次 臣秘官官審審長長
北経環査 外
大大ア察括房 研
使使大審審審 長

総口対文会厚情研
察人国在留留史オ

外報官 審二

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

長 参保旅外

総番号 R217478

月 25日

平成 4年 10月 25日

中 国 発
本 省 着

主 管

儀

外務大臣殿

橋本大使

EEV（御動せい：24日）

第4167号 秘 大至急

（以下FAX送信 PK1714-02）

秘

(二八〇字)

往復 4166 号別便

天皇陛下の中国科学院におけるお言葉の通り。

この度、中国科学院を訪問し、皆さんとお会いすることができましたことを大変うれしく思います。

中国の科学が古い時代に極めて高い水準に達していたことは、江沢民総書記閣下から今春訪日の際に頂きました地動儀の模型によって深く理解されるところであります。日本は中国の科学を長年にわたって学んできました。八世紀の聖武天皇の遺品が収められた正倉院には唐から伝来した薬が当時の姿を今に残しています。

しかし、残念なことに近世における科学の進歩は、孤立していた日中両国共、ヨーロッパのそれに数歩を譲るものでありました。

このような科学史を振り返ってみると、自然界の真理を探求する科学においては国境

秘

(三八〇字)

を越えて世界の学界が交流することが非常に重要なことに思われます。私自身魚類の研究をしている中でそのことをしみじみ感じております。人類のために地球の環境を良い状態に保つことが求められている現在、世界の人々が情報を交換しつつ、密接に協力し合うことを心より念願するものであります。

今日、日中の科学界の交流や協力が日増しに盛んになってきていることは誠に喜ばしいことではありますが、今後さらに奮み、世界の科学界の発展に寄与するよう望んでやみません。

上海に転電した。

(3)

注意

1. 本電の取扱いには慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線 2 1 7 1、2 1 7 4）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線 3 1 6 9）に連絡ありたい。

電信写

08-027

大 政 事 外 外 官
大 務 務 典 房
臣 秘 官 官 審 審 長 長

外研長
官房審
査包括審
査了大
經大使
北大使

◎口对文◎厚情研

才史醫儀在電人察

外報官 審判内務省

文長 審日二

參政保(國)旅外

長

北米長

中南長

歐	審西口洋
長	一西東
	二

審一二アア
一 二

途_二經_一國_二經_一國_二經_一安
參_二經_一漁_二經_一工_二經_一安

参海	審準
----	----

審~~改~~國開無
審調技有理

審條協規

国 審政經人
長 参軍社

科原
科審

審情析調
企安

総 番 号 R217508

月 25 日

平成 4 年 10 月 25 日

外務大臣殿

EEV (両へい下の御動せい)

第4174号 大至急

25日16時12分（日本時間17時12分）、両へい下の特別機は北京を離陸し、西安に向かった。

上海に転電した。(了)

中 国 発
本 省 着

橋 本 大 使

主 管

儀

使 木部中国課首席より
指示があり、幹部FAX
にて関係者に送付済。
(但し、石原官房副長官にマ
ては、明日尙勅静電と比し、爾後
一連の

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-027

大 政事外外官	官
大 務務 典房	典房
次次 典房	典房
臣秘官官審審長長	審審長長
北経環査官	官
人入ア察括房	房
使使大審審審	審審審
外研長	外研長
口対文文厚情研	研
察人国在在史オ	史オ
外報官	審審内内内ブ
文長	審二
長	参政保国旅外
長	東
長	北東西
北米長	審一二保地
中南長	参一二
欧	審西口洋
長	西東
長	審一二アア
長	次総経途
長	参経漁国
長	経エ国
長	安ネ二
参海	審準
経協長	審国開無
審調技有理	
条長	審条協規
国	審政経人
長	参軍社
科審	科原
情調長	審情析調
企安	

総 番 号 R217536

主 管

月 25日

中 国 発

儀

平成 4年 10月 25日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

EEV（両へい下の御動せい）

第4176号 大至急

25日18時20分（日本時間19時20分）、両へい下の特別機は西安カンヨウ空港に到着した。

上海に転電した。（了）

幹部以下に二関係者に
送付済。
(何し、石原官房副長官
に71717 明日一通の御
初静電ととも配席)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-055

因 ④里外外④
大務務 典房
次次 審審長長
臣秘官官
北経環査④ 外
人入ア察括房 研
使使大審審審 長

④口対文④厚情研

察④④④④史オ

④報官 ④④④④④ブ

④長 審④二

④長 参④保④旅外

④長 ④④④東
④北東西

④米長 審一二保地

④中南長 参一二

④長 審西口洋
④西東

④近ア長 審一二アア
④二

④長 次総経途
④参経漁国
④経エ国
④安ネ二

④参海 ④審準

④協長 審④国開無
④審調技有理

④長 審条協規

④国長 審政経人
④参軍社

④科審 科原

④情調長 審情析調
④企安

総 番 号 R217773

主 管

月 26日

中 国 発

儀

平成 4年 10月 26日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

EEV (御動せい: 25日)

第4186号 秘 大至急

(以下FAX送信 PK1727-05)

PK1727 1

往電第 17176 号に関し、

1. 25日、両陛下は、~~朝食後~~、9:00、釣魚台を御発になられ、9:15より~~初~~
~~午前午後~~ 1時間30分にわたり、故宮博物院を御視察になられた。本日は、北
京最後の日を飾るに相応しい好天のまさに「北京秋天」の日和であった。太和門前で御降
車になり劉德有文化部副部長、呂濟民院長の出迎えを受けられ、また、お出迎えの男女児
童2名にも年齢、出身をお聞きになるなど親しくお話をかけられた。太和門を入られ、か
つて皇帝が儀式を行った「外朝」である太和殿、中和殿、保和殿を~~御覧後~~^{更し}、清朝皇帝の
住居・執務室として使われた養心殿を御覧になった。その後、清朝初期まで皇帝の住居・
執務室であった内廷の乾清宮、交泰殿^ニ、坤寧宮を御覧になった。両陛下は、御参観の途中、
中国側の御説明を熱心にお聞きになり、御質問されていた。また、御参観途次~~午後~~
~~午後~~^{午後}の~~午後~~^{午後}の中国人に気軽にお声をかけられた。最後に漱芳齋にて、中国側の特別の計らいによ
り展子虔の「游春図巻」、董源の「瀟湘図巻」、張擇端の「清明上河図」といった中国美
術史を代表する絵画を鑑賞され~~た~~。陛下はこれら絵画の技術的レベルの高さ、保存の良好
さ、日本との繋がり等に言及される等深い印象をもたれたようであった。

2. 釣魚台に一旦お戻りになられた両陛下は、11:15、御発になり、11:45より
中国大飯店で催された本使主催のレセプションに御出席され、日中関係に尽くした関係者
や在留邦人代表を御引見された。前者からは、中日友好協会、元駐日大使、21世紀委員
会、外交学会、元留学生及び両陛下が以前^お御会いになられた^{人々}~~方々~~等関係者約40名、後者

PK1727 2

からは、政府機関代表、JICA専門家、海外青年協力隊、日本人学校、日本人会、商工会議所関係者約30名が配偶者同伴で出席、両陛下の御訪中を歓迎^{（歓迎）}された。天皇陛下は、御引見に先立ち、お言葉を述べられ、日中国交正常化20周年にあたり当地を御訪問された御感想や中国側の暖かいおもてなしを御紹介されるとともに、レセプション出席者の日中友好にかける努力に言及され今後への御希望を述べられた。出席者は一様に陛下のお言葉に深く感動していた。両陛下は、出席者お一人お一人に~~お話を~~親しくお言葉をかけられ~~（お話を）~~
~~（お話を）~~お話を交わされた。御引見はこのような極めて和やかな雰囲気の中で~~（お話を）~~
で行われた。出席者は、御引見の機会を得たこと、及び御引見を通して陛下の誠実なお人柄に触れたことに、みな一様に深い感銘を受けていた。

3. 両陛下は、釣魚台に戻られ~~（お話を）~~御昼食をとられた。尚、皇后陛下は、23日空港より宿舎に向かわれる車中より、宋健主任夫人の説明で外に咲く月季花を御覧になり興味を示されたところ、本日（25日）午後、中国側の取り計らいで~~（お話を）~~皇后陛下の~~（お話を）~~宿舎に月季花の花束が届けられ、皇后陛下は~~（お話を）~~お喜びの御様子であった。

4. その後、両陛下は、昨日（24日）長城への往路の車中にて宋健主任との間で話題となった

秘

PK1727 3

5. 両陛下には、15:00より宿舎の18号楼四季庁で首席随員、首席接伴員夫妻の陪席の下、楊尚昆国家主席のお別れの挨拶をお受けになった。楊尚昆主席より

旨のお話があり、陛下は右を感謝されるとともに

とのお話があった。また、楊尚昆主席より、北京ご

到着より故宮御見学まで ^{北京ご到着から中のお手配まで} ~~お集めた~~ アルバムの贈進があり、楊尚昆主席より長城で

とられた両陛下のお写真を指しつつ、

コメントを受けられしばし御覧になられた。

6. 両陛下は、釣魚台関係者に ^{お別れを述べた後} ~~お別れの挨拶を~~ 楊尚昆国家主席の見送りを ^{受けつつ} 15:20、釣魚台を ~~離れ~~ 御出発になり空港に向かわれた。空港御着後、皇后

陛下は専用車の運転手にも ^{お礼を述べた後} ~~お別れを述べた後~~ 御召機に御搭乗、16:10、北京首都空港を御発、一路古都西安に向かわれた。中国側は宋健首席接伴員夫妻以下、駐日大使夫妻、

魯培新礼賓司長、武大偉アジア司副司長、宋增壽新聞司参事官等幹部接伴員をはじめ約2

5名の中国側関係者も同乗、中国側の両陛下御訪中における力の入れようが伝わってきた。

7. 北京・西安間のフライトは気象の関係でしばしば遅延を余儀なくされるが、良好な天

秘

PK1727 5

報も、両陛下の同日の西安御米訪予定を第1面で報じている。

上海に転電した。(了)

5038 01/08 P01 R218643

注意

1. 本電の取扱いには慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-055

（四）政事外外儀自

大務務典
次次房
臣秘官官審審長長

外研長
自房審
總括審
查察審
環ア大
經大使
北大使

研情厚文對口

才史醫藥在電人察

外報官 番報際因外ブ

二日審

参(因)保(因)旅外

長

米長 審一二保地

中南
参一二

洋口西審	西東
------	----

審一二アア
一 二

途_二國_一 經_二漁_一 經_二工_一 經_二安_一 參_二經_一 次_二經_一 長

参游	案准
----	----

審政	關無
審調	技有

審條協規

国 審政經人
 長 参軍社

科原

調析情審
安企

総 番 号 R 2 1 8 6 4 3

月 27 日

平成 4 年 10 月 27 日

外務大臣殿

中 国 発
本 省 着

橋 本 大 使

主管

儀

EEV (御動せい: 27日)

第4199号 秘 大至急

(以下FAX送信 PK1738-05)

27/10 '92 08:10

780828

XIAN JAP. OFFICE

002

PK1738 I

往電第 4176 号に関し、

1. 26日、中華の朝食を取られた後、両陛下は、ホテル前に待ち受ける市民の歓迎の人波に手を振られ朝9:30に宿舎を出発、本日は終日両陛下御同乗の車列で移動された。
午後には日中友好の
曇天であったが、~~幸い雨は降らず~~順調に御日程を消化された。両陛下の車列は、西安の市街を囲む城壁の門を越え、9:45、~~宿舎~~より真南の方角にある三蔵法師ゆかりの地である大雁塔に御到着された。寛宗方丈のお出迎えをお受けになり、鼓樓と鐘樓の間を抜け、方丈の御説明に~~お耳を傾け~~ながら趙模初の筆になる「大雄宝殿」の文字や、唐招~~来~~寺から贈られた灯籠等を含め、大雄宝殿、方丈殿を御~~参拝~~の後、塔にお着きになり、先ず、昔遺家に珍重されている塔外面の左右に埋め込まれている褚遂良の手になる「大唐三蔵聖教之序」及び「聖教序記」の石碑を御~~見学~~になった。その後、塔の中にお入りになり2階に上られ外に広がる西安の街並み風景を四方から御覧になられた。
2. 大雁塔を御視察にな~~ら~~後、両陛下は、10:30、同地をお発ちになり東隣にある日中合弁ホテルである唐華賓館に向かわれ、10分程度、ロビーの周囲を巡る日本人女流画家田村能望子の作品である大壁画「二都花宴図」を御~~見学~~になった。同壁画は、長安と大和の「二都」の自然と人間を大らかにうたいあげたもので同女史が日中友好のため半年の制作期間をかけ、無償にて寄贈~~された~~ものであるが、両陛下は遣唐使がかつて活躍した古都西安の地に~~御身を置くが~~、日中友好交流の長い歴史に思いを馳せられながら、興味深く壁画を鑑賞されている御様子であった。

秘

27/10 '92 08:11 780828

XIAN JAP. OFFICE

209

PK1738 2

3. 10:45、同ホテルを出発された両陛下は、11:00、かつての孔子廟を利用した陝西省博物館（碑林）に御着。王仁波館長のお出迎えを受けられ、歩を進められながら碑林概要の御説明を受けられ、貴賓室で王館長より著書「隋唐文化」の献上をお受けになった後、ビクターズブックに御署名され展示室の御覧お進みになり、千数百点に及ぶ展示品の中から玄宗、顔真卿、懷仁、虞世南、智永、懷素等著名な書家の石碑を40分程かけ、大変御熱心に御覧になった。また、第4展示室では朱熹の「松鶴図碑」の拓本取りの表演に興味深く御覧になった。中国の書文化に深い感銘を受けられた御様子であった。

12:03、碑林を御覧になった両陛下は宿舎への帰路、沿道に2~3層に並ぶ市民の波に車中より手を振られておこたえになった。宿舎前をはじめ、御訪問の先々で北京を上回る程の人数の歓迎を受けられ、中国側の話でも西安を訪問した各国要人の中でもこれほどの市民が集まったのは初めてとのことであった。

4. 午前の御日程を終えられた両陛下は、一旦御宿舎にお戻りになった中国側接見団長である宋健夫妻と共に和やかに御昼食をとられた。御昼食の席では隋唐時代の様子を中心に当時の諸外国との交流につき話をされた。宋健主任より、

紹介。陛下より

秘

27/10 '92 08:12 780828

XIAN JAP. OFFICE

000

PK1738 4

流が行われたいにしえを偲ばれた。また、鐘樓を中心に建ち並ぶ市街の風景を御覧になると共に、城外に詰めかけた民衆に向かって^か手を振られた。

城上では、更に陝西省で発見された新生物（粘菌体、動物と植物の性質を兼ね備えており、最近陝西省の農村で見つかったもの）を御覧にな^{った。}~~られた。~~陛下は同生物に対し大変興味を持たれ、種々の質問をされた。なお、かかるアレンジは中国側が陛下^がの生物学者であることから急遽手配したものであり、中国側の配慮が^見わかれた。

秘

8. 16:40、御宿舎のハイアット・ホテルに戻られた両陛下は、18:30より同ホテル内2階のボールルームで白清才陝西省省長主催の歓迎晩餐会に臨まれた。和やかな雰囲気の中で会話と料理をお楽しみになりつつ20:30頃まで宴が続き、引き続いて文芸の夕べが同場所で開催され、中国の1級声楽家や演奏家による古典歌曲、琴・琵琶・胡弓等の演奏を30分程^{（お茶をしながら）}披露された。演奏終了後、両陛下は出演者ひとりひとりと握手され労をねぎらわれ、古都西安でのいにしえの調べの余韻が残る中、中国側の御案内によりエレベーターにてお部屋にお戻りにな^{った。}~~られた。~~宴席では陛下は白省長と陝西省の出土文物、パンダやトキ等の希少動物の保護、日中間（特に陝西省と京都）の友好交流等の幅広い話題についてうちとけた会話をされた。また同席の宋首席接伴員とは御専門の魚類や分類学等について熱心にお話をされた。

9. 上記にも触れた通り西安においては、両陛下の車列が通る沿道には多くの民衆が詰めかけており、午前及び午後合わせて推定7万人の人々の歓迎を受けられた。両陛下は、そ

27/10:15

5038 01/08 P06 R218643

27/10 '92 08:12

☎780828

XIAN JAP. OFFICE

PK1738-5

れらの歓迎に車中から手を振ってお応えになり、和やかな雰囲気が出されていた。

尚、当地新聞やテレビは尚陛下の西安御訪問をトップで大きく報じている。

上海に転電した。(丁)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-027

大 政事外外官
大務務典房
次次典房
臣秘官官審審長長

北経環査官 外研
大大ア察括房 長
使使大審審審

対文厚情研

察人 史オ

外報官 審内ブ

文長 審日二

長 参政保旅外

長 東
北東西

北米長 審一二保地

中南長 参一二

欧 審西口洋
西東

長 審一二アア
一二

経 次総経途
参経満国

長 経エ国
安ネ二

参海 審準

経協長 審国開無
審調技有理

条長 審条協規

国 審政経人
長 参軍社

科審 科原

情調長 審情析調
企安

総 番 号 R218905

月 27日

平成 4年 10月 27日

中 国 発
本 省 着

主 管

儀

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

EEV（両へい下の御動せい）

第4205号 大至急

往電第4176号に関し、

27日10時36分（日本時間11時36分）、両へい下の特別機は西安感ヨウ空港を出発した。

上海に転電した。（了）

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-027

大 政事外外官
人 務務典房
臣 秘官官審審長長

北 経環査官 外
大 大ア察括房 研
使 使大審審審 長

口 対文 厚情研

察 人 電 伍 醫 史 オ

外 報 官 審 内 プ

文 長 審 二

長 参 政 保 旅 外

長 東
北 東 西

北 米 長 審 一 二 保 地

中 南 長 参 一 二

欧 審 西 口 洋
西 東

長 審 一 二 ア ア
一 二

長 次 総 経 途
参 経 漁 国

長 経 エ 国
安 ネ 二

参 海 審 準

経 協 長 審 国 開 無
審 調 技 有 理

条 長 審 条 協 規

国 長 審 政 経 人
参 軍 社

科 審 科 原

情 調 長 審 情 析 調
企 安

総 番 号 R218864

月 27日

平成 4年 10月 27日

上 海 発
本 省 着

主 管

儀

外 務 大 臣 殿

蓮 見 総 領 事

EEV (到着通知)

第542号 大至急

てん皇・皇ごう両へい下は、予定通り、本27日12時20分、上海のホンチャオ国際空港に御着になられた。

中国に転電した。(了)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線 2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線 3169）に連絡ありたい。

我

電信写

08-055

因 政事外外露官
大務務 典房
次次 審審長長
臣秘官官

外研長
自房審
總括審
査察審
環ア大
經大使
北大使

◎口对文◎厚情研

才史醫儀在電人察

外報官 番報際因外プ

審日二

參國保對旅外

東
西
北
東

米長	地保二一審
----	-------

中南長	参一二
-----	-----

洋口西審	東西一
------	-----

長
一
審一二アア
ア
一二

長	
短	途經給次

長

參海	審準
----	----

審國開無
審調技有理

審条協規

国 審政經人
 長 参軍社

科原

調査長 審情析調
企安

総 番 号 R220003

月 28 日

平成 4 年 10 月 28 日

上 海 發
本 省 着

主管

儀

外務大臣殿

蓮見 総領事

EEV (御動せい: 27日)

第552号 秘 大至急

(以下FAX送信 SH0127-05)

SH 0127-1

中国発貨大臣宛電報第 4199 号に関し、

1. 昨日(26日)で西安での~~表見~~行事を終えられた両陛下は、27日、^{宿舎お入り}~~朝飯~~後、
玄関で白省長より [] を受け取られた。天皇陛下は、[]
[] お礼を述べられた後、ハイアット・ホテル関係者にひとりひとりねぎらいのお言
葉を^{おかけ}~~述べられた後~~、9:30、ホテル御発^{市内の市道}~~は~~空港へ向かわれた。路上脇の歩道
には昨日にも倍する市民の列が続いた。車中より漢代の陵墓を御覧になられた天皇陛下は、
出土文物等についての白省長の説明に興味深げにお聞きになった。西安は、本日(27日)
も曇天で小雨になりそうとの予報にも拘らず空港まで雨も降らず、白省長以下、25日夕
両陛下をお出迎えした現地中国側要人⁽²⁾~~及び日本側の~~見送りを受け、^お御召機に御搭乗^は
り、10:40、~~名~~~~氏~~~~を~~西安をあとに一路上海に向け御発になった。西安では古都
長安時代の文物を御覧になり、^{日本側の}~~日中の~~長きにわたる友好交流の足跡に触れられるとともに
西安の関係者や市民と直接に接せられ、^お~~極めて充実した内容であったと確信~~。

2. ^お機内にて御昼食をとられ、^お2時間弱の順調な飛行の後、12:20、^お予定通り上海虹
橋空港に御着。当地上海は、~~北京~~~~西安~~に~~比べ~~穏やかな気候であった。空港には黄菊上
海市長夫妻、趙啓正副市長を始め上海市の要人が両陛下をお出迎えし、児童より花束贈呈
を受けられた。本官夫妻をはじめ館員、商工クラブ、日本人学校教師・生徒も空港にてお
出迎えし、天皇陛下の御料車には市長、皇后陛下の御料車には市長夫人が同乗し、12:
35、空港御発、宿舎である西郊賓館に向かわれた。宿舎への途次、両陛下を^お迎え

秘

SH 0127-2

する市民が道路沿いに列をなしていたが、その中には日の丸の小旗を振る在留邦人~~が~~
~~も~~一団も交じっていた。

3. 御料車は西郊賓館の日の丸と五星紅旗の大きな旗が掲げられた~~入~~^{正門}に入り、敷地内の
「熱烈歓迎天皇陛下及び皇后陛下」と書かれた~~大看板~~^{看板}を通過、宿舎である7号楼玄関
にて東湖グループ（西郊賓館の上部組織）総経理、西郊賓館総経理等のお出迎えを受け~~御~~^{3人}
~~少憩のためお部屋に向かわれた。~~

4. 最高気温が摂氏20度を越える午後の~~陽気~~^晴日差しの中、13:31、宿舎を御発に
なられた両陛下は、中国有数の理科系大学である上海交通大学に向かわれた。13:40
過ぎ、同大学に御着になられた両陛下は、海洋工程実験室前にて翁史烈学長のお出迎えを
受け、同実験室にて実験所長より海洋実験の概要説明を受け~~つ~~^{3人}つ波を作る実験等を御覧に
な~~ら~~^つれた。その後、キャンパス内を途中お出迎えの学生達にお手を振られながら、更に学
生のグループに歩み寄られ親しくお声をおかけになりながら、約100メートル程お歩き
になり、新図書館「東庁」に御着にな~~ら~~^つれた。入口には「熱烈歓迎天皇陛下皇后陛下」の
幕がはられ、~~周囲には歓迎の学生~~^入職員が列をなして~~いた。~~^{3人}また、建物の窓にも大勢の学
生、職員の手を振る姿が見られた。東庁内にて翁史烈学長より両陛下の交通大学御訪問を
御歓迎する挨拶があり、同大学の歴史、日本をはじめ各国研究機関との学術交流の御紹介
及び陛下より~~賜~~^おられた「世界大百科事典」（全35巻）に対する感謝の言葉があり（現
物が東庁内に飾られていた）、引き続き同学長より在席の学者5名を御紹介、その後同学

秘

SH 0127-4

7. 18:45、宿舎を御発になり、黄菊市長主催の歓迎晩餐会御出席のため新錦江飯店に向かわれた。宴会に先立ち、新錦江飯店では両陛下は出迎えの黄菊市長夫妻と科学者の交流を含む日中交流の増進等につきお話をされた。今次御訪問最後の夜を飾る宴会は、華やかな中にも打ち解けた雰囲気の中でとり行われ、両陛下は、黄菊市長夫妻と親しく会話を交わされた。黄菊市長からは上海経済の発展の模様、日本との協力の状況が紹介され天皇陛下からは、地域開発に伴う種々の困難な問題につきねぎらいのお言葉をかけられた。また、天皇陛下は同席の宋首席接待員と科学史や魚類の研究に関する話題でしばらくの間専門的な話をされた。黄菊市長より上海は揚子江流砂の堆積で毎年1mほど東に伸長している旨説明されたのに対し、天皇陛下は

説明を受けたが、

と述べられた。

晩餐会が終了し、同ホテルを20:45御発、上海当局側のはからいにより当地最大の繁華街である南京路のネオンや外灘沿いのライトアップされた歴史あるビル群を本官が御説明しながら車中より御覧になり、中国の改革・開放の先端を進む上海の夜の賑わいを目の当りにされ深く印象に残られた御様子であった。また、沿道には数十万に上ると思われる市民が絶え間なく続き、両陛下の御料車はじめ一行の車列に対し老若男女を問わず手を振り、あるいは拍手で大歓迎し、両陛下は市民に対し手を振ってお応えになるなど中国御訪問の最後の夜を飾るに相応しい市民との交流の場となった。なお、右ライトアップは、上海当局の計らいにより国慶節用のものを両陛下の上海御訪問に備えて残っていたもので

秘

SH 0127-5

ある。

8. 予定を大幅に超過し宿舎に御着になられたのは21:45を回っていたが、両陛下ともお疲れも見せず御健康な御様子である。

尚、当地「解放日報」、「文匯報」等のマスコミは両陛下の上海御訪問を大々的に報じている。

中国に転電した。(了)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線 2 1 7 1、2 1 7 4）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線 3 1 6 9）に連絡ありたい。

電信写

0 8 - 0 2 7

大政事外外官 大務務典房 臣秘官官審審長長	北經環查官 大大了察括房 大使大審審審	外研長
-----------------------------	---------------------------	-----

研情厚文對口

才史醫儀在軍人察

審判内外部

文長	審日二
----	-----

長 參政保(對)旅外

東 西
北 東
一

北米長	審一二保地
-----	-------

中南長參一二

歐 長	審西口洋 二 西東 二
--------	----------------------

審→二アア
一ニ

途	經	總	次
二	一	二	一
國	漁	經	參
二	一	二	一
國	工	經	安
二	一	二	一

經長

参海	審準
----	----

經協長	無開國 有技調 審
-----	-----------------

審 長	審 長
--------	--------

国	審政經人
長	参軍社

科原	科審
----	----

情調長	審情析調 企安
-----	------------

総 番 号 R220061

月 28 日

平成 4 年 10 月 28 日

上海 癸卯
本 省 着

外務大臣殿

蓮 見 総 領 事

主管

儀

E E V (出発通知)

第555号 大至急

往電第542号に関し、

てん皇・皇ごう両へい下は、本28日14時06分、予定通り東京に向け当地を御発になられた。

中国に転電した。(了)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線 2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線 3169）に連絡ありたい。

電信写

08-055

因政事外外儀自
大務務典房
臣秘官官審審長長

外研長
官房審
總括審
査察審
環了大
經大使
北大使

◎口対文◎厚情研

才史警儀在電人察

外報官

二日審
長文

參(國)保(國)旅外

東二
西一

米	地保一二審
---	-------

参一二

洋口西	西口西
東	東

審一二アア
一二

次	途
参	国
長	国

参海	審準
----	----

無開國政
理有技調

規協條審

国 審政經人
 長 参軍社

科原	科寒
----	----

調情審	調情審
安金	安金

総 番 号 R220206

月 28 日

平成 4年 10月 28日

上 海 發
本 省 着

外務大臣殿

蓮見 總領事

主管

儀

EEV (御動せい: 28日)

第558号 秘 大至急

(以下FAX送信 SH0133-02)

秘

(三八〇七)

往電第 552 号に関し、

1、28日、両陛下は、中国御訪問最後の朝をご機嫌うるわしくお迎えになり、

西郊賓館関係者に丁寧にお礼のお言葉をおかけになった後、9:00、宿舍を御発、浦東地区の周浦郷にある農村御視察に向かわれた。沿道には昨日と同様市民の列が鈴なりに続いていた。往路、一年前に竣工した南浦大橋に立ち寄られた。15分間程黄菊市長の御説明をお聞きになりながら御視察された。同大橋は、斜張橋としては世界で7番目（コンクリートと鋼材の組合せ構造の橋桁を持つ斜張橋としては世界第2位）の橋であり、中国の科学技術の粋を集めた建造物である。天皇陛下は

とお尋ねになり（黄市長より「」と応答）、また

とおっしゃられた。黄市長は目下建設中の楊浦大橋についても説明した。両陛下は、古都西安で中国の歴史の深さと豊かさに目を向けられたが、上海では中国の近代化というもう一つの側面をご覧になり、中国の幅広い各面に御触れになり印象深いご様子であった。

2、10:00、周浦郷政府庁舎に御着になり、郷長のお出迎えを受け、御小憩の後、農家に向かわれた。周浦郷付近でも農民や子供たちの歓迎を受けられた。郷長の御説明をうけられながら、稲穂のたわわに実る刈り入れ前の稻田の中の道を約100メートル程御歩きになり農家を御訪問になり玄関前で農家の人々（両親と一人娘）と御歓談になり農家の中をご覧になった。農家の二階では、農家の主人より両陛下においでいただき一生忘れられない思い出になった旨感謝と歓迎の意が示され、次いで今回の農村訪問についてのご感想を質問した。陛下は、

ご説明された。渡辺首席随員は陛下が宮中で稲作、皇后陛下が養蚕をされている様子を説明した。陛下は

農家の三階のベランダには「熱烈歓迎日本国天皇陛下及び皇后陛下」の幕が掲げられていた。両陛下は、豊かな生活を送っている都市近郊の農家の現状に改革・開放政策の成果の一面を見られた御様子であった。各農家のお出迎えの農民と親しく会話を交わされ、予定を超過し、10:55、農村を後にされた。復路、車窓の農村風景もことのほか御関心をもって車中より眺めておられた。

3、11:30、ガーデン・ホテル（花園飯店）に御着になり、31階の御部屋にて軽い御昼食の後、12:30より、同ホテルの32階のドラゴン・ルームにて本館館員夫妻、当地日本商工クラブ、日本人学校教師等邦人代表とご引見になり一人一人丁寧におこえをかけられた。13:15、同ホテルをお発になり、13:35、空港に御着。児童鼓笛隊の盛大な歓送をお受けになり、黄菊市長夫妻、首席接待員夫妻、駐日大使夫妻等中国側要人、橋本大使夫妻、本官夫妻他お見送り関係者のご挨拶をお受けになり、タラップを登られ、関係者にお手を振られ、機中の人となられた。

このようにして、日中関係史上初めての天皇皇后両陛下の中国御訪問は無事成功裡に終わり、日中友好親善関係の増進に極めて大きな足跡を残された。

当地13:15、両陛下を御乗せした御召機は上海虹橋を出発した。爽やかな心地好い秋風のそよぐ好天の日であった。

中国に転電した。（了）

2

FAX信

file

-

総 番 号 R219331

主 管

月 27日

平成 4年 10月 27日

上 海 発
本 省 着

亜 中

外 務 大 臣 殿

逆 見 総 領 事

EEV首席随員所感 (プレスはり出し用)

FAX信 至急 (ゆう先処理)

(以下FAX送信 SH0123-01)

件番号547号別FAX信

(プレス貼り出し用)

SH 0123-

渡辺首席随員所感

平成4年10月28日

天皇皇后両陛下は、つつがなく中国御訪問を終えられ、帰国の途につかれました。

この度の両陛下の御訪問は、日中両国民の相互理解と友好を促進する上で、誠に意義深いものでありました。随員一同を代表し、心からお喜び申し上げます。

両陛下の御訪中は、日中間の永きにわたる交流の歴史において今回が初めてのことでありましたが、日中両国民間の相互理解と友好を強く願われる両陛下の率直なお気持ちが、中国国民によって広くかつ深く受け入れられ、両国国民間の心の交流が更に深められました。両陛下の御訪中は、まさに、日中両国民が良き隣人として将来に向かって歩む重要な契機となりました。

両陛下は、全ての御日程を通じて、出来る限り多くの中国の人々との触れ合いを大切になされました。このような両陛下のお姿は、中国の人々によって強い共感と感動を持って受け止められました。また、両陛下は中国各地で心のこもった温かい歓迎を受けられましたが、これらを通じて、広範な中国国民が新憲法下での我が国の皇室のお姿並びに平和国家日本の努力を直接理解する機会を得ましたことは、将来の日中両国民間の相互理解を更に深めていく上で誠に堅固な礎となるであります。

短い御滞在ではありましたが、両陛下は、中国の古い文化と新しい発展の息吹に触れられ、ことのほか中国の旅を楽しまれた御様子でした。これは、我々随員一同にとっても慶賀にたえません。

最後に、首席随員という大役を無事務め終えることが出来たことは、誠に光栄の至りであり、中国側より示された心のこもった御接待に対し改めて厚く御礼申し上げます。

(了)

渡辺首席随員所感

平成4年10月28日

天皇皇后両陛下は、つつがなく中国御訪問を終えられ、帰国の途につかれました。

この度の両陛下の御訪問は、日中両国民の相互理解と友好を促進する上で、誠に意義深いものでありました。随員一同を代表し、心からお喜び申し上げます。

両陛下の御訪中は、日中間の永きにわたる交流の歴史において今回が初めてのことでありましたが、日中両国民間の相互理解と友好を強く願われる両陛下の率直なお気持ちが、中国国民によって広くかつ深く受け入れられ、両国国民間の心の交流が更に深められました。両陛下の御訪中は、まさに、日中両国民が良き隣人として将来に向かって歩む重要な契機となりました。

両陛下は、全ての御日程を通じて、出来る限り多くの中国の人々との触れ合いを大切になされました。このような両陛下のお姿は、中国の人々によって強い共感と感動を持って受け止められました。また、両陛下は中国各地で心のこもった温かい歓迎を受けられましたが、これらを通じて、広範な中国国民が新憲法下での我が国の皇室のお姿並びに平和国家日本の努力を直接理解する機会を得ましたことは、将来の日中両国民間の相互理解を更に深めていく上で誠に堅固な礎となるであります。

短い御滞在ではありましたが、両陛下は、中国の古い文化と新しい発展の息吹に触れられ、ことのほか中国の旅を楽しまれた御様子でした。これは、我々随員一同にとっても慶賀にたえません。

最後に、首席随員という大役を無事務め終えることが出来たことは、誠に光栄の至りであり、中国側より示された心のこもった御接待に対し改めて厚く御礼申し上げます。

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

秘

電信写

08-059

因 政務 典房
大務 次次
臣秘官官審審長長

印経國有録國 外研
大大ア察括房 長
使使大審審審

口対文会厚情研
察人圍在儀警史オ

報官 審審内外ブ

長 審審

移長 参政保対旅外

長 審審東西

印米長 審審二保地

中南長 参一二

審西回洋
西東

近ア
審一二アア
一二

経 次総経途
参経魚国

長 経エ国
安ネ二

参海 審審

協長 審審開無
審調技有理

審条協規

国 審政経人
長 参軍社

科 科原
審

審調長 審審調
安

総 番 号 R 2 2 0 3 3 8

主 管

月 2 8 日

上 海 発

亜 中

平成 4 年 1 0 月 2 8 日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

蓮 見 総 領 事

てん皇皇ごう両へい下の御訪中（首席随員所感）

第 5 5 9 号 秘 至急（ゆう先処理）

てん皇皇ごう両へい下は中国御訪問の大部分の御日程をお元氣にかつ予定通り順調に消化され、間もなく御帰国の途に就かれるところ右中国御訪問に随行したワクナベ首席随員の所感次の通り申し進める。

1. はじめに

（1）この度の両へい下の御訪中は、長年にわたる日中間の歴史上まさに画期的に出来事であり、日中両国民の相互理解と友好関係を促進する上で、大きな成功をおさめられた。

（2）てん皇へい下はかん迎ばんさん会におけるお言ばにおいて、この度の御訪問が「日中両国民にとり、お互いに良きりん人として将来に向かつて歩む契機」となることを念願されたが、今次御訪中は、まさに日中両国民の心を結びつけ、日中関係に新たな時代を開く歴史的な御訪問であつたと言えよう。中国側も、両へい下の御訪中を極めて重視し、御訪中は両国国民の伝統的な友情を一層促進し、善りん友好関係に新たな深まりと広がりをもたらすものとして極めて高く評価した。

2. 中国側の誠意のこもつたかん迎振り

（1）中国側は、両へい下に対し、かつて見られまかつた程の心のこもつたもてなしを行つた。これは、中国側が両へい下の御訪問の意義を深く理解していたことを物語るものであり、日本側随員もこのような中国側の両へい下に対する気配りをはだで感じ取つた。要人との御会見、御引見等のアレンジは申し分のないものであり、また警備についても最大級の配慮が払われた（中国側は空前の警備体制で臨んだが、これは両へい下の身べんに危険があるとの理由によるものより、むしろ最高級の外国要人に対するぎれいとしての面が強かつたものと見受けられた）。

（2）更に、中国側が、てん皇へい下の憲法上のお立場を十分理解し、これに対してきめ細かな配慮を払つ

(宮内庁)式部職・東京宮職(警察庁)へ手
赤坂御所・宮務課 外務省
部送付済(4年10月29日)
(FAX)

秘

電信写

ていたことも印象的であつた。中国側は、何れの御会見、御引見の場においても政治に関する話題は持ち出さず、専ら文化、科学などの分野に話題を集中し、また御訪問の準備の段階でも、人民英ゆう記念館へのけんかの要求は一切持ち出さない等の気配りをみせた。なお、人民日報等の中国側報道機関は、へい下のお立場やお人がらに関するしように記事を掲載し、「親しまれる皇室」についての中国国民へのけい発にも力を入れている様子が見て取れた。

(3) 中国側報道機関は、両へい下の中国における毎日の御動せいについて大々的に報じていた。この中で注目されたのは、人民日報等にへい下のお言ばの全文が掲載されたことであり、これは中国側の両へい下御訪問に対する強い期待感と高い評価を示すものであろう。これに加えてかん迎ばんさん会における選きよく(皇ごうへい下の作しななつた「ねむの木の子守うた」や両へい下御成こんの際の「しゆく典行進きよく」を演そう)、ならびにじどうによるかん迎のおどり(迎賓館御着と西安における西門御視察の際に行われたもの。ぎ典簡素化の観点から長らく中止されていた)などにも、中国側の両へい下に対する心のこもつた接待振りの一たんがうかがわれた。

3. 両へい下のお心使い

(1) 両へい下は文字通り心をこめられ親善に努められた。中国国民は、このような両へい下の友好を願われる強いお気持ちを感動をもつて率直に受け止め、両へい下のお人がらに対して深いけいあいの念と親しみをいだいたものと思われる。

(2) てん皇へい下は、かん迎ばんさん会におけるお言ばを通じて中国国民に直接語りかけられたが、へい下の率直なお気持は広く中国国民によつて理解され、高い評価を得たものと判断される。ヨウショウコン国家主席は、お言ばを終えられたへい下に対し「あたたかいお言ばに感謝する」旨述べ、また、へい下がコウタクミン総書記を御引見された際にも、同総書記よりお言ばに対する積極的な評価が伝えられた。これ以外にも上記ばんさん会ならびにハシモト大使主催レセプション等に出席していた中国関係者よりわが方随員に対し、心を打つ素ばらしいお言ばであつた旨の賛辞が寄せられた。これらを通じ中国国民は、両へい下が日中両国民の将来にわたる友好親善のために御訪問されたことを理解し、お言ばに込められたへい下のお気持はそのままの形で中国側に伝わつたものと思われる。

(3) 更に、ここで特ひつされるべきことは、両へい下ができる限り多くの中国国民との触れ合いを大切に

秘

電信写

されたことである。両へい下は、あらゆる機会をとらえて気さくに中国国民とお話をされ、また沿道に集まったグン集に対しても細やかなお心配りを示されるなど、各行事において心の触れ合いに努められた。沿道、各御視察先にはあふれるばかりの人々が集まり両へい下をかん迎したがこれに両へい下がお応えになると自然にはく手がわき起こるという場面も少なからずみられた。このような触れ合いを通じて感動的な場面が随所に見られ、中国側関係者は、これを極めて高く評価し、中国紙にも広くしようかいしていた。

(4) 上記の如き両へい下のおすがたを通じて、中国国民がてん皇へい下のお立場や誠実なお人がらを直接理解し、また、平和国家日本に対する理解が深められたことは、将来の日中関係にとって貴重な礎となるものであり、日中両国民にとつて何ものにも替えがたい「財産」となつたと認められる。

4. 御日程を振り返つて

(1) 今回の御訪問は、短い御旅行ではあつたが、北京、西安、上海と中国の代表的な三都市を御訪問され、ふるい歴史・文化から新しい現代中国に至まで、中国のいろいろな側面に直接触れられる機会となつた。いずれの御視察先においても両へい下は極めて御熱心に中国側の説明をお聞きになりまた御質問をされる等、御休そくの時間が結果としてなくなるようなことも見られた。また、両へい下は、今回の御訪問を通じて学者、文化人、学生、農民といった各層の中国国民との御こん談の機会を持たれたが、これらの人々との触れ合いを大切にされ、御会話をたのしんでおられる御様子であつた。更に、中国において日中関係にこうけんされた中国人、日本人に対しても、親しく労をねぎらわれ、また、各地で在留邦人及び在外公館の夫妻とも親しくお話をされた。

(2) 限られた時間的制約の中での御日程ではあつたが、全体的にバランスのとれた有意義な御日程となつたのではないかとと思われる。また、今回の御訪問は、事前の準備期間が短かつたにもかかわらず、中国側の熱心な対応、協力もあつて、準備も順調に進ちよくし、各行事ともスムーズかつ成功りに行われることとなつた。

(3) なお、今次の御訪中時の中国国民の反応の一たんを示すものとして特に印象的であつたのは、上海におけるや景御視察の際の情景である。いろとりどりのきらびやかな照明とうで装しよくされた建物のたちならぶ市内を速度を落として走行する一行車列に対し、沿道をうめつくすばかりの多くの民衆（中国側の説明によれば20万人を下らない数の人々）が一行よりの挙手に応え、あるいは自然な形で一行車列へ手を振り、

電信写

はく手する等の熱れつなかん迎振りを示していたことであり、御訪中の最後のよるをかざるに正にふさわしいものであつた。

5. 結び

この度の御訪問が、日中関係の区切りとなる大きな成功を収められたことを、首席随員として心からおよろこび申し上げたい。これからは、へい下が中国要人との御引見の際にお述べになられた如く「国民一人一人の交わりを大切」にしつつ、「過去を教訓とし、将来を見て、友好関係を一層固め」ていく努力が、日中双方にとつて何にも増してかん要と考える。なお、この度の両へい下の御訪問を通じて示された中国側の誠意は、今後の日中関係にとつて注目すべきものであり、わが方としても真しな態度で受け止めていくべきものであろう。更に両へい下の御外ゆうが外国との友好親善関係の増進に大きな意義を有することは今回の中国御訪問でも改めて立証された訳で、今後とも事情の許す限りにおいて両へい下の外国御訪問が積極的に検討されることが望まれる次第である。

中国、ホンコン、シンヨウ、広州、英、米、仏、ロシア、ASEANに転電した。(了)

2

※総第 114526号002公館宛

平成 平成 4 年 10 月 29 日
17 時 52 分 51 秒 受付

電 信 案

電信課長

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典室長 訪中準備室長 首席 総務班長 ロジ班長 会計・庶務班長	※発電係 1 2 起案 平成 4 年 10 月 29 日 起案者 電話番号 村角 3041
	協議先 中国課長 (諏訪部) copy 9/10/29	

(注意) 1 枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中国、上海	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名 EEV (内閣官房長官談話)			
主管・文書記号 儀	※電番 合第 21181 号	大至急 普通	至急 (優先処理)
転電 転送 在 転報	※転電番号	大至急 普通	至急 (優先処理)
大 使・総領事あて			
※			
11452662 優先 TYUUGOKU 等002 漢			

GB-1

外 務 省

回覧番号

109

(昭和六三・六・三十改正)

天皇皇后両陛下の中国からの御帰国

本件御訪中の無事終了を受け、29日、内閣官房長官より談話が発表されたところ、談話文を別FAX信（上海は商用FAX）する。

(丁)

GM7312

FAX信

※総第 114527号001公館宛 GM7312-02

平成 4年10月29日
17時53分50秒受付

電信案

電信課長

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典長 訪中室長 首席 総務班長 ロジ班長 会計・庶務班長	※発電係 1 2 起案 平成4年10月29日 起案者 村角 電話番号 3041 (諏訪部)
	協議先 中国課長	

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中国	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名 EEV (内閣官房長官談話)			
主管・文書記号 儀	※電番 FAX信	大至急 普通	至急 (優先処理)
転電 転送 在 転報	※転電番号	大至急 普通	至急 (優先処理)
往電儀合第2181号別FAX信。			
※			
11452775	優先	TYUUGOKU	F信

GB-1

外務省

回覧番号

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

天皇皇后両陛下中国御訪問についての内閣官房長官談話

平成四年十月二十九日

天皇皇后両陛下には、去る十月二十三日から六日間にわたり中国を御訪問になり、昨日つつがなく御帰国になりました。同国においては心温まる歓迎をお受けになり、我が国との友好親善関係の増進に多大の成果を挙げられましたことは、誠に喜びに堪えない次第であります。

この御訪問を契機に、日中両国民間の相互理解と友好関係が、一層増進するものと期待しております。また、中国の政府、国民から受けた温かい御歓待に対して、心からの謝意を表する次第であります。

(了)

評価・反省

評価・反省

大 政事外外儀官
大務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

外政審議室長

至 急 回 覽

北 務 原 査 總 外
大 大 大 察 括 研
使 使 大 審 審 長

總 口 文 会 厚 情 研
察 人 電 有 儀 際 史 才

外 報 官 參 報 際 內 外

文 長 審 一 二

領 移 長 參 政 保 刻 旅 外

密 地 中 東
參 北 領 西

北 米 長 審 一 二 保 地

中 南 長 參 一 二

密 西 日 洋
西 東

參 一 二 ア ア
一 二

次 總 經 途
參 經 一 國
一 國
安 二

參 海 審 準

密 政 經 開 無
審 調 技 有 理

參 系 協 規

密 政 經 人

密 軍 社

科 原

參 情 析 調

企 安

政 務 次 官
事 務 次 官
外 務 審 議 官
外 務 審 議 官
官 房 長
總 括 審 議 官
總 務 課 長
企 画 官
情 報 課 長
企 画 課 長
大 臣 秘 書 官

經 濟 局 長
經 濟 協 力 局 長
条 約 局 長

国 際 報 道 課 長
国 内 広 報 課 長
海 外 広 報 課 長

外 務 報 道 官
文 化 交 流 部 長
報 道 広 報 担 当 参 事 官
報 道 課 長

木 村 氏

一 般 情 報 班

(担 当 板 垣 内 268 |)

大 臣 記 者 会 見 要 旨

(10 月 30 日) (金)

・ 天 皇 陛 下 御 訪 中

・ 1 日 ソ 連 支 援 東 京 会 議

・ カ ン ボ ヂ ア 和 平 問 題

②

大臣記者会見要旨

10月30日（金） 9：40～ 於 会見室

○天皇陛下の御訪中について

天皇陛下の中国御訪問にあたり、首席随員として大儀を果たさせていただいた。感想を一言申し上げると、我々が想像していた以上に非常に中国側も大変気を使って、暖かい歓迎をしてくれた。最高の礼儀をもって接遇をしてくれた。増して最初からのお話の通り政治的な問題の話題は一切どなたからも出てこなかった。段々日を追うにつれて、（つまり）北京に最初に到達した時、北京から西安に向かう時、西安に入った日、西安に二晩泊まった時、そこ（西安）から上海へ向かう時、上海に着いた時、夜のパレード等において、段々民衆の数も膨れ上がり、次第に表情が明るくなって反応が非常に強くなきた。本当にちょっと手を上げただけでも向こう（中国国民）が一斉に手を挙げて歓迎するし、声を挙げて、歓声を上げて喜んでくれる。やはり、これは自分（大臣）が感ずるに、土地柄も多少はあるが、それにも増して陛下がこの六日の間大変良くお務めを果たされ、そしてありのままの陛下の御姿、御気持ちを直接にまたはブラウン管を通して中国の国民の方々の目に映って自分達（中国国民）の想像していた方とはもっと違う極めて民主的な、極めて御人柄の良い、極めて親しめる、極めてノーブルであるという印象を受けたのではないか、昔の天皇のイメージと全く違う人に会ったが、それが民衆の間に入っていった一人一人と握手したり、お話をしたり、そういった事が放映されることによって陛下のことについて理解が深まったので、その結果があのような自然発生的な大歓迎に結ばれたのではなかろうかというような印象である。非常に陛下も大変に御立派な御務めを果たされたと思う。天候にも幸い恵まれ、健康も害されることなく、一向全部無事に務めを果たしたことを大変嬉しく思っている。本当に皆様方（記者）にも報道その他で大変な気配りをして頂き、この席を借りて厚く御礼を申し上げる。

○閣議の模様

外務省案件特になし。

○旧ソ連支援東京会議

（問） 本日の閣議の前に雑談で、塩川自治大臣が「C I S諸国は乞食みたいなものだ」と発言したというのが事実関係如何。

（大臣） （右発言については）知らない。

○カンボディア和平問題

(問) カンボディア問題で波尔・ポト派に対して日本とタイの説得がうまくいかなかったというが、もちろん国連の決議もあると思うが、これに対する日本の対応は如何。

(大臣) カンボディアは池田(アジア)局長が行っているいろいろ波尔・ポト派と話しを試みたようであるが、記者ブリーフしたように結果は非常に残念であった。安保理に頼まれて(池田アジア局長はカンボジアに)行っているわけであるから、そのことは今後、安保理のメンバーとして当然報告するし、また今後やるべき事があれば自分

(大臣)としても協力していきたい。話し合いによる協議はこれで終わって、今後の説得工作はパリ会議の共同議長国であるフランス、インドネシア、国連の手に委ねられるというのが常道であろう。

(問) ポルポト派がロケット弾によってプノンペンを攻撃したと言われているが、外務省は確認しているか。

(大臣) 詳細の事実関係は分からない。未確認である。誰がやったのか、そのように波尔・ポト派がやったと想像される(という)ことでしょう。いずれにしても波尔・ポト派としてはパリ協定を守りますと今でも言い続けているわけだから、中に反対者がいるのか、(両者とは関係ない)ゲリラによるものなのか分からない。

(問) 現在日本のPKO部隊が(カンボディアに)行っているが、今回の攻撃により、(PKO協力法に基づく自衛隊派遣の)条件は崩れていないと思われるか。

(大臣) 事実関係が分かっていない。我々は波尔・ポト派の最高責任者と話しをしてパリ協定を作ったわけであるから、それを守るということをあらかじめ言っているわけで、従ってパリ協定の枠組みが崩れたとか、始終戦争参加しているとか、内乱を起こしているとは我々は取っていない。従って報道されるような事実が仮にあったとしてもPKO派遣条件が崩れたことにはならない。

(問) ポル・ポト派のコントロールが及ばないところがあったということか。

(大臣) 分からない。波尔・ポト派がやったかどうか分からないのだから。他の者がやってないなら波尔・ポト派の一部がやったのか、他の人がやったのか、事実関係を確認してみないと分からない。断定できない。事実の究明を急がなければならない。

追配

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

秘

電信写

08-031

大 政事外外儀官
大 務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

北経(調)査総官 外
大大ア察括房 研
使使大審審審 長

口対文会厚情研

察人(調)警史オ

報官 審(調)内外ブ

文 審一二

領移長 参政保対旅外

長 審(調)東
北東西

北米長 審一二保地

中南長 参一二

欧 審西(調)洋
西東

近 審一二アア
一二

経 次総経途
参経熟国

長 経エ国
安ネ二

参海 密(調)

経協長 密(調)開無
密調技有理

長 密条協規

国 審政経入
参軍社

科 科原

審 審(調)調
安

長 審(調)調
安

総 番 号 R 2 2 9 8 2 7

主 管

月 1 0 日

上 海 発

重 中

平成 4 年 1 1 月 1 0 日

本 省 着

外 務 大 臣 殿

蓮 見 総 領 事

E E V (上海でのよるの市内御視察についてのチョウ副市長内話)

第 5 7 8 号 秘 至急 (ゆう先処理)

9 日、てん皇皇ごう両へい下の上海御訪問かん迎準備の総指きに当つた上海市政府チョウケイ正副市長は、市政府としては市民各層が予期以上のかん迎ぶりを示してくれ、大成功であつたと評価している旨述べるとともに、特に 1 0 月 2 7 日よるの南京路など市内御視察の状況について本官に内話したところ、御参考までに次のとおり報告する。

1. 上海での諸行事の準備に当たつては、中央からの万全の警備体制の指示と市民の心からのかん迎振りを如何に調和させるかにく慮した。特に南京路を中心とした上海でも最も人通りが多いはん華かいのよるの御視察を提案するに際しては、警備が最大の問題となつた。自分(チョウ)はそう合的なかん迎準備会議を 3 回主催したが、その他警備を中心とした担当者の会議が何回も行われた。中でも年おいたがん固な人たちを含む市民に対し、てん皇訪中の意義と共に、日本のてん皇についてのイメージを一変させる必要があり、各地域ごと、機関ごとの「教育」を行つた。テレビ・ラジオ・新聞などマスメディアを通しての教育宣伝工作も続け、日程が近づくにつれ貴総領事館との協力もその一かんとして企画し、可成りの効果があつたと考えている。更に疑問のある者に対しては別途こん切に説明した事例もある。

2. 警備体制は前例をみないものとなつた。当日通過地点では約 1 時間前に完全な交通規制を開始し、その中を約 3 0 K M の速度で先導すれば 2 0 数 K M の沿道でもまず問題は起こらないとの自信をもつていた。白バイに続き、先導車には公安局長、武装警察総指き隊長など警備の最高責任者を同乗させたのも異例であつた。然し、新キンコウホテルを出発し、南京西路に入ると、御料車の速度は遅くなり、先導車とのきよ離が広がり始めた際にはばい乗していた北京からの衛士長は で速度を下げざるを得ない旨連絡してきた。1 時間前からの完全な交通規制が、通過地点の予定時刻を大はばに遅らせることによつて、

秘

電信写

いたずらに市民のいらだちを強め不測の事態が起こることが危ぐされた。

3. 市民には御料車が通過されることを事前に一切通報していなかったため、時間が遅れるにつれ、とくに市内でも人口の最も密集したはん華がいにある「大世界」の十字路では、市民が一目見ようと数重にも人がきができ各建物のまども市民で一ぱいになつてた。警備官も押されて、人がきは御料車にかなり接近した状態になつたこともあつたが、御料車の方は却つて10 KM以下にまで速度を下げるという極めて危険な状態となつた事態もあつた（本官注：この間両へい下には一人ひとりにお手をふられ、目近かの市民のかん迎のはく手に応えておられた）。

4. 市側としても当初は10万人程度と予測していたが、各地での交通規制の時間が延びるにつれて、伝え聞いた市民が御料車の通過する沿道にさつ到し、ビルや民家のまどはすずなりとなり、公安局長の話では人出は50万人にも達すると見積もつてた。これらの市民は決して組織的に動員した者ではなく、全く自発的な一般民衆である。しかし、一個の石ころも、タマゴもなげつけるような事態もなく、不ゆかいな言ばをはく者も、ましてや横断まくも見られなかつた。沿道の市民はろう若男女を問わず、両へい下に自然に手を振り、はく手をしてかん迎の意を示していた（本官注：両へい下はこの間1時間以上にわたつて、沿道の市民にずつとていねいに手を振り続けられていたが、その御気持ちが上海市民にそのまま通じられたものと考え）。その時残された両へい下の素ばらしいイメージは、今もなお市民の間で話題になつている事をお伝えしたい。

中国に転電した。（了）

謝意表明

謝意表明

今般の天皇皇后両陛下の中国御訪内に関し、中国側各レベル

に対する謝意表明については、次のとおり行うことといたしたい。
(日本語で発出し、在中国大乃至在上海総にて中国語訳を付す)

1. 天皇陛下より陽尚昆国家主席宛親書の発出(原案宮内府作成)

2. 首席随員よりの書簡を発出(原則として副部長クラス以上)

(1) 北京関係 13 名(別添1)

(2) 西安関係 4 名(別添2)

(3) 上海関係 4 名(別添3)

この内、李鵬総理、江沢民総書記、宋健接待団長、錢其琛

外交部部長、趙撲初、陳希同市長、黃菊市長、白青長、雷潔瓊

副委員長については夫々別添5~13、その他については別添4

の文面とする。

3. その他の関係者については、在中国大使又は上海総領事より謝意伝達。

4. なお、前回の両陛下の東南アジア諸国御訪内の際には上記1,2

同様陛下より相手国元首への親書及び首席随員の礼状が

発出されたのみであったが、今回は日中関係の特殊性に

鑑み、総理から李鵬総理及び江沢民総書記宛(礼状

と発出していくこと^{といたしたい}と~~交換することとする~~。

(以上)

李鵬中華人民共和國國務院總理

江沢民中國共產黨中央委員會總書記

万里全國人民代表大會常務委員會委員長

吳學謙副總理

雷潔瓊全國人民代表大會常務委員會副委員長

宋健國務委員兼國家科學技術委員會主任 ✓

錢其琛國務委員兼外交部長

姬鵬飛元外交部長

黃華元外交部長

陳希同北京市長

趙樸初全國政治協商會議副主席

蔡子民全人代常務委員會委員

徐敦信外交部副部長

礼状宛先（陝西省関係者）

- (1) ^{ハクヤウ}白清才 陝西省長
- (2) ^{テンシ}鄭斯林 陝西省副省長
- (3) ^{サイリン}崔林涛 西安市長
- (4) ^{テウシュウ}張秀絨 陝西省婦女連合会主任（女性）

コウ キョウ
黄 菊

上海市長

コウ コウキ
葉公琦

上海市人大常務委員会主任

シャ キトウ
謝希德

(女) 上海市政治協商會議主席

チョウ ケイセイ
趙啓正

上海市副市長

平成4年11月 日

(肩書)

(氏名) 閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

副総理兼外務大臣

渡辺美智雄

平成4年11月 日

国務委員兼国家科学技術委员会主任

宋健閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

とりわけ閣下及び令夫人には、首席接伴員として日程の全てに亘り同行頂き、種々の心遣いを頂きましたことに重ねて心より感謝の意を表します。また、卓越した科学者としての閣下の御見識に触れられたことにより、両陛下の御訪問が更に充実したものとなりましたことは、私を初めとする随員の大きな喜びであります。日中国交正常化20周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下及び令夫人の御健勝を心よりお祈りしております。

副総理兼外務大臣

渡辺美智雄

平成4年10月 日

国务院総理

李鵬閣下



この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、貴国政府より最高の儀礼をもって両陛下をお迎え頂き、また、北京、西安、上海の各訪問地において、貴国国民よりの暖かい歓迎を頂きましたことを、首席随員として心より感謝致します。

両陛下にとり貴閣下御夫妻とは89年4月以来の再会の機会となりました。更に貴令夫人には皇后陛下の北海幼稚園御訪問の際、親しく御案内頂きました。今回の貴国御訪問が成功裡に終了致しましたのも、貴閣下御夫妻はじめ、貴国政府関係者の周到的準備と心のこもったもてなしによるものであります。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に実現した両陛下の貴国御訪問は、日中間の永きにわたる友好往来の歴史において初めてのことであり、まさに日中両国民間の伝統的交流の歴史に新たな礎を築くものであります。私は、今回の御訪問を新しいスタートとして今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

貴閣下及び令夫人の御健康とますますの御発展を心よりお祈り致します。

副総理兼外務大臣

渡辺美智雄

平成4年10月 日

中国共産党中央委員会総書記

江沢民閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、貴国政府より最高の儀礼をもって両陛下をお迎え頂き、また、北京、西安、上海の各訪問地において、貴国国民より暖かい歓迎を頂きましたことを、首席随員として心より感謝致します。

両陛下にとり、貴閣下とは本年四月以来の再会であり、親しく御歓談され、また、貴閣下に盛大な晩餐の宴を催して頂きました。今回の貴国御訪問が成功裡に終了致しましたのも、貴閣下はじめ貴国関係者の周到な準備と心のこもったもてなしによるものであります。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に実現した両陛下の貴国御訪問は、日中間の永きにわたる友好往来の歴史において初めてのことであり、まさに日中両国民間の伝統的交流の歴史に新たな礎を築くものであります。私は、今回の御訪問を新しいスタートとして今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

貴閣下の御健康とますますの御発展を心よりお祈り致します。

副総理兼外務大臣

渡辺美智雄

平成4年11月 日

国務委員兼外交部部長
錢其琛閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が成功裡に終了致しましたのも、貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしによるものであります。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に、両陛下の貴国御訪問が実現致しましたことは、まさに日中双方の長期にわたる努力の輝かしい成果でありますと同時に、今後の両国の友好親善関係をより一層実り多きものとする重要な出発点であると認識致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

副総理兼外務大臣

渡辺美智雄

平成4年11月 日

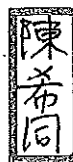
北京市市長
陳希同閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。また、閣下には万里の長城御訪問の際親しく御案内頂きました。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に、両陛下の貴国御訪問の実現に至りましたことは、まさに閣下を初めとする多くの方々が長期にわたり、日中関係の発展のため多大な努力を払われた成果であります。両陛下の今次訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下のご健勝を心よりお祈りしております。

副総理兼外務大臣
渡辺美智雄



平成4年11月 日

全国政治協商会議副主席
趙樸初閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。また、閣下には故宮博物院御訪問の際、親しく御案内頂きました。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったものでなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に、両陛下の貴国御訪問の実現に至りましたことは、まさに閣下を初めとする多くの方々が長期にわたり、日中関係の発展のため多大な努力を払われた成果であります。両陛下の今次訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下のご健勝を心よりお祈りしております。

副総理兼外務大臣
渡辺美智雄

趙樸初

平成4年10月 日

上海市市長

黄菊閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、訪問した各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の訪問が貴国政府及び関係各部署の周到な準備と心のこもったもてなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

とりわけ、貴地上海において、閣下及び令夫人の御案内の下、貴国の学生達、農民と親しく御懇談され、各界の学者、文化人と交流を深める機会を得ましたことは、両陛下の御訪問をさらに意義深いものにしたことと思います。また、貴国経済発展の先端をゆく上海の市内を南浦大橋より一望し、また多くの市民の熱烈な歓迎を受けながら視察できましたことは、両陛下のみならず私を初めとする随員にも極めて深い印象を残しました。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下及び令夫人の御健勝を心よりお祈りしております。

副総理兼外務大臣

渡辺美智雄

黄菊

平成4年11月 日

陝西省省長
白清才閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府及び関係各部局の周到な準備と心のこもったもてなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

とりわけ、古都西安における、大雁塔、碑林、陝西歴史博物館等への御訪問を通じ、貴国の悠久の歴史と文化に触れられ、また我が国と貴国の間に続いて来た長い交流の伝統への理解を深められましたことは、両陛下の御訪問をさらに意義深いものとし、また私を初めとする随員にも極めて深い印象を残しました。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

副総理兼外務大臣

渡辺美智雄

平成4年11月 日

全国人民代表大会常務委員会副委員長

雷 潔瓊閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

閣下には、楊尚昆主席との御会見及び楊尚昆主席主催歓迎晚餐会に御臨席頂き、両陛下の貴国御訪問の素晴らしいスタートとすることができました。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国御訪問を新しい出発点として、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下のご健勝を心よりお祈りしております。

副総理兼外務大臣

渡辺美智雄

平成4年10月 日

国务院総理

中国共産党中央委員会総書記

李鵬 閣下

江沢民 閣下

毛同文

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、訪問した各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化20周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国御訪問は、日中間の永きにわたる友好往来の歴史において初めてのことであり、まさに日中両国民の間の伝統的交流の歴史に新たな礎を築くものであります。私は、今回の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

内閣総理大臣

宮沢喜一

October 22, 1991²

Excellency,

I am truly grateful for your kindest and warmest hospitality extended to Their Majesties The Emperor and Empress of Japan during their visit to your country. The success of the visit owes very much to the hospitality as well as arrangements perfectly made by your government. It is really my honour to note that the visit of Their Majesties will no doubt greatly contribute to the further promotion of close and friendly relations between our two countries.

I would like to further note that the conversation I had with you was very much enjoyable and fruitful, and I look forward to seeing you in a near future.

With my best wishes for your continued health and success.

Sincerely yours,

Michio Watanabe
~~Tadashi Kuranari~~
~~Member of~~
~~the House of Representatives~~
Minister for Foreign Affairs

H.E. Soedharmono
Vice President
of the Republic of Indonesia
H.E. L.B. Moerdani
Minister of Defence and Security
of the Republic of Indonesia
H.E. Moerdiono
Minister of State Secretariat
of the Republic of Indonesia
H.E. Soepardjo Roestam
Minister Coordinator for People's Welfare
of the Republic of Indonesia
H.E. Ginandjar Kartasasmita
Minister of Mining and Energy
of the Republic of Indonesia
H.E. Prof. Dr. J.b. Sumarlin
Minister of Finance
of the Republic of Indonesia
H.E. Dato' Seri Dr. Mahathir Mohamad
Prime Minister of Malaysia
H.E. Dato' Abu Hassan bin Haji Omar
Minister of Domestic Trade
and Consumer Affairs
of Malaysia
H.E. Dato' Seri Dr. Lim Keng Yaik
Minister of Primary Industries
of Malaysia
H.E. Dato' Seri Sanusi bin Junid
Minister of Agriculture
of Malaysia
H.E. Mr. Anand Panyarachun
Prime Minister
of the Kingdom of Thailand
H.E. Mr. Ukrit Mongkolnavin and Khunying
President of National Legislative Assembly
of the Kingdom of Thailand
H.E. Pol. Gen. Pow Sarasin
Deputy Prime Minister
of the Kingdom of Thailand
H.E. Wichian Watanakun
Deputy Foreign Minister
of the Kingdom of Thailand
H.E. Mr. Meechai Ruchupan
Deputy Prime Minister
of the Kingdom of Thailand
H.E. Mr. Prakob Hutasingh
Privy Councillor
of the Kingdom of Thailand
Mrs. Sirilaksana Ratanakorn
Mr. Chanasak Yuvaboon
Governor of Chiang Mai Province
M.R. Tongnoi Tongyai
His Majesty's Deputy Principal
Private Secretary
H.E. Mr. Arsa Sarasin
Foreign Minister
of the Kingdom of Thailand

昨年3月

首席随員等の

礼状の宛先

24 ア東 1 トロシロ
2440

秋
無期限

※総第 118461号002公館宛

平成 平成 48 年 11 月 10 日
時 25 分 33 秒 受付

電 信 案

電信課長

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典長 訪中準備室長 事務班長 ロジ班長 会計・庶務班長	※発電係 起案 平成 4 年 10 月 29 日 起案者 電話番号 村角 3041 (坂高田)
協議先 総務課長 首席事務官 中国課長		

(※印欄内は電信課記入)

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中国、上海	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名 EEV(謝意伝達)			
主管・文書記号 儀	※電番 合第21985号	大至急 普通	至急 (優先処理)
転電 転送 在 転報	※転電番号 大使・総領事あて	大至急 普通	至急 (優先処理)
パターンのコード			
※			
11846154 優先 TYUUGOKU 等002 漢			

GB-1

外 務 省

回覧番号

110

(昭和六三・六・三十改正)

今次御訪問については、天皇陛下より楊尚昆主席に対し御礼状を発出され、総理より李鵬総理及び江沢民総書記宛、本大臣より下記宛に礼状を発出する予定のところ、その他の関係者については貴使及び貴官から然るべく謝意表明ありたく、謝意表明先を回電ありたい。

ソウケン
宋健 接伴団長
リホウ
李鵬 総理
コウタクミン
江沢民 総書記
バンリ
万里全 全人代常務委員長
ゴウケン
呉学謙 副総理
ライナツケイ
雷潔瓊 全人代常務副委員長
センギシン
銭其琛 外交部長
キホウロ
姬鵬飛 元外交部長
ユウカ
黄華 元外交部長
チンキドウ
陳希同 北京市長
チョウボクシヤ
趙樸初 政協會議副主席
サイシンミン
蔡子民 全人代常務委員会委員
ショウトンシン
徐敦信 外交部副部長
ハクセイサイ、セシイ
白清才 陝西省長
テイシンリン
鄭斯林 陝西省副省長
オイリントウ
崔林濤 西安市長
チョウシュウジユウ
張秀絨 陝西省婦女連合会主任
コウヤク
黄菊 上海市長
ヨウコウキ
葉公琦 上海市人大常務委员会主任
シャキトク
謝希德 上海市政協會議主席
チョウケイセイ
趙啓正 上海市副市長

(了)

GM:7795-

P3

秘
無期限

※総第 115833号001公館宛 GM7795-03

平成 年 11月 2日
秘書 受付

電 信 案

FAX

電信課長

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典長 訪中室長 首席 総務班長 ロジ班長 会計・庶務班長	※発電係 1 ② 2 1 起案、 平成 4 年 11 月 2 日 起案者 電話番号 村角 4151
	協議先	

(※印欄内は電信課記入)

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中 国	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件 名 事務連絡			
主管・文書記号 保	※電番 第3371号	大至急 普通	至急 (優先処理)
転電 転送 在 転報	※転電番号	大使・総領事あて	パターン・コード 大至急 至急 普通 (優先処理)
植田公使へ 西陛下御訪中後の謝意伝達について、陛下 (下)の親書に加え、首席随員から下記の宛先へ、 本総理から李鵬総理、江沢民総書記へ礼状			
※			
11583360	優先	TYUUGOKU	F電

GB-1

外 務 省

回覧番号

(昭和六三・六・三十改正)

を送付する^(というラインで)ことも検討中ですので、方針確定次第御連絡します。

記

(北京)

李鵬 中華人民共和國國務院總理

江沢民 中国共産党中央委員会総書記

万里 全国人民代表大会常務委員会委員長

呉学謙 副總理

雷潔瓊 全国人民代表大会常務委員会副委員長

宋健 國務委員兼国家科学技術委员会主任

銭其琛 國務委員兼外交部長

姬鵬飛 元外交部長

黄華 元外交部長

陳希同 北京市長

趙樸初 全国政治協商会議副主席

蔡子民 全人代常務委員会委員

徐敦信 外交部副部長

(西安)

白清才 陝西省長

鄭斯林 陝西省副省長

崔林滂 西安市長

張秀絨 陝西省婦女連合会主任

(上海)

上海市長

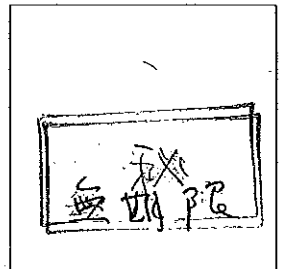
上海市人大常務委員會主任

上海市政治協商會議主席、

上海市副市長

(3)

部数指示	発信通数	執務用	計
主信(写共)	1	1	2
付	有	備考	
属	無	付属空便(行)	



発送処理日	平成4年11月20日
発信	校査

文書課長



公 信 案

(在外公館あて専用)

公 信 番 号	第 581 号	公 信 日 付	平成 4 年 11 月 17 日
大 臣 秘 書 官 政 務 次 官 事 務 次 官 外 務 審 議 官 外 務 審 議 官 官 房 長		主管 儀 典 長 儀 典 官 儀 典 官 首席事務官 事 務 官	起案 平成 4 年 11 月 11 日 起案者 電話番号 村角 2087 (31町田)
協議先 中国課長			
受信者 在中国大使		発信者 外務大臣	
写送付先		(希望発送日) 月 日	
件 名 天皇皇后西陛下の御訪中(中国側への謝意伝達)			

GA-11

17 外務省

回覧番号

1817

(昭和六三・四・一改正)

秘
無 期 限

儀 第 581 号

平成4年11月17日

在 中 国 大 使 殿

外 務 大 臣

件名

天皇皇后両陛下の御訪中(中国側への謝意伝達)

引用公・電信

日付・番号

11月10日付往電儀合サ21985号

(上海の分を除く)
冒頭往電記載の宛先への謝状(総理書簡2通及び
及び宛先以外 本大臣書簡17通)を別添送付するので、貴館にて
訳文を添付の上、然るべく先方に転達ありたい。

(以上)

文書課記入欄

付属添付 ☐

付属空便(行) ☒

付属空便(DP) ☐

謹啓

暮秋の候、閣下におかれましてはお変わりなくお過ごしのことと拝察致します。

さて、この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問に際しましては、御訪問先各地において格別に心温まる歓迎を頂きました。今回の御訪問が、閣下をはじめ貴国側各位の周到な御準備と心のこもったおもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく存じますと共に、貴国側の御配慮に衷心より感謝申し上げる次第です。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現しました今回の両陛下の貴国御訪問は、日中間の永きにわたる友好往来の歴史において初めてのことであり、まさに日中両国民の間の伝統的交流の歴史に新たな礎を築くものであります。私は、今回の御訪問を新しいスタートとして両国国民間の友好親善関係

がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

私共の感謝の気持ちを貴国側関係各位にお伝え願えれば幸いです。

厳寒に向かいますが、閣下の益々の御活躍と御健勝を心よりお祈りいたします。

敬具

一九九二年十一月十一日

日本国内閣総理大臣

宮澤 昭一

中国共産党中央委員会総書記

江 沢 民 閣下

謹啓

暮秋の候、閣下におかれましては国事に御多忙の日々をお過ごしのことと存じます。

さて、この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問に際しましては、御訪問先各地において格別に心温まる歓迎を頂きました。今回の御訪問が、閣下及び令夫人をはじめ貴国政府・各界の周到な御準備と心のこもったおもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく存じますと共に、貴国側の御配慮に衷心より感謝申し上げる次第です。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現しました今回の両陛下の貴国御訪問は、日中間の永きにわたる友好往来の歴史において初めてのことであり、まさに日中両国民の間の伝統的交流の歴史に新たな礎を築くものであります。私は、今回の御訪問を新しいスタートとして両国国民間の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

私共の感謝の気持ちを貴国側関係各位にお伝え願えれば幸いです。令夫人にも
宜しくお伝え下さい。

厳寒に向かいますが、閣下の益々の御活躍と御健勝を心よりお祈りいたし
ます。

敬具

一九九二年十一月十一日

日本国内閣総理大臣

宮澤 弘一

中華人民共和国國務院總理

李

鵬

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国ご訪問の際、貴国政府より最高の儀礼をもって両陛下をお迎え頂き、また、北京、西安、上海の各訪問地において、貴国国民より暖かい歓迎を頂きましたことを、首席随員として心より感謝致します。

両陛下にとり、貴閣下とは本年四月以来の再会であり、親しく御歓談され、また、貴閣下に盛大な晩餐の宴を催して頂きました。今回の貴国御訪問が成功裡に終了致しましたのも、貴閣下はじめ、貴国関係者の周到な準備と心のこもったものでなしによるものであります。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した両陛下の貴国御訪問は、日中間の永きにわたる友好往来の歴史において初めてのことであり、まさに日中両国民間の伝統的交流の歴史に新たな礎を築くものであります。私は、今回の御訪問を新しいスタートとして今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

貴閣下の御健康とますますの御発展を心よりお祈り致します。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 五

中国共産党中央委員会総書記

江 沢 民 閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国ご訪問の際、貴国政府より最高の儀礼をもって両陛下をお迎え頂き、また、北京、西安、上海の各訪問地において、貴国国民より暖かい歓迎を頂きましたことを、首席随員として心より感謝致します。

両陛下にとり貴閣下御夫妻とは八十九年四月以来の再会の機会となりました。更に貴令夫人には皇后陛下の北海幼稚園御訪問の際、親しく御案内頂きました。今回の貴国御訪問が成功裡に終了致しましたのも、貴閣下御夫妻はじめ、貴国政府関係者の周到な準備と心のこもったもてなしによるものであります。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した両陛下の貴国御訪問は、日中間の永きにわたる友好往来の歴史において初めてのことであり、まさに日中両国民間の伝統的交流の歴史に新たな礎を築くものであります。私は、今回の御訪問を新しいスタートとして今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

貴閣下及び令夫人の御健康とますますの御発展を心よりお祈り致します。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 氏

国務院総理

李

鵬

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 五

全国人民代表大会常務委員会委員長

万

里

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 五

副総理

呉

学

謙

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

閣下には、楊尚昆主席との御会見及び楊尚昆主席主催歓迎晩餐会に御臨席頂き、両陛下の貴国御訪問の素晴らしいスタートとすることができました。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国御訪問を新しい出発点として、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 五

全国人民代表大会常務委員会副委員長

雷 潔 瓊 閣 下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

とりわけ閣下及び令夫人には、首席接伴員として日程の全てに亘り同行頂き、種々の心遣いを頂きましたことに重ねて心より感謝の意を表します。また、卓越した科学者としての閣下の御見識に触れられたことにより、両陛下の御訪問が更に充実したものとなりましたことは、私を初めとする随員の大きな喜びであります。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下及び令夫人の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 五

国務委員兼国家科学技術委員会主任

宋

健

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に、両陛下の貴国御訪問の実現に至りましたことは、まさに閣下を初めとする多くの方々が長期にわたり、日中関係の発展のため多大な努力を払われた成果であります。両陛下の今次訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 氏

全国政治協商会議副主席

趙 樸

初

閣

下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が成功裡に終了致しましたのも、貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしによるものであります。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に、両陛下の貴国御訪問が実現致しましたことは、まさに日中双方の長期にわたる努力の輝かしい成果でありますと同時に、今後の両国の友好親善関係をより一層実り多きものとする重要な出発点であると認識致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 五

国務委員兼外交部部長

銭

其

琛

閣

下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 五

元 外 交 部 長

姫

鵬

飛

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 丞

元外交部長

黄

華

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎をいただきましてことを心より感謝致します。また、閣下には万里の長城御訪問の際親しく御案内頂きました。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に、両陛下の貴国御訪問の実現に至りましたことは、まさに閣下を初めとする多くの方々が長期にわたり、日中関係の発展のため多大な努力を払われた成果であります。両陛下の今次訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副總理兼外務大臣

渡辺美智雄 五

北京市市長

陳希同 閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺美智雄 印

全人代常務委員会委員

蔡

子

民

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

外交部副部長

徐

敦

信

閣下

渡辺美智雄 氏

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府及び関係各部署の周到な準備と心のこもったもてなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

とりわけ、古都西安における、大雁塔、碑林、陝西歴史博物館等への御訪問を通じて、貴国の悠久の歴史と文化に触れられ、また我が国と貴国の間に続いて来た長い交流の伝統への理解を深められましたことは、両陛下の御訪問をさらに意義深いものとし、また私を初めとする随員にも極めて深い印象を残しました。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

液辺芳智雄 五

陝西省省長

白 清

才

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

返辺考智雅五

西安市長

崔林寿閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺芳智雄 氏

陝西省婦女連合会主任

張秀絨 女史

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

返送為替証書

陝西省副省長

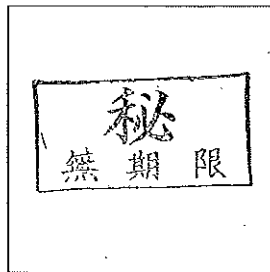
鄭

斯

林

閣下

部数指示	発信通数	執務用	計
主信(写共)	/	/	2
付	有	備考	
属	無	そのま 付属空便(行)	



発送処理日	平成4年11月24日
発信	校 査

文書課長



公 信 案

(在外公館あて専用)

公 信 番 号	儀 第 124 号	公 信 日 付	平成4年11月17日
大 臣	主管	起 案	平成4年11月11日
秘書官	儀典長	起案者	村角 2087
政務次官	儀典官	電話番号	
事務次官	儀典官		
外務審議官	首席事務官		
外務審議官	事務官		
官 房 長			
協議先			
(31-12110)			
中国課長			
受 信 者	発 信 者		
在上海総領事館	外務大臣		
写送付先	(希望発送日)		
	月 日		
件 名			
天皇皇后両陛下の御訪中(中国側への謝意伝達)			

GA-11

外務省

17 119

回覧番号

1816

(昭和六三・四・一改正)

秘
無 期 限

儀 第 124 号

平成4年11月17日

在 上 海 総 領 事 殿

外 務 大 臣

件名

天皇皇后両陛下の御訪中(中国側への謝意表明)

引用公・電信

日付・番号

11月10日付往電儀合サ21985号

冒頭往電記載の宛先(上海分)への礼状(本大臣
書簡 4通) ^{及び宛先リスト}を別添送付するので、貴館にて訳文を
添付の上、然るべく先方に転達ありたい。

(以上)

文書課記入欄

付属添付

付属空便(行) ☒

付属空便(DP) ☐

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、訪問した各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の訪問が貴国政府及び関係各部署の周到な準備と心のこもったもてなしにより成功裡に終了致しましたことを、大変喜ばしく思います。

とりわけ、貴地上海において、閣下及び令夫人の御案内の下、貴国の学生達、農民と親しく御懇談され、各界の学者、文化人と交流を深める機会を得ましたことは、両陛下の御訪問をさらに意義深いものにしたことと思います。また、貴国経済発展の先端をゆく上海の市内を南浦大橋より一望し、また多くの市民の熱烈的な歓迎を受けながら視察できましたことは、両陛下のみならず私を初めとする随員にも極めて深い印象を残しました。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きも

のとなることを確信致しております。

閣下及び令夫人の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副総理兼外務大臣

渡辺秀智 謹啓

上海市市長

黄

菊

閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副總理兼外務大臣

後田秀智雄

上海市副市長

趙 啓

正 殿

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂き
ましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心の
こもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思いま
す。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の
御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多き
ものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副總理兼外務大臣

後田芳樹氏

上海市人大常務委员会主任

葉公琦閣下

この度の天皇皇后両陛下の貴国御訪問の際、各地において心温まる歓迎を頂きましたことを心より感謝致します。今回の御訪問が貴国政府の周到な準備と心のこもったもてなしにより、成功裡に終了致しましたことを大変喜ばしく思います。

日中国交正常化二十周年という記念すべき年に実現した今回の両陛下の貴国の御訪問を新しいスタートとして、今後の両国の友好親善関係がより一層実り多きものとなることを確信致しております。

閣下の御健勝を心よりお祈りしております。

平成四年十一月十一日

日本国副總理兼外務大臣

上海市政治協商會議主席

謝希德 女史

坂田秀雄 推

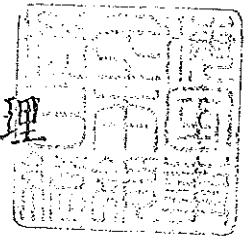
第 3831 号

昭和 4 年 12 月 7 日
辛亥

外 務 大 臣 殿

在上海

川本総領事代理



件名

天皇皇后兩陛下の御訪中（中国側への謝意表明）

引用公・電信

主管課（文書記号）

日付・番号

11月17日付貴信儀合第124号

儀

本件については、訳文（別添）を添付の上、12月1日付をもって上海市外事

弁公室経由、先方に転達したので報告申し上げます。

（了）

本信送付先：

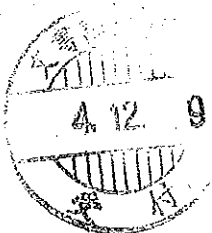
付属添付 ☒

本信写送付先：

付属空便（行） ☐

省内写配布希望先：

付属空便（DP） ☐



上海市人民政府外事办公室

徐兆春 主任：

我国天皇、皇后两陛下于10月27日、28日两天访问贵市期间，受到了您非同寻常的关照，在此深表谢意。

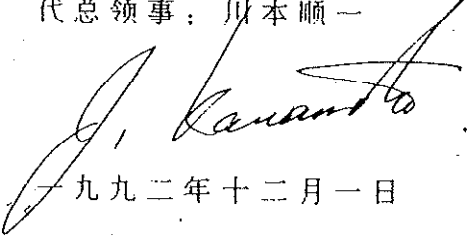
这次我国渡边副总理兼外务大臣就天皇、皇后两陛下访问贵市圆满成功而发来了四份感谢信，请转交市政府有关领导为感。

此 致

崇高的敬礼

日本国驻上海总领事馆

代总领事：川本顺一



一九九二年十二月一日

上海市市长

黄菊 阁下：

这次天皇皇后两陛下在贵国访问期间，所到之处都受到热情的欢迎，深表谢意。这次访问活动在贵国政府及有关各方的周到而精心的安排下非常成功地结束了，我感到非常高兴。

特别在贵地上海访问期间，在您和您夫人的陪同下，与贵国的学生、农民们进行了亲切的交谈，还获得了与各界学者、文化人士直接交流的机会，这使得两陛下的访问意义更加深远。而从南浦大桥眺望处在中国经济发展龙头地位的上海市区，以及在众多市民的热烈欢迎下游览市容，这不仅给两陛下、也给以我为首的随行人员留下了极其深刻的印象。

在值得纪念的日中邦交正常化二十周年之际实现了两陛下对贵国的正式访问，我深信以此为新的起点，今后两国的睦邻友好关系定将结出更丰硕的果实。

衷心祝愿阁下及您夫人身体健康！

日本国副总理兼外务大臣

渡 边 美 智 雄

一九九二年十一月十一日

上海市副市长

(他28)

赵启正 先生：

这次天皇皇后两陛下在贵国访问期间，所到之处都受到热情的欢迎，深表谢意。这次的访问活动在贵国政府周到而精心安排非常成功地结束了，我感到非常高兴。

在值得纪念的日中邦交正常化二十周年之际，实现了两陛下对贵国的正式访问，我深信以此为新的起点，今后两国的睦邻友好关系定将结出更丰硕的果实。

衷心祝愿您身体健康！

日本国副总理兼外务大臣

渡 边 美 智 雄

一九九二年十一月十一日

御親書卷出



宮内式発甲第 534 号
平成 4 年 1 1 月 々 日

外務大臣 渡辺美智雄 殿

宮内庁長官 藤 森 昭



中華人民共和国主席閣下への御親書案について

天皇皇后両陛下の中華人民共和国御訪問につき、同国主席閣下に
対する御礼の御親書案を別紙のように起草しましたので、御意見を
伺います。

閣下

平成四年 月 日

東京皇居にて

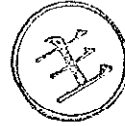
御 名

中華人民共和国主席

楊 尚 昆 閣 下

部 数 指 示		発信通数	執 務 用	計
主 信 (写共)		2	1	3
付	有	備 考		
属	(無)			

発 送 日	平成 4 年 11 月 6 日		
処 理 日	タイプ 田代 校 査 ⑧		
発 信			



文 書 課

公 信 案

(国内専用)

公 信 番 号	儀 第 264 号	公 信 日 付	平成 4 年 11 月 5 日
大 臣 秘 書 官 政 務 次 官 事 務 次 官 外 務 審 議 官 外 務 審 議 官 官 房 長	主 管 儀 典 長 訪 中 準 室 長 首 席 総 務 班 長 ロ ジ 班 長 会 計 庶 務 班 長	起 案 平 成 4 年 11 月 4 日	起 案 者 電 話 番 号 町 田 3041
協 議 先 中 国 課 長 Cecilia			
受 信 者 宮内庁長官 藤森昭一		発 信 者 外務大臣 渡辺美智雄	
写 送 付 先		(希望発送日) 11 月 6 日	
件 名 天皇陛下より中華人民共和国主席閣下への御親書案について			

GA-2

6 11 外 務 省

回覧番号

(昭和六三・七・一改正)

第 号

件 名

天皇陛下より中華人民共和国主席閣下への御親書案について

11月4日付貴信宮内庁発甲第534号をもって照会のありました

天皇陛下よりの中華人民共和国主席閣下あて御礼の御親書案につきまして

は、御起草のとおりで異存ありません。 (了)

(昭和六三・七・一 改正)



外 務 省

儀第264号

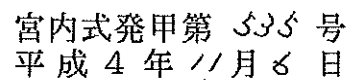
平成4年11月5日

宮内庁長官 藤 森 昭 一 殿

外務大臣 渡 辺 美智雄

天皇陛下より中華人民共和国主席閣下への
御親書案について

11月4日付貴信宮内庁発甲第534号をもって照会の
ありました天皇陛下よりの中華人民共和国主席閣下あて
御礼の御親書案につきましては、御起草のとおり異存あり
ません。



宮内庁長官 藤 森 昭 一

なお、御親書写しを添付いたしますので、必要と判断される場合、
在中華人民共和国日本国大使館において、中国語訳文を作成のうえ、
転達方よろしく願います。

部数指示	発信通数	執務用	計
主信(写共)	1	1	2
付	(有)	備考	
属	無		

取扱注意

発送処理日 平成4年11月16日

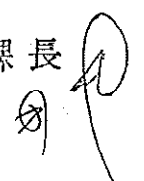
発信  検査 11

文書課長



公 信 案

(在外公館あて専用)

公 信 番 号	第 578 号	公 信 日 付	平 成 4 年 11 月 12 日
大 臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 儀 典 長 訪 中 準 室 長 首 席 審 議 官 総 務 班 長 ロ ジ 班 長 会計・庶務班長	起案 平成 4 年 11 月 9 日	起案者 電話番号 町 田 3041
協議先 中国課長 			
受信者 在 中 国 大 使		発信者 外 務 大 臣	
写送付先		(希望発送日) 月 日	
件 名 EEV(天皇陛下より中華人民共和国主席宛 御親書の転達)			

GA-11

外務省

回覧番号

12 104

(昭和六三・四・一改正)

取扱注意

儀 第 578 号

平成4年11月12日

在 中 国 大 使 殿

外 務 大 臣

件名

EEV (天皇陛下より中華人民共和国主席宛 御親書の転達)

引用公・電信

日付・番号

6日 官内庁より天皇陛下から楊尚昆主席宛、今般
の天皇皇后両陛下御訪問に対するお礼の御親書の転達
方依頼越した。ついては写と共に別添送付するので、
貴館にて中国語に翻訳の上、翻訳文と共に然る
べく先方に転達ありたい。

なお、参考までに同翻訳文を本省宛送付ありたい。

(3)

文書課記入欄

付属添付 ☒

付属空便(行) ☐

付属空便(DP) ☐

閣下

平成四年十一月六日

東京皇居にて

中華人民共和国主席

楊尚昆

閣下

御署名

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-020

大 政事外外儀官
大務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

北経環査総官 外研長
大大ア察括房
使使大審審審

口対文 厚情研

察人 在 在 在 史オ

外報官 審 内外ブ

文長 審 二

長 参政保 旅外

長 審 東
参北東西

北米長 審一二保地

中南長 参一二

欧 審西口洋
西東

長 審一二アア

経 次総経途
参経漁国
経エ国
安ネ二

参海 審準

経協長 審政国開無
審調技有理

条長 審条協規

国 審政経人
参軍社

科審 科原

情調長 審情析調
企安

総 番 号 R 2 4 2 1 3 0

月 2 5 日

平成 4 年 1 1 月 2 5 日

中 国 発
本 省 着

主 管

儀

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

E E V (御親書転達)

第 4 5 7 2 号

1 1 月 1 2 日付貴信ぎ第 5 7 8 号に関し、

当館仮訳を別 F A X 信申し上げる。(了)

FAX信



総番号 R242133

主管

月 25日

平成 4年 11月 25日

中 国 発
本 省 着

儀

外務大臣殿

橋本大使

EEV (御親書転達)

FAX信

(以下FAX送信 PK2049-01)

往電第 4572 号別FAX信 PK2049 /

中华人民共和国
杨尚昆主席阁下:



平成四年十一月六日于东京皇宫

明 仁

(3)

在外公館長宛謝意表明

GM7367

FAX

※総第 114660号001公館宛 GM7367-02

平成 4 年 10 月 29 日
19 時 14 分 40 秒受付

電 信 案

取扱注意

電信課長

大臣

秘書官

政務次官

事務次官

外務審議官

外務審議官

官房長

主 義 典 長

訪 中 華 室 長

首 席 班 長

総 務 班 長

口 ジ 班 長

会 計 庶 務 班 長

※発電係

起 案

平成 4 年 10 月 29 日

起案者

電話番号

村角

(坂高田) 3041

協議先

総務課長

首席事務官

報道課長

国際報道課長

中国課長

(注意) 1 枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中国

大 使
総領事

あて

外務大臣 発

件 名

天皇皇后両陛下の中国御訪問

主管・文書記号

儀

※電番

第 3 3 3 5 号

大至急

普通

至急

(優先処理)

パターン・コード

転電

転送 在

転報

※転電番号

大 使 ・ 総領事あて

大至急

至急

普通 (優先処理)

※

11466035

優先

TYUUGOKU

F電

GB-1

外 務 省

回覧番号

308

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

天皇皇后両陛下には、去る10月23日から6日間にわたり貴任国を訪問され、28日つつがなく御帰国になられた。この間各御訪問先において心温まる歓迎を受けられ、友好親善関係の増進に多大の成果を挙げられたことは本大臣としても誠に喜びに堪えない。

史上初の中国御訪問が、かくも順調に成功裡に行われたのは、貴使をはじめとする貴館職員一同の準備段階からのたゆまぬ努力の賜物であり、貴使及び館員各位に心より感謝する。

(了)

天皇皇后両陛下には、去る10月23日から6日間にわたり貴任^(地)を訪問され、
28日つつがなく御帰国になられた。この間各御訪問先において心温まる歓迎を受
けられ、友好親善関係の増進に多大の成果を挙げられたことは本大臣としても誠に
喜びに堪えない。

史上初の中国御訪問が、かくも順調に成功裡に行われたのは、貴^(総領事)をはじめと
する貴館職員一同の準備段階からのたゆまぬ努力の賜物であり、貴^(総領事)及び館員各位
に心より感謝する。

(了)

④

※総第 114661号004公館宛
平成 4年 10月 29日
※平成 19年 15分 29秒 秒受付

取扱注意

電 信 案

電信課長 g	大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典長 訪中室長 首席 総務班長 ロジ班長 会計・庶務班長	※発電係 1 起案 平成 4年 10月 29日 起案者 電話番号 村角 3041 (坂高田)
	協議先 総務課長	報道課長 国際報道課長	中国課長 copy

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 香港, シンガポール, 廣州, 瀋陽	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名 事務連絡			
主管・文書記号 儀	※電番 合第21198号	大至急 普通	至急 (優先処理)
転電 転送 在 転報	※転電番号	パターン・コード 大至急 至急 普通 (優先処理)	
各館館長へ 中村儀典長より			
↓			
※			
11466148 優先 HONKON 等004 漢			

GB-1

外 務 省

回覧番号

(昭和六三・六・三十改正)

天皇皇后両陛下は、6日間の中国御訪問を終え、28日つつがなく帰国されました。

史上初の中国御訪問が、順調にかつ成功裡に行われましたのも、本省及び在外公館の昼夜を分かたぬ尽力にあったものと考えます。

ここに改めて、館務御多忙中にもかかわらず、応援出張者の派遣などの御配慮をいただいたことに対し、心からの謝意を表明する次第です。

(了)

GM8923-

※総第118825号001公館宛 GM8923-02

平成※平成46年14月30日
秒受付

電 信 案

取扱注意

電信課長

大 臣

秘書官

政務次官
事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長

主管

儀典長
訪中室長
首席班長
総務班長
ロジ班長
会計・庶務班長

※発電係

1 2

起案

平成4年11月5日

起案者

電話番号

近藤

4158

協議先

報道課長

中国課長

国際報道課長

(※印欄内は電信課記入)



(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在

韓国

大 使
総領事

あて

外務大臣 発

件名

事務連絡

主管・文書記号

儀

※電番

第1939号

大至急

普通

至急

(優先処理)

パターン・コード

転電

転送 在

転報

※転電番号

大 使・総領事あて

大至急

至急

普通 (優先処理)

大 使

中村儀典長

儀

※

11882590

優先

KANKOKU

F電

GB-1

外 務 省

回覧番号

111

(昭和六三・六・三十改正)

GM:8923-

天皇皇后両陛下は、6日間の中国御訪問を終え、28日つつがなく帰国されました。

史上初の中国御訪問が、順調にかつ成功裡に行われましたのも、本省及び在外公館の昼夜を分かたぬ尽力にあったものと考えます。

ここに改めて、館務御多忙中にもかかわらず、応援出張者の派遣などの御配慮をいただいたことに対し、心からの謝意を表明する次第です。

(了)

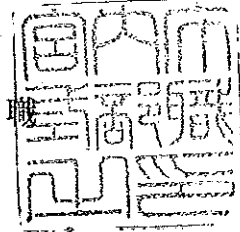


宮内式発第 1360 号

平成4年11月5日

外務大臣官房儀典官室 御中

宮内庁式部職



書簡の転達について（依頼）

天皇皇后両陛下中華人民共和国御訪問終了につき、同国駐在橋本大使に対するお礼の書簡の転達方、よろしくお取り計らい願います。

部数指示	発信通数	執務用	計
主信(写共)	1	1	2
付	(有)	備考	
属	無		

取扱注意

発送処理日	平成4年11月20日
発信	校査

文書課長

公 信 案

(在外公館あて専用)

公 信 番 号	儀 第 579 号	公 信 日 付	平 成 平成4年11月16日
大 臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 儀典長 訪中準備室長 首席 総務班長 ロジ班長 会計・庶務班長	起案	平成 4 年 11 月 9 日
協議先 中国課長		起案者	電話番号 町田 3041
受信者 在中国大使	発信者 外務大臣		
写送付先	(希望発送日) 月 日		
件 名 EEV (侍従長よりの書簡転達)			

GA-11

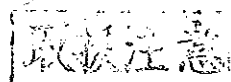
外務省

16 118

回覧番号

1795

(昭和六三・四・一改正)



儀 第 579 号
平成4年11月16日

在 中 国 大 使 殿

外 務 大 臣

件名

EEV (侍従長よりの書簡転達)

引用公・電信

日付・番号

9日 宮内庁より、今般の天皇皇后両陛下御訪
問に対する 山本侍従長より貴使宛 お礼の
書簡の転達方依頼越したので 別添送付
する。

(3)

文書課記入欄

付属添付 ☒

付属空便(行) ☐

付属空便(DP) ☐

拝啓

時下益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度天皇后両陛下には、貴任国御訪問に際して楊尚昆国家主席閣下をはじめ中華人民共和国国民の温かい歓迎をお受けになり、友好親善を深められ恙なく御帰国になられましたことは誠に御同慶の至りと存じます。

今次御訪問に当たって貴使にはかねてより貴任国政府と協力の上、周到な準備を整えられ全館あげて諸行事の取り運びに尽力されたことに対し、両陛下よりおねぎらいのお言葉がございましたのでここに謹んでお伝えいたします。

又随員、随行員等に対しましても種々お世話をいただき誠にありがとうございました。衷心より厚く御礼申し上げます。

なにとぞ令夫人をはじめ館員の皆様方にもよろしくお伝え下さるようお願い申し上げます。

平成四年十一月四日

侍従長

山本

悟

特命全权大使

橋本

恕

承

(

)

中国側・在留邦人等よりの礼状

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-060

因 政 務 典 房
大 務 務 典 房
次 次 次 次
臣 秘 官 官 審 審 長 長

経 済 査 査 外
大 大 ア 察 括 房
使 使 大 審 審 審 長

口 対 文 会 厚 情 研

察 人 在 儀 警 史 オ

報 官 報 官 内 外 プ

審 一 二

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外
参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外
参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外
参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

参 政 保 对 旅 外

総 番 号 R251773

月 8日

平成 4年 12月 8日

中 国 発

本 省 着

主 管

亜 中

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

本使・コウタクミン総書記会見（離任あいさつ）

Amu
EIV にてファイル

第4723号 秘 至急（ゆう先処理）

8日、本使は離任あいさつのためコウ・タクミン総書記を往訪したところ、先方発言の要旨次の通り。（同席者：先方 ジョ・トンシン外交部副部長、テイ・ショウリン外交部日本処長代行他。当方一当館マキタ、ミツオカ。）

1. 貴使が離任・帰国されるとお聞きし、名残おしい気持ちで一ぱいである。貴使は中国のふるい友人であり、中日国交正常化の際には当事者としてタナカ総理と共に訪中された。自分（コウ総書記）は中央でし事をして3年半になるが、貴使の在任期間とほぼ重なっている。日本の主な指導者が訪中した際、貴使はほとんどその活動に参加されているので、本日は国際情勢については重複して申し上げることはしない。
2. 中日両国人民、中日両国関係の大局から見て、中日両国は世代代にわたって友好でなければならない。両国人民が相互理解を行うのは、同じ文化を有し、近りんであることなどから他の国との間に比し容易である。シン末から民国初期にかけて中国のふるい知識分子は日本から近代科学を学んだ。日本人民は高度な組織性、規律の正さ、勤べんさをもっている。常にひざを突き合わせて接触し、意思のそ通を図ることが重要である。貴使の在任期間中にもいくつかの困難に出くわしたが、双方の共同努力により最終的にはこれら問題を解決することができた。
3. 本日は特に、自分（コウ総書記）の訪日からてん皇へい下御訪中までの期間については満足していることを申し述べておきたい。本年自分（コウ総書記）が訪日した際の日本側の警備は非常にうまく行われた。てん皇へい下御訪中の際には、西安、上海の地元の指導者に自分（コウ総書記）自ら電話をして、てん皇皇ごう両へい下の安全を確保するよう指示した。この結果、両へい下は至る所で熱れつなかん迎を受けられた。この1年の国際情勢は複雑であるが、その中で中日両国人民は相互にそん重し、支持し、貿易、科学技術等

秘

電信写

の面で協力する関係を終始維持することが双方の利益に合致することであり、極めて重要なことである。むじゅんがあれば、率直に意見交換を行えば解決できる。たとえその時には解決できなくとも最終的には解決できるものである。

4. 貴使におかれては、今後いつでも訪中されることをかん迎する。また、帰国後はミヤザワ総理、ワタナベ外務大臣及びふるい友人によりしくお伝え願いたい。

中国4公館に転電した。(了)

擬問擬答

擬問
擬答

大政事外外儀官
務務 典房
次次
巨官官審審長

外政審議室長

三 急 回 覽

大外登 博代表
使研審

総総対文会厚情才
括察人電審審史

外 審報内
報 文員 参一二
官

領後員 審政保対旅外

不 審地東
家北東西

審二保池

中商員 審一二

欧 審西ソ洋
員 二東
二

近ア 参一二アア
二二

終 次総経途博
長 経海四
審一経二國
二二

参海 審準

経協員 審政国開無
参調技有理

条員 審条協規

国 審政経人
長 参軍社

科 科原

信 審情折調
員 審企安

政 務 次 官
事 務 次 官
外 務 審 議 官
外 務 審 議 官
官 房 長
總 括 審 議 官
總 務 課 長
企 画 官
情 報 課 長
企 画 課 長
大 臣 秘 書 官

經 済 局 長
經 済 協 力 局 長
条 約 局 長

外 務 報 道 官
文 化 交 流 部 長
報 道 ・ 広 報 担 当 参 事 官
報 道 課 長

国際報道課長
国内広報課長
海外広報課長

一般情報班

下谷内
(担当川村内.2681)

大 臣 記 者 会 見 要 旨 (11月19日)(火)

(於 院内政府委員室 9:45~)

冒頭閣議報告概要

- 。 APEC 閣僚会議報告
- 。 総理訪韓
- 。 天皇陛下訪中要請

質疑応答

- 。 天皇陛下訪中
- 。 「フ」大統領の来日
- 。 肉議の模様
- 。 丁X自由化問題

部分

冒頭 閣議報告 概要

。 APEC 閣僚会議 報告

APEC 閣僚会議^に出席したことと報告した。

台湾、中国、ホンコンの参加が画期的であった。

APEC 宣言、UR 宣言と採択した。

特に、UR 宣言^星は突然 カナダが持ち出した。

APEC 宣言の他に、パンチをきかせたため UR 宣言
を別に作成しようと提案してきたが、自国(カナダ)

に都合に良い農業問題だけが問題、たまうように
書いてきた。これは問題ありとして我々は^反対

した。農業問題のみではなく、知的所有権も
なければサービス等もあると、並べて書くよう

直させた。

(APEC 閣僚会議は) 閣僚だけでなく、213 ので

閣僚が出席していたから、たゞ 全ス アウトだ。

国会もあるが、閣僚が出席しているか、いなか
 ということは国益の点からみて国内に非常に

大きな影響を及ぼすので、国益優先で今回出
 席させてもらったことは大変良かったと思っている。

○ 総理訪韓

盧泰愚大統領单独表敬により、宮沢総理
 早期訪韓を合意した。

○ 天皇陛下訪中要請

銭其琛中国外相より、天皇陛下も是非訪中
~~させたい~~要請があった。これは持ち帰

り、相談に返すという旨と回答した。

(質疑応答。)

○ 天皇陛下の訪中は検討されているのか。

(訪中するか否か)わかりません。これから話がある。

当面の人の^往来動の大きな話題は「フ」大統領の訪日と
官沢総理の訪韓である。

。 「フ」大統領の来日

(内) 「フ」大統領来日日程の進展如何。

(大臣) 通常国会前というところである。

。 閣議の様相

(内) 閣議は長かったようだが、閣僚から意見、不規則発言等特別なことあり。

(大臣) 特別の意見は出なかった。所管事項の発言
があった。さういって悪いことと意見表明が

あった。不規則発言はない。

。 コス自由化問題

(内) コス部分自由化、関税化は政府と決めた

つか如何。

(大臣) 外務大臣が~~た~~自分(大臣)は知らない。

(内) 「知らない」とはどういうことか。

(大臣) 正式な話は^何ない。

(内) コノ自由化に向けて小沢前幹事長、金丸元副
総理から柔軟な姿勢が出されているか。

それを受けての政府対応^{必要性}如何。

(大臣) 政府ということではない。

個人の私~~機~~^身はある。

(内) 本日の閣議でコノに関する発言の有無如何。

(大臣) 全々ない。

「閣議で政府方針を固めた」という(記事は)

のはいい加減である。

(19) 部分解放では米は納得せず、URの前進は
 できないのではないか。大臣の感想如何。

(大臣) URの失敗か成功かといっても、今よりも後退
 にはいけない、前進することだ。この国も100
 90点で95点では

点をとろうとしたら交渉に口をきく。日本だって
 農業分野で不満があるかも知れない。しかし、

知的所有権、サービス等では100点に近い訳
 だから、平均にならなければ合格点の上の方で

ある。

(20) 米は^{2Xの}部分自由化では納得しないと言っているのでは
 ないか。

(大臣) これは最後まで言うであろう。一歩に^案案件
 事項解決はいかた^案ず。どこかで折り合い
 全部という訳には^{ない}

(が必要) ^{だ。}とにかく交渉は続いていく。

答 陛下の御訪中については、諸般の情勢を慎重に見極めつつ、今後検討されることとなるう。

問 六日付毎日新聞夕刊は、江沢民総書記が、「もし天皇に中国訪問のご希望があれば、いつでも歓迎する。」と述べたと報じているが、見解如何。

対外応答要領

平成二年七月六日
中国課

化、カヒ、フカヒ	
外政審	
大政事務次官	外務省審議官
大臣官房	審議官
大外査察使	博代表
総括審察人	文会厚情オ
外報官	参内参外
領移長	文長
長	参政保対旅外
北米長	審地中東
中南長	審地東西
欧長	審一二保地
近丁長	審一二
経長	次総経途博
	経漁国
	参経エ国
	安ネ二
	参海
	審準
経協長	審政国開無
	参調技有理
条長	審条協規
国長	審政経人
	参軍社
科審	科原
情審	審情析調

取扱注意

※総第

※平成 年 月 日 秒受付

電 信 案

電信課長

○大臣 秘書官 ○政務次官 ○事務次官 ○外務審議官 ○外務審議官 ○官房長	主管 ○アジア局長 ○審議官 ○参事官 ○中国課長 ○首席事務官 ○総務班③ ○警備班	※発電係 1 2 起案 平成 3 年 6 月 26 日 起案者 電話番号 9140 2428
	協議先 儀典官 ○儀典官 ○報道課長 ○... 決裁後コピー配布	出張中 1/19-7/4 ○企画課長 ○北米第一課 ○国連政策課長 ○軍縮課長 ○人権難民課長 ○原子力課長 ○北東アジア課長 ○...

(※印欄内は電信課記入)

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中国	大使 総領事 であて	外務大臣 発
件名 日中外相会談 (記者会見)		
主管・文書記号 臣 中	※電番 茶電 21	大至急 至急 普通 (優先処理)
転電 転送 在 転報	※転電番号 大使・総領事あて	パターン・コード 大至急 至急 普通 (優先処理)
※		

(印欄内は電信課記入)

26日、官本中国課長は、日中外相会談に関する記者ブリーフを行ったところ、概要次の通り。(なお、新聞・テレビの締め切り時間との関連から、^(本ブリーフに先立ち、)同会談の2国間会談部分について、別FAX信の貼り出しを行った。)

1. 中米関係

(1) 錢部長より、^(次の通り述べた。)中国は中米関係を重視しており、中国側も努力している。人権問題についても、中国内の人権問題を検討するつもりは無いが、^(人権問題2)各国との意見交換は行っており、米
国とも接触を行っていく。中東に関する安保
理常任理事国による軍備管理会合~~開催~~南アジ
アの核不拡散会議にも参加するつもりである。
中米間で軍備管理についての協議する提案を行っ
ている。中米関係改善のための日本側の努力
に感謝しており、日本が今後積極的役割を
果たすことを期待する。中国も中米関係改善
に努力する。

(2) ~~大田~~大臣より、中米関係の状況は厳しいものの

1. 中国が如何なる状況に踏まえて対応している
と述べた。

2. 朝鮮半島

(1) 銭部長は、北朝鮮訪問の直後と、うにとも
あり、次の3点を述べた。

(1) 北朝鮮の国連加盟の方針決定は、現実的な
賢明であり、誠意が感じられる。

(2) 核開発問題については、中国は北朝鮮と原
子力協力を行っており、この点で美意は承知して
いるが、北朝鮮は核開発の意思も能力も強
いと感じている。

(3) 中国は北朝国交正常化進展を期待している。

3. カンボジア

(1) 日中双方とも、~~カンボジア~~ S N C パリヤ会合で
シハヌーウ殿下の指導の下、「カ」各派の当
事者自身の歩み寄りに進展が見られたことを
高く評価。

(2) 中国側は「カ」問題解決の国際的条件は今
や成熟したとの認識を示し、残された問題は

「カ」各派が内部の問題はつぎ如何にして和解、妥協を實現させるかである。と述べた。

(3) 大抵より、シハヌーイ殿下のイニシアチブの下、「カ」~~各~~⁴派が話し合つて妥協を図る

ことが「カ」和平の基本原則であるとの認識

を示した。また、先般のフーテン市で

ンセンとの会談に言及しつゝ、今後武装解除

等の残された問題につき、日中双方共、それ

ぞれ「カ」各派の柔軟な対応を御さるゝべ

きであると述べた。

(4) また、ジャカルタ会合の結果として P-5

和平案の一部修正が既述方針に即したものと

なり、其伴的修正の範囲等と中国としてど

うあるかと質したのに対し、~~戦~~戦部長は

国連の包括和平の枠組み合意は変更するとは

しは無いが、パリ和平協定の草案について

これはある程度草案であり、修正の余地はあ

ると述べた。

4. 大量破壊兵器、ミサイルの不拡散

(1) 大臣より、大量破壊兵器^{（核兵器等も含む）}の
 防止に言及し、NPT締結を訴えた。また、
 原子力に関連してロンドンガイドラインへの
 参加を呼びかけた。化学兵器禁止条約の原署名
 国となるよう要望した。ミサイル不拡散につ
 いて意見交換を行ったこと述べた。通常兵器
 移転については、国連への報告制度について
 今年決議案を作成する。と述べた。

(2) 銭部長より、中国は軍備管理、武器輸出に
 ついては積極的態度をとっている。中東の
 ほりず、世界各地で全面的なバランスをとれ
 る軍備の~~削減~~実現さるべきである。との発言
 があった。NPTについては、時間をおいて
 検討する必要がある、と述べた。
^{（中国の核政策は慎重である）}

5. 国連為事旧敵国条項

大臣より、旧敵国条項^{（問題）}について、引き続き
 支持を要望したところ、銭部長は、旧敵国条
 項の歴史的背景を述べた。戦後の歴史へ変化の
 よう根拠は失われた。法理的、平权的問題は

ありえろう。必ず解決のための方途を探し
出せよう。と述べた。

6. 安保理非常任理事中国選任立候補

(大田正の事に対する要請に対し)

✓ 錢部長より、アジア・パシフィック・エント-
ス・バで行われていた ~~中国~~ ^{中国} への支持の問題が
述べた。

7. モンゴル

(1) 大田より、積極的にモンゴル支援を行うが、
調達・輸送の面で協力してほしい。かかる中
で協力は、アジア・パシフィック・エント-
ス・バの世界のデーンである。と述べた。

(2) 錢部長より、^(非難) 悪い提案である。中国もモン
ゴルと種々協力を始めた。国境8カ所の開設。
自動車輸送協定は、自分(錢部長)の訪問の
直前に行われ、現在、天津新港よりモン
ゴル物資輸出についてモンゴルと協議中であ
る。と述べた。いづれいせよ、モンゴル ^{支援} の内
容は協力について、中国側には何の肉迫もな
い。と述べた。

8. サミット

(1) 銭部長より、^{ニルズ}サミットにおける日本の努力に感謝すると共に、中国と西側との関係改善のために積極的役割を果たして貰いたい。中国も関係改善に努力する中で、関係国にも同様の態度をとって貰いたい。と述べた。

(2) 大臣より、日本は唯一のアジア・サミット参加国として、アジアの繁栄を主張するとの親近から、昨午も対中輪席を実現した。サミットを通じて、中国とサミット諸国との関係改善に努力したい。と述べた。

9. 質疑応答

問、北朝鮮は I A E A による査察は受け入れないのか。

答、要自分（中国側）の懸念があるが、中国側は、査察積極を結ぶことにしたい。北朝鮮は明確な説明を要する模様である。

問、天皇訪中について、中国側の言の方向。

これまでも違うのか、

答. これまでも中国客人に天皇舘中の招請を行っており、形式上には日本側はこれまでも検討してゐる訳であるが、素来以日中国交正常化20周年であり、中国側は、^(二機合)天皇舘中を美観したことの気持が強いといふことが、^(これ以上)違ふと言ふ。

由. 天皇舘中は、総理訪中時に検討結果を出すのか、

答. 是のようには決する必要はない、
(事件については、政府内部で検討するのと相違多岐に亘るため、)
(以下、お答え) かかる事情は、中国側も承知してゐる。

由. 大抵以北朝鮮の核開発問題に言及したのか、

答. 北朝鮮の核開発が東アジア全体の安全保障に重大な影響を及ぼすものとしてあり、先ず北朝鮮の~~核開発~~ LAEA への保障措置徹底と早期の無条件の締結、履行するに必要

(三三〇字)

可欠。従来より、新設案件を版下下位に
うの明確を期し、」を述べた。

(3)

取扱注意

※総第

※平成 年 月 日 秒受付

電 信 案

電信課長

大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管	アジア局長 審議官 参事官 中国課長 首席事務官 総務班 電報班	※発電係 1 2
	協議先	儀典官 企画課長 北米第一課 国連政策課長 軍縮課長 人権難民課長 原子力課長 北東アジア課長 経済協力課長	起案 平成 3 年 1 月 26 日 起案者 電話番号 94th 2425

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在	中国	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名	日中外相会談 (記者リリース)			
主管・文書記号	※電番	大至急 普通 (優先処理)	パターン・コード	
電 転送 在 転報	※転電番号	大至急 至急 普通 (優先処理)		
任電自中 号別PAK信 ↓				
※				

日中外相会談 (フジテレビ)

(2回同内容)

4.26.

新聞・テレビの格別取り扱いとの関係により

本会談の2回同内容部分について 宮本中国課長より
「お大事に」

午後11時10分

電話連絡越した内容を電ラフにフジテレビへ

概要以下通り。

1. 総理訪中

(1) 錢外相より「中山大佐の足元へ訪中」

成功し、中日関係の発展に大いに意義が
ある。今回の自分(錢外相)の訪中の主たる

目的は、このように中日関係発展の基盤を更に
強化し、海部総理訪中の準備を完了すること

にあり、旨であった。

二つに、中山大佐より「海部総理の訪中

を契機に両国関係が更に発展することを望む。
旨であった。

(2) 錢外相門 「海部総理が 李鵬総理

と招待で 8月10日から13日まで訪中した

こと、中国政府は大変重視しており、中日
関係の新たな出発点と位置づけている。

中国政府としては、より多くの努力をして総理訪中
を円満に成功させたつもりである、と述べた。

(官庁を官より 11時の会見で エンゼンと併せて
総理の訪中を歓迎し、旨紹介にわたる)

2 中国の改革と開放

(1) 中山太郎氏門 「中国、政治・経済改革が

外国にも波及するように進められることを望む。
最近 李鵬総理が 経済改革と同時に政治

改革を進めると発言したことに注目している。

このような改革・開放に基づき中国の近代化
(我々国といふ)

努力に對し、引き続き協力していくべき、と述べた。

(2) 中国に於ける銭外相の「改革・開放」について

は、中国人民の支持するところであり、その解決は

より速く行われなければならない。」と述べた。

3. 日中国交正常化20周年記念行事

要に、相互訪問と共に、日中両国で文化的

行事を行うべく今後積極的に準備するつもり

と発表した。

4. 天皇陛下の御訪中問題

(1) 銭外相の「天皇・皇后陛下の明年の訪中

の良き時期に訪中を希望することを非常に歓迎する。

中国指導者は何れも天皇陛下の御訪中を

招待しており、その実現を望み、中国人民の熱烈な歓迎を受けるであろう。中日関係史の

上でも未だかつてなかったと述べており、その点の
の良好なため天皇陛下の原動力となりうるし、中日両国

の将来にとって大きな影響を与えるであろう。」と述べ

べた上、日本政府に積極的に検討してほしい
を心から希望する旨述べた。

(2) に対し、中山大佐は、「(鐵外組の)発言は
注意して承知した。日本政府において十分

検討したい。」旨述べた。

5. 対中経済協力

(1) 鐵外組は、「中国の近代化建設のため

日本政府・民間から種々協力頂き非常に感謝
したい。引き続き宜しくお願ひしたい。是(中)の

には内務部局にお願いしたいので、(中)の
第3次エネルギー借款については宜しくお願ひしたい。

旨述べた。

(2) に対し、中山大佐は、「関係方面の向う引き

続き十分協議したいと望む」旨述べた。

(3)

(大)	(司) (務) (次) (官) (審) (査) (長)	三
大外 使研	査察 客	博代 芸
(司) (務) (次) (官) (審) (査) (長)	対文 (合) 厚情才 括 審察人電 (司) (務) (次) (官) (審) (査) (長)	
(外) 報 官	(参) (事) (務) (局) (内) 外フ	
(文) 書 長	参一 二	
(司) 務 長	寄政保対旅外	
(了) 長	(司) (務) (次) (官) (審) (査) (長) (了) 長	
(北) 果 長	一 二 保地	
(司) 司 長	寄一 二	
(政) 長	寄云ソ洋 一 西東 二	
(了) 了 長	参一 二 了了 一 二	
(司) 司 長	總経途博 一 経漁国 一 悠エ国 受ホ二	
	参荷 寄埠	
(司) 協 長	寄改国開無 参調技有理	
(司) 司 長	密糸協規	
(司) 司 長	寄政怪人 参軍注	
(司) 司 長	科原	
(司) 調 長	寄改析調 企安	

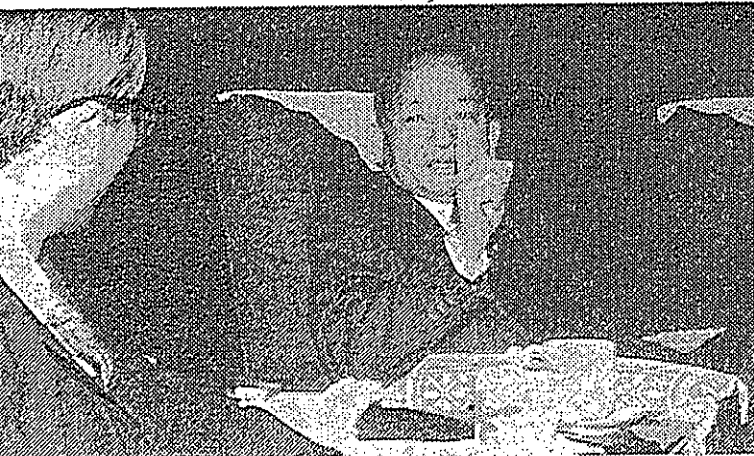
中国・田副首相 あす訪日控え会見

12/1 ①

天皇訪中を再招請

【北京30日＝横堀克己、和気靖】中国の田紀雲副首相（共産党政治局員）は三十日、北京の人民大会堂で朝日新聞記者と会見した。田副首相は十二月一日から、宮沢首相が誕生して以来迎える初の中国首脳として訪日するが、宮沢首相との会談で天皇陛下の訪中を改めて招請することにも、これまでの対中経済協力とは別枠で中国の農業開発を対象とした新たな円借款の提供を要請することを明らかにした。

田副首相は、外務省と日中経済協会の招きで日本を訪問する。李鵬首相からの宮沢首相への親書を携え、来年の日中国交正常化二十周年の記念行事などについて具体的に話し合う。天皇陛下の訪中について、田副首相は「中国政府として、すでに招請しているが、宮沢首相に会って、中国側が心からご訪問に期待している気持ちを重ねて伝えたい」と述べ、国交正常化二十周年の来年中の訪中に強い期待を表明した。



朝日新聞記者と会見する田紀雲副首相
＝30日、北京の人民大会堂で、和気靖写真＝

中国政府で、農業と対外経済貿易分野の責任者である田副首相は、「今回の訪日の具体的な目的は、両国の農業分野での協力を拡大することにある」と表明。日本政府に対し、これまでの円借款や資源開発ローンとは別に、「農業開発ローン」の形で農業に的を絞った協力を求める考えだ。田副首相は「農村の発展と安定は中国の基礎であり、日本の支援を期待したい。ローンが実現すれば波及効果は大きく、日本に対する農産加工品や野菜、大豆などの提供も拡大できる」と日中双方の利益になることを強調した。

田副首相は、中国共産党の十四人いる政治局員の一入。二十九日閉幕した第十三期中央委員会第八回全体会議（八中全会）の後、党幹部として初めて外国人記者のインタビューに答えたが、党の人事が見送られたことについて「指導部の安定は、中国の発展に有利だ」と語り、安定を最優先した結果であるとした。

また八中全会で農業重視が決まったことも、農業ローン要請の背景となっているとみられるが、田副首相は農業重視について「中国の安定と発展は農村にかかっている、この認識からだ」と説明。会議で「農民が土地経営の自主権を得た八〇年代の農村改革を全面的に肯定する一方、一農家だけでは解決出来ない、水利や科学応用、産品販売などの分野で集団経済の力を活用する方向が決まった」と紹介した。今回の日本訪問では農協を見学して「農村部の社会的サービスシステムを確立する参考になりたい」と語った。

農業開発円借款 要請へ

12/1

天皇訪中関係

報道振り

国交回復20年目 天皇訪中実現を

④いん 渡辺外相

渡辺副総理・外相は三十日、宇都宮市内のホテルで記者会見し、天皇陛下下の訪中問題について「(中国は)来年、天皇陛下下に来てもらいたい、と言っており、そういう方向がよいのではないかと考えている。過去のこととは言わずに前を向いた関係を作っていきたい」と述べ、来年の日中国交回復二十周年を機に天皇陛下下の訪中を実現すべきだとの考えを示した。

⑤いん 両陛下の来年 訪中望ましい

渡辺外相

渡辺美智雄外相は三十日、日中国交正常化二十周年にあたる来年、天皇陛下下が中国を訪問されるよう中国側から招請があることについて「中国は昔のこととは言わず、一つの区切りにしたいと言っている。宮内庁は返事をしていないが、私はそのほうがいいと思う」と述べ、天皇、皇后両陛下の来年の中国へ訪問が望ましいとの見解を表明した。

政府は今年九月から十月にかけての両陛下下の東南アジア諸国連合(ASEAN)三か国歴訪に続く、来年の海外へ訪問先の検討を進めており、中国のほか西欧、韓国などが候補に挙がっている。政府内には中国については、同じアジア地域のご訪問が続くこと、同地域では韓国との関係もあることなどから消極論もあり、具体的調整にはなお時間がかかりそうだ。

⑥いん 天皇訪中を 前向き検討

渡辺外相

渡辺外相は三十日、宇都宮市内で開かれた会合で講演し、来年の中国との国交回復二十周年に天皇陛下下の中国訪問を検討していることを明らかにした。

渡辺外相は「中国は天皇に参ってもらいたいと言っているので、その方向で考えている。過去のこととはいわずに、前を向いて関係をしっかりとくついでいきたい」と述べた。

1991. 12. 3 (火) 夕刊

東京

両陛下下訪中を招請

中国副首相が首相と会談

来日中の田紀雲副首相は三日前、首相官邸で宮沢首相らと会談した。宮沢政と約一時間会談した。宮沢政は「招待に感謝する。いろいろな事情を踏まえてよく検討したい」として、明言を避けた。また、田副首相は、来年中の首相訪中を求めた李鵬首相からの親書を手渡した。

さらに田副首相は、第三次四億人の枠外で、新たな農業開発借款の検討を求めたが首相は「まず事務レベルの話し合いをしたらどうか」と述べた。

会談の中で田副首相は「両陛下の中国訪問は必ずや中国政府、人民から熱烈な歓迎を受ける。促進してほしい」と検討していく考えを伝えた。



中国の田紀雲副首相（左）と会談する宮沢首相—首相官邸で

竹下氏とも会談

中国副首相

中国の田紀雲副首相は三日前、都内の事務所で行った首相と会談し、天皇、皇后両陛下の中国訪問を招請する意向を伝えた。田副首相は「日中国交正常化二十周年の来年に訪中していただければ、熱烈かつ友好的なおもてなしをしたい」と述べたのに対し、竹下氏は「適当な時期を政府が検討しているのではないかと、表現の見過しを示した。」

天皇陛下の来 年訪中を要請

田副首相、宮沢首相に

来日中の田紀雲・中国副首相は三日前、首相官邸で、宮沢首相と約一時間会談し、日中国交正常化二十周年を迎える来年中の天皇・

皇后両陛下の中国訪問を改めて要請した。首相は、「招待に感謝する。いろいろな事情を踏まえてよく検討したい」として、明言を避けた。また、田副首相は、来年中の首相訪中を求めた李鵬首相からの親書を手渡した。

さらに田副首相は、第三次四億人の枠外で、新たな農業開発借款の検討を求めたが首相は「まず事務レベルの話し合いをしたらどうか」と述べた。

天皇陛下の訪中招請

宮沢首相に
中国副首相

宮沢首相は三日午前、官邸で、来日中の田紀雲中国副首相と会談した。田副首相は天皇、皇后両陛下の訪中を招請したほか、農業開発を対象にした新たな円借款を要請、日中、米中関係について首相と幅広く意見交換した。

田副首相は、天皇、皇后両陛下の訪中については「日中国交正常化二十周年に当たる明年、訪中される相にぜひ訪中願いたい」と正式に招請した。首相は「いろいろな事情を踏まえ、検討したい」と答えた。

また田副首相は、「国交円を上る第三次円借款の枠外として農業基金借款の検討を要請。日中間の貿易拡大へ協力を求めた。」と、これに対し、首相は訪中招請への感謝を表明した上で、あらたな借款については「第三次円借款の組み替えをするのかどうかを含めて事務レベルで話をしている」と応じた。

また首相は先のベーカー米國務長官訪中を踏まえ、米中関係の進展に期待を表明。田副首相は「米中両国間には基本的に利害の対立する問題はないと思う」と述べ、同長官訪中を「両国関係改善への重要なステップだった」と評価した。

またこの後、田副首相は同日午前、都内の事務所を訪ね、約三十分、現に尽力を要請。これに対し、竹下氏も「訪中されれば非常にいい、というのは府も同じ気持ちだ」と述べ、政府が具体的に程調整に着手していることを示唆した。

述べ、同長官訪中を「両国関係改善への重要なステップだった」と評価した。

またこの後、田副首相は同日午前、都内の事務所を訪ね、約三十分、現に尽力を要請。これに対し、竹下氏も「訪中されれば非常にいい、というのは府も同じ気持ちだ」と述べ、政府が具体的に程調整に着手していることを示唆した。

大	政務次官	典房
臣	官官審審長長	
大外査	使研審	博代表
総経対文会厚情オ	括察人電在警史	
外報官	参一二	
文長	参一二	
領移長	審政保対旅外	
ア長	参一二	
北米長	審一二保地	
中南長	審一二	
欧長	審西ソ洋 西東	
ア長	参一二アア 二二	
次総経途博	経漁国 参経エ国 安ネ二	
参海	審準	
審政国開無	参調技有理	
審協規		
審政経人	参軍社	
科原		
審情折調	企安	

(対外応答要領)

外務大臣の訪中日程

平成3年12月5日
中国課

問. 5日付時事電は、渡辺副総理兼外務大臣が明年1月10日すぎから2、3日の日程で訪中する意向を固めた旨報じているところ、事実関係如何。

答. 渡辺大臣の明年の外国訪問日程については、現在色々検討しているところであるが、具体的日程は今のところ未定である。

(更問、天皇の明年9月訪中が浮上しているとの報道については如何。)

答. 天皇陛下の明年の外国御訪問日程についても全く未定と承知。

(更問、その他の問いに対し、)

答. 未定の外国訪問日程を前提とした仮定の質問にはノーコメント。

05AB18

J5A413

AB18

274

56行

(メモ③)

独自

◎渡辺外相、1月10日すぎ訪中へ

★

■両陛下の初ご訪問で詰め

―国際協調路線堅持を要請―

渡辺外相は五日、来年一月に訪中する意向を固めた。中国側と近く日程調整に入るが、ブッシュ米大統領の訪日（同七日・十日）が終了する一月十日すぎから、二―三日間となる見込み。外相はこの訪中で、中国が引き続き国際協調路線を堅持するよう改めて要請するとともに、来年の日中国交回復二十周年を機に両国最高首脳相互訪問、特に九月に予定される天皇、皇后両陛下下の訪中日程について詰めた考えだ。

外相は一月の訪中で、李鵬首相、江沢民中国共産党総書記ら要人と会談したい意向で、その際、日本側からは中国が一昨年六月の天安門事件以降、日本を含めた欧米各国との関係改善に努めていることを高く評価、今後とも改革・開放、国際協調路線を維持するよう申し入れる。また、西側各国の関心が高い①核拡散防止条約（NPT）への早期加入②人権問題③通常兵器移転の国連報告制度―などについて、これまで以上に積極的に取り組むよう促す方針だ。

国際情勢では、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の核開発疑惑などの朝鮮半島情勢やカンボジア復興、中越関係の改善問題などが取り上げられる見通し。特に北朝鮮の核問題については、北東アジアの安全確保の観点から、核開発を中止し、早急に国際原子力機関（IAEA）の検査を受け入れるよう中国側からも、北側へ再度働きかけるよう強く申し入れることにしている。

一方、来年九月二十九日が日中国交正常化二十周年に当たることに伴い浮上している天皇、皇后両陛下の初めての中国ご訪問や、楊尚昆国家主席ら中国要人の訪日日程についても協議したい意向だ。

渡辺外相は、外相就任前の昨年四月と今年三月にも訪中、李鵬首相らと会談している。

05-19:34

05-19:33

05-19:33

日中外相会談用発言応答資料作成依頼

平成 3 年 1 2 月 1 3 日

中 国 課

渡辺大臣は明年早々訪中の方向で現在中国側と調整中のところ、年末年始にかけての作業を極力少なくするとの観点から、現時点で作成可能な資料（発言・応答要領及び参考資料）について前広に作成することと致したく、関係各課の御協力をお願い致します。とりまとめの都合上、とりあえず提出期限を 1 2 月 2 0 日（金）までとし、それ以降の状況の変化等については差し換えにより対応させて頂くことと致します（資料提出先：中国課総務班 泉（EX2426）又は、和田（EX2425））。

作成依頼項目

関 係 課

1. 冒頭発言 _____ 亜中

（日中二国間問題）

（経済協力については別途依頼済み）

2. 日中国交正常化 2 0 周年 _____ 亜中

（1）要人往来（含 天皇訪中） _____ 亜中（儀典）

（2）その他記念行事（含 民間窓口） _____ 亜中

（3）国際交流基金北京事務所開設問題 _____ 文一（亜中）

3. 東海公海上の船舶の安全航行 _____ 亜中（条規）

〈応答要領〉

・ P K O 協力法案 _____ 国政

・ 遺棄 C W _____ 亜中（国軍）

・ 東海石油資源開発 _____ 亜中

・ 輸銀の第3次資源ローン ————— 亜中

4. 中国のGATT参加 ————— 経国一（亜中）

〈応答要領〉

・ 台湾のGATT加盟 ————— 経国一（亜中）

（国際情勢）

5. 軍備管理・軍縮問題

（1）中国の武器輸出問題全般（通常兵器移転の透明性向上を含む） ————— 国軍（とりまとめ）

（2）MTCR ————— 経安

（3）中国のNPT加入 ————— 国軍

6. 米中関係（含 人権、民主、知的所有権、貿易） ————— 亜中（米、二）

7. 地域情勢

（1）朝鮮半島情勢（北朝鮮の核開発） ————— 亜北

（2）インドシナ情勢（含 中越関係、カンボディア復興） 亜東一

（3）ソ連情勢 ————— 欧ソ

（4）香港問題 ————— 亜中

（5）対モンゴル支援 ————— 亜中（経協局）

8. 地球環境問題 ————— 亜中（地球環境室）

(対外応答要領)

天皇・皇后両陛下の中国御訪問

平成4年1月27日

中 国 課

問. 27日付読売(朝刊)は、北京の消息筋の話として、本年秋に予定されている天皇・皇后両陛下の中国御訪問は9月27日から5日間の日程で、北京、上海と、西安か杭州を訪れることになる見通しである旨報じているところ、事実関係如何。

答. 本件記事は完全な推測記事であり、天皇・皇后両陛下の中国御訪問については政府部内で真剣に検討中。

(了)

天皇陛下訪中

9月27日から

中国筋見通し

【北京26日＝荒井利明】

当地の消息筋によると、今年秋に予定されている天皇、皇后両陛下の中国訪問は九月二十七日から五日間の日程で、北京、上海と、西安が杭州を訪れることになる見通しである。日中国交回復二十周年記念日の九月二十九日に北京で盛大な式典が計画されているが、中国側はこれに両陛下が出席されることを望んでいるという。

(対外応答要領)

天皇・皇后両陛下の中国御訪問

平成4年2月20日

中国課

問. 20日付東京新聞(朝刊1面トップ)及びサンケイ(同第2面)は、外務省首脳が明らかにしたとして、政府が今秋の天皇・皇后両陛下の中国御訪問を決定し、江沢民中国共産党総書記が4月に訪日する際に先方に伝える旨報じているところ、事実関係如何。

答. 天皇・皇后両陛下の中国御訪問については現在政府部内で真剣に検討中であることに変わりはなく、かかる決定を政府部内で行ったという事実はない。

(了)

ヒ、カ、フ、セ

行政

大政事外儀官
務務典房
次次
臣官官審審長長

大外査 博代表
使研審

総対文会厚情オ
括審察人ミ在儀警史

外

報官 文長 参

領移長 保対旅外

ア 東 西 3

長 北米長 審一二保地

中南長 審一二

欧 審西ソ洋 西東

長 近アア 一二

経 経途博 経国 参経エ国 安ホ二

長

参海 審準

経協長 審政国開無 参調技有理

条長 審条協規

国 審政経人

長 参軍社

科審 科原

情調長 審情析調 企安

両陛下の今秋訪中を決断

政府 総書記来日時に伝達



天皇陛下



皇后陛下

政府は中国側からかねて行「の中国訪問招請を受け入れられていた天皇、皇后両陛下」ることを決断、四月六日から

の江沢民中国共産党総書記の訪日時に、宮沢首相から「両陛下の今秋訪中」を正式に伝える方針を固めた。

外務省首脳が十九日夜、明らかにしたもので、同首脳は「江総書記訪日時には、日本側として従来の態度より踏み込むことになる」と述べて、

ただ、自民党内には両陛下訪中に反対する意見も根強くあるため、政府・自民党首脳は中国側に訪中を正式に伝えるのを機会に、早急な党内調整を迫られることとなる。

両陛下の訪中について中国側は、一月に訪中した渡辺外相に対し「日中国交正常化二十周年の今秋、両陛下の中国訪問を歓迎する」と、初めて時期を特定して両陛下の訪中を招請した。

これに対し、渡辺外相は「中国側の累次にわたる招請を多としつつ、政府部内で真剣に検討する」との意向を表明している。

明している。政府が従来の態度を踏み出し、両陛下の今秋訪中を江総書記に伝えることになったのは、両陛下の今秋訪中を実現するには、少なくとも今春から準備に着手しなければならぬ中国側の招請は累次にわたっており、これ以上先延ばしはできない。天皇陛下ご自身が訪中に意欲を示されている。などの理由によるとみられる。

江総書記来日時に政府

天皇訪中を公式伝達

政府は十九日、中国の江沢民共産党総書記が四月に訪日した際、天皇、皇后両陛下が今年秋に訪中されることを中国側に公式に伝達する方針を固めた。

外務省首脳が明らかにした。両陛下の中国ご訪問は、今年が日中国交正常化

二十周年にあたり、中国の強い要請もあって、政府は最優先の課題として検討、渡辺外相が今年一月に訪中した際にも、中国側に日本政府の基本的な考え方を伝えている。

宮沢首相と江沢民総書記との会談では、日程について最終的な詰めを行いたいと考えた。天皇陛下の中国ご訪問については、自民党の一部に慎重論があるが、外務省首脳は「反対は必ずある。国交回復二十周年を迎えるのだから、今後の日中関係を考えなければならぬ」と述べた。

2/20

天皇訪中関係

乞コピー(120)付

天皇・皇后両陛下の中国ご訪問

92.3.31

中 丑

[illegible]

問. 31日付本邦各紙（別添）によれば、政府は宮沢総理と江沢民総書記との日中首脳会談において、天皇・皇后両陛下の今秋ご訪中について確約を避ける方針を決めた旨報じているところ、事実関係如何。

答. 天皇・皇后両陛下の中国ご訪問については、累次の中国側招請を踏まえ、現在、政府内で真剣に検討しているところ。

(更に問われた場合、)

答. いずれにせよ、(陛下のご訪中は)現在検討中ということである。

天皇の訪中確約せず

3/31 T②

首相
方針

来月の日中首脳会談で

宮沢首相は来月六日に来日する江沢民中国共産党総書記との日中首脳会談で、最大の焦点となっている天皇、皇后両陛下の今秋訪中問題について、中国側の招待受諾の確約を避け、なお検討を続けるとの態度で臨む方針を固めた。政府は先月中旬の時点で、中国側の招待を受諾、その旨を宮沢首相から江総書記に伝えることにしていた。それが一転して確約を先送りす

ることになったのは、自民党内に①日本側が「固有の領土」と主張している尖閣諸島を中国が領海法で自国領土と明記した②中国民間人の間で日中戦争に絡み、対日賠償請求の動きが高まっている——などを理由に、両陛下訪中に慎重論が出ているのを政府側が考慮したためだ。

中国側は、一月に北京で行われた渡辺外相と銭其琛外相の会談をはじめ数多くの機会に、両陛下訪中の招待を行ってきた。江総書記も六日に行われる首相との会談で、改めて招待するものとみられる。これに対し、日本側はこれまでそのつど「検討」を約束してきたが、外務省首脳は二月十九日に「江総書記来日時には、従来より踏み込むことになるだろう」と、招待を受諾する意向を示唆していた。

回答保留の方針

3/31 SK③

江沢民総書記来日時に

陛下の
天皇
政府
ご訪中

政府は三十日、日中関係の最大焦点のひとつである今秋の天皇陛下の中国訪問について、四月六日の江沢民・中国共産党総書記の来日時に具体的な回答を行わない方針を固めた。

尖閣諸島の領有宣言や日本に戦時賠償を求める動きなどをきっかけに、天皇陛下ご訪問は皇室の政治利用につながるとの反対意見

が自民党内などに強まっていることに配慮したもの。天皇陛下のご訪問は、中国側が強く求め、日本政府も今年が日中外交正常化二十周年にあたることから、米国や韓国などに先駆け、実現する方向で検討。渡辺外相の一月の中国訪問の際、「真剣に検討する」と伝える一方、非公式に十

月二十二日から六日間とて明記、さらに全国人民代表大会（全人代）に日本への戦時賠償を求める法案が提出されるなど情勢が一変した。政府としては、日中友好の象徴として予定通りご訪問を実現させたい考えだが、尖閣諸島や、日本の民主化要請などに対する中国側の対応を見極めながらの最終判断になりそうだ。

中國課

(中国課注：中国課への本件に関する記者よりの照会には、本件橋本大使の動きについて①宮澤総理の支持に基づく根回しか②外務省が宮澤総理の尻をたたくための動きかとの2つの見方があり、中国課では何れも極端な考えであり、適切でないと対応している。)

(丁)

地址-145

29AB10

J9A196

AB10

(政)

65

9行

「AB07「首相」関連」

◎天皇訪中で橋本大使が事情説明へ

宮沢首相は二十九日午前の佐藤自民党総務会長との会談で、天皇陛下の訪中問題に関し「帰国中の橋本駐中国大使が自民党の主だった人に中国の事情を報告する。訪中を前提とするものではないが、よろしくお願いしたい」と述べた。

(了)

29-12:23

(13)

(対外応答要領)

天皇陛下御訪中（政府決定報道）

92.7.13

中国課

問．13日付東京新聞（朝刊）は、宮沢総理が天皇陛下の御訪中を10月前半に実現する方針を固め、外務省に指示した旨報じているところ、事実関係如何。

答．日中両国の国民の祝福を得て、天皇・皇后両陛下が中国を御訪問されることは、日中両国及び国民の一層の友好関係の発展にとり、意義深いことと考えるが、本件については、中国側の累次招請を踏まえ、現在政府内で真剣に検討しているところである。従って、ご指摘の報道は全くの推測記事である。

(了)

10月前半に天皇訪中

来月に正式発表
北京など数日間

【関連記事2面に】



皇后陛下

も含め、日本国内の世論調査によると、国民の過半数が訪中を支持している——などの理由による。

自民党内の反対・慎重論も、六月下旬から今月初旬にかけて、一時熾闊していた橋本駐中国大使が同党幹部間を回って説得した結果、党内の空気が微妙に変化している。

国連平和維持活動（PKO）協力法成立に対する中国側の反応が抑制的だったことも、反対論の沈静化に役立った。

こうした状況から、政府部内で判断を任ざっていた首相も「ゴーサイン」を出したものだ。

訪中時月が「十月（半）」となるのは、九月で準備

期間が足りないこと、十月が立て込んでいること、なる後半以降は中国の政治日程などを考慮したためとみられ

兩陛下の外国訪問は、昨

年九月から十月にかけてドネシアの三カ国訪問のタイ、マレーシア、インドネシアに訪れた。

天皇訪中

実現に強い期待

中国側 関係強化への思惑も

【北京12日中川陽】中国では、天皇訪中実現について正式発表はないため、報道・論評はないが、強く歓迎していることは間違いない。中国はこれまで再三にわたり訪中を要請し、国交正常化二十周年の節目にあたる今年は江沢民総書記が就任後、西側最初の訪問国として訪日、日本政府にはもちろん、天皇会見でしかに要請した経緯もあり、素現に強い期待をかけていた。このため、日本の国連平和維持活動（PKO）協力法元従軍慰安婦問題などについては努めて論評を避け、異例の抑制的態度を貫いた。

この背景には天皇訪中実現を通じて日中関係をより成熟したものにし、最大自

標とする国内建設に日本の強い協力を引き出したいとする思惑があるとみられる。しかし、天皇が訪中するとされる十月には共產党第十四回大会があり、党内権力闘争の推移によっては、沈静化したかに見える尖閣諸島の領有権問題や戦争賠償問題が政争の具とされ、再燃する恐れもある。天皇訪中の実現はまだ流動的な部分が残っている。

共A3T175政治04S③完①
◎天皇訪中、10月下旬実現へ

政府、最終方針固める

「良好な対中関係」を維持

〔編注〕朝刊メモ(1)

独自タネ(75行)

政府は十二日までに、天皇、皇后両陛下の訪中について、日中国交正常化二十周年の今秋に実現する方針を最終的に固めた。宮沢首相は引き続き世論の動向を見極めたいとしており、自民党の慎重派議員らの理解を得た上、参院選後の今月末か、遅くとも八月中旬には正式発表にこぎつきたい意向だ。

訪中の具体的日程は、十月二十日の皇后陛下誕生日の後、二十一日以降同月末にかけての期間が有力視されており、五泊六日程度になる見通し。北京のほか、地方都市一、二カ所のご訪問も予定している。

政府が訪中を実現したいとする背景には①二十周年の今回を逃がすと今後、当分実現のめどが立たない②中国からの再三再四にわたる招請を断れば、良好な日中関係に悪影響を及ぼしかねない③世論調査で国民の大半が訪中を支持している—などの要因がある。

(続) ⑩ (25) 92 7 12 17 8

共A3T176政治04S③完②
◎天皇

政府が懸念していた自民党内の反対・慎重論については、先月末から今月初めにかけて一時帰国した橋本駐中国大使が自民党幹部の間を回って粘り強く説得した結果「党内の空気もだいぶ変わつた」(政府筋)という状況がある。さらに、国連平和維持活動(PKO)協力法成立に対する中国の反応が抑制的だ②たこともあり、反対派の声も一部を除き沈静化した。

日中国交正常化二十周年は九月二十九日に迎えるが、政府はこの時期に訪問すると、むしろ天皇の政治的利用との批判を招きかねないとの判断から、日程を十月に絞つた。下旬が有力だが中旬に繰り上げる可能性も残されている。両陛下の外国ご訪問は昨年九月から十月にかけてのタイ、マレーシア、インドネシアの三カ国以来。

(続) ⑩ (22) 92 7 12 17 8

共A3T177政治04S③完③
◎天皇

政府は両国の準備、警備の都合上「少なくとも二カ月前には決めておきたい」(政府筋)との判断に加えて、日本側が態度を延々と保留することは非礼になるため、正式発表のタイムリミットを八月中旬としている。

中国による両陛下の訪中招請は、一九八九年四月に李鵬首相が来日した際、直接天皇陛下に要請したほか、以後も度重ねて行われた。政府は当初、四月に来日した江沢民・中国共産党総書記に受諾を事実上表明する方針だ②た。しかし二月下旬に中国政府が日本の実効支配下にある尖閣諸島を中国固有の領土と明記した領海法を公布、発効したことや、戦時中の日本の行為に対する民間賠償要求の動き、PKO法案審議への中国政府の批判などで、自民党内に反発が強くなって、政府も最終決断を見合わせてきた。

(7) ⑩ (23) 92 7 12 17 9

共X3T252外信22 ③完①

◎天皇訪問、中国は歓迎

経済援助呼び込みにも期待

【編注】朝刊メモ(1)の関連

(50行)

【北京12日共同】日本政府が天皇、皇后両陛下の今秋訪中の最終方針を固めたことについて中国は、友好関係強化を望む立場から強く歓迎しているのは間違いない。

最高実力者、鄧小平氏の大号令で経済建設に重点を置く中国は、一層の関係強化で日本からより多くの経済援助や融資、投資を引き出したいところだ。

国連平和維持活動(PKO)協力法や従軍慰安婦問題などで対日批判を抑制してきたのも、国交正常化二十周年の今年、天皇を招請し日中の友好を高らかに歌い上げる「セレモニー」を実現したい、との考えがあつたためとみられる。

(続) ④ (19) 92 7 12 19 47

共X3T253外信22 ③完②

◎天皇

十月以降には第十四回共産党大会も予定されており、天皇陛下から日中戦争について何らかの「謝罪の言葉」を引き出すことは、国民に対する党の権威付けの絶好の機会ともなる。

中国政府は最近、慰安婦や強制労働者問題については補償措置を含む日本側の善処を求める一方、市民レベルの民間賠償要求運動については「容認するが支持しない立場」を次第に鮮明にしてきた。日本への「圧力」と「友情」を微妙に使い分ける中国の現実的な外交姿勢を示しているといえよう。

(続) ④ (15) 92 7 12 19 47

共X3T254外信22 ③完③

◎天皇

両国間には①尖閣列島(中国名「釣魚諸島」)の領有権②旧日本軍が中国に残した大量の化学兵器の処理③など、未解決の問題は少なくない。

天皇訪中は戦後四十七年に一応の区切りをつけるセレモニーとはなるが、こうした問題については別個に具体的な解決策を見つけていかざるを得ないだろう。

(了) ④ (10) 92 7 12 19 47

天皇御訪中問題（7月27日の政府与党連絡会議後の記者ブリーフ）

92年7月27日

外務省中国課

27日、正午より約50分間、政府与党連絡会議が行われたところ、会議終了後の近藤副長官の記者ブリーフのうち、天皇御訪中問題関連は次の通り（官邸林官房副長官秘書官よりの連絡）。

（副長官）選挙期間中、党幹部、政府筋ということで様々な報道があったが、本件は慎重に取り扱わなければいけないとの発言が出、副総裁よりここで議論すべき話でも結論を出す話でもない、政府とよく連絡をとるべきである旨の発言があった。官房長官よりそのようなことで取り進めることと致したい旨応答した。

（記者よりの質問）「慎重に」と発言したのは参議院の国会対策委員長（村上正邦）か。

（副長官）しかり。

以下、ぶら下がり懇談。

（記者よりの質問）天皇御訪中問題に関し、総理は今週中にも最高顧問と話し合うのか。

（副長官）最高顧問とはいずれ話し合うこととなろうが、今週中にということにはいかないと思う。

（質問）決定は8月にずれ込むのか。

（副長官）そうだろう。

（質問）お盆までには決定されるのか。

（副長官）時間の関係からそうならざるを得ないであろう。

（了）

天皇、10月訪中 来月11日、決定

政府方針 きょう宮沢・中曽根会談

政府は二十七日、日中国交正常化二十周年の記念として懸案となっていた天皇陛下の中国訪問を今年十月に実現させる方針を固めた。来月十一日の閣議で正式決定し、日中両国政府が同時発表する方向で準備を進めている。宮沢喜一首相は、訪中に慎重論を主張してきた自民党実力者の中曽根康弘元首相と二十八日に会談して協力を要請、さらに来月上旬に首相経験者を含む自民党最高顧問らと会合をもち予定で、調整作業は最終局面に入る。党内外の一部にはなお強硬な反対・慎重論があるが、党執行部も首相判断を支持する姿勢であり、首相は参院選が終わったのを機に、懸案実現の意向を固めたものと見られる。(二面に関係記事)

日中が同時発表へ

「天皇訪中は中国の強い要請に基づくもので、日本側も日中友好関係を将来にわたって固めるのに意義深い」と判断。両国の非公式な調整の結果、十月二十二日から二十七日までの四、五日間、北京、西安、上海などを訪問することがほぼ固まっている。秋に予定で世論の動向を見守る姿勢

示していたが、選挙が自民党勝利に終わったことも踏まえて、大詰めの際に調整を急ぐことにした。来月六十一日の会期が有力となっている臨時国会中に党最高顧問会議を開き、理解を得たらうで決定、という手順を考えている模様だ。

中曽根氏との会談は首相

自派による党内調整の反切りとなるもので、二十八日、都内の料理屋で昼食をともしながら行われる。党内外の反対・慎重論に一定の影響を持つ中曽根氏は、四月の江沢民・中国共産党総書記の来日前に「訪

中の環境は整っていない」との考えを説明し、首相もこれを無視できなかった経緯がある。首相は強い決意を直接伝えて、協力を求めることになりそうだ。

中曽根氏も実現のための環境整備が先決だとの考えを周辺に示し、態度を次第に軟化させてきたといわれる。首相官邸や外務省は、中曽根氏から支持を取りつけることが党内調整の大きなきになると見ている。

92.7.28

朝日(朝刊)1面

天皇訪中

首相、党内調整に全力

慎重派説得が本格化

政府が今秋の天皇訪中実現の方針を固め、宮内省・首相が二十八日に中曽根元首相と会談するなど、最後の障害となっていた自民党内の調整が本格化することになった。参院選での自民党勝利という「好環境」(首相周辺)の中、党内の強硬な反対派の説得は困難に立ち、中曽根氏らに代表される慎重派の理解を得て、党内に影響力を持つ実力者との間で合意ができれば、訪中の環境は一応整うと判断したためだ。ただ、二十七日の政府・自民党連絡会議では、待ち構えていたかのように賛成派の一部から異論が出るなど、調整は「簡単ではない」(首相側近)との見方もある。首相が閣議での正式決定をめざす来月十一日までの間で、党内論議が続く可能性もありそうだ。

首相は参院選中を「待」て発言することを極力控え「論を刺激したくない」との配では政権基盤が不安定になる可能性もあり、訪中実現

に向けてコマを進めることには慎重にならざるを得ない事情もあったようだ。

その参院選も、これまで不安定感が漂ってきた首相の党内基盤を強める結果になった。ここで天皇訪中を断念した場合、日中関係に与えるダメージは計り知れないとの懸念もあって、実現に本腰を入れる決意を固めたようだ。

党内調整を進めるにあたって、首相官邸や外務省が重視しているのは「訪中そのものに反対ではないが、環境が整っておらず、決定を急ぐべきでない」(官邸部)と主張してきた慎重派

議員への根回しだ。

参院正行元政調会長に代表される「反中国派」などの強硬派については「こう

説得しても理解を得られる可能性は小さい」(参院派幹部)との判断があるから

だ。また、一部の文化人らの間でも「訪中反対」の動きが広がっており、これ

以上論議が過熱しないうちに、党内の慎重派に理解を得ることで党内の大勢を固

め、自民党総務会の了承もとつつけようという考えだ。

すでに、党運営のかなめである金丸副総裁や竹下登元首相らからは同意を得て

いるといわれるほか、総務民輔幹事長や佐藤孝行総務

会長らも、首相の判断を尊重する考えを表明。首相側

は「徐々に党内の空気が軟化しつつある」(側近)と受け止めている。慎重論の

中心的存在である中曽根氏を始め、首相経験者を中心とする党内実力者に自ら後回しすることで、党内調整を出来るだけ円滑に進めた

ようだ。

二十七日の連絡会議では村上正邦参院国対委員長が

「訪中は必ずしも国民の同意を得ていない。首相が断

判。浜田幸一広報委員長も「天皇陛下にはまず靖国神社にお参りいただいてから、中国へおいていただき」と、現状での天皇訪

中に疑問を示した。

金丸副総裁が「ここで議論して結論が出るようなものではない。政府、党でよく連絡をとってほしい」と抑えてこの場をおさめた

が、首相はこの間まったく発言しなかった。

(対外応答要領)

天皇陛下御訪中(日程)

92.8.3

中国課

問. 3日付北京発時事電は、日中両国政府が天皇陛下の10月御訪中実現に合意し、具体的な日程を決定したとして、10月22日から27日までの北京、西安、上海の詳細日程を報じているところ、事実関係如何。

答. 天皇陛下の御訪中については、現在、真剣に検討中であり、政府においては未だ最終決定を見ていない。かかる状況下、御訪中の詳細な日程や具体的訪問先について決定することはあり得ず、報道は全くの推測記事である。

(了)

総理記者会見資料作成依頼(同行記者分)

(於:長崎 8月9日(日))

提出期限 8/9(水) 16:00

了中
(官儀)
(外
官)

問1 政府首脳は、天皇陛下の中國訪問についての閣議決定は「今月下旬以降」と表明しているが、総理も同じ判断か。

総理府
×モロシ
カ答

問2 政府首脳は、総理の靖国神社参拝について「私的参拝は見送る」と表明しているが、総理の判断如何。

総理府
外、防
国政
課一
条規

問3 (1) カンボジアでの国連平和維持活動に対する自衛隊の派遣先と規模について、政府は「フロンゲン南部の国道2、3号線沿線で700人規模」と同意と非公式に合意したようだが、この非公式な合意内容についての総理の見解如何。

総理府
外、防

(2) 平和協力部隊の派遣時期について「待機監視用派遣は8月下旬をいし9月。施設部隊派遣は10月」との見通しがあるが、このとおりと考えてよいのか。

(国政
課一
条規)

(3) 派遣の際、政府首脳は「ホル・ボト東の同意が政府判断の基礎」と表明しているが、総理の見解如何。

了中
外、防
(国政
課一
条規)

～以上～

*取扱注意

三木武夫

Kf

宮内庁作部

片山

下片山

天皇皇后両陛下御訪中に関する想定問答（案）〔宮内庁関係〕（ア中 2825）

（平成4年8月）

問1 御訪中はどのような手続を経て決定されたのか。

答 御訪中については、外務省と宮内庁との共同請議により、閣議において決定されたところである。

（更に、天皇陛下には、いつ、どのような形で伺ったのか、と問われた場合）

答 御訪中については、閣議決定の前日に、陛下の御裁可を得た。

問2 天皇陛下は、御訪中についてどのように考えておられるのか。

~~答1 天皇陛下の外国御訪問は、我が国と御訪問国との友好親善関係を増進するために行われるものである。~~

~~2 天皇陛下がいかなる国を、いつ御訪問されるかといったことは、政府が決定することである。~~

~~(更に、天皇陛下のお気持ちはどうなのか、と問われた場合)~~

答 天皇陛下は、外国御訪問は政府が決めることであるが、機会があれば、両国の友好親善関係の増進のために尽くしたいとお考えであると承知しているとある。

問3 宮内庁は、御訪中についてどのように考えているのか。

答 御訪中については、政府において十分検討の上、決定されたところであるが、宮内庁としては、天皇陛下の御訪中によって我が国と中国との友好親善関係が増進されるよう十分配慮していく考えである。

問4 天皇陛下のおことばは、どのような手続で作成されるのか。

答 天皇陛下の御訪中におけるおことばは、^{いわゆ}~~外務省が作成した資料に~~
~~に基づき、宮内庁と外務省とで協議し、最終的には、~~内閣がその責任
において所要の調整を行い、作成されることとなる。

(更に、天皇陛下のおことばの性格如何、また、その行為の責任の
所在如何、と問われた場合)

答1 天皇陛下のおことばについては、天皇のいわゆる公的行為
に当たると考える。

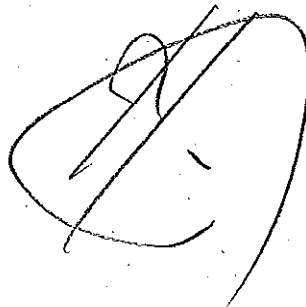
2 天皇のいわゆる公的行為は、~~もとより国事行為ではないか~~
~~ら、内閣が助言と承認という形における責任を負うものでは~~
~~ないが、その行為に係る事務の処理は、行政に属すると考え~~
~~られるので、最終的には憲法第65条により行政権の主体とさ~~
~~れる内閣がそれについて責任を負うものとする。~~

3 なお、天皇のいわゆる公的行為については、

- (1) 象徴たる性格に反するものであってはならないこと、
^{政治的に用いるべき能力が認められていない}
- (2) ~~政治的な意味や政治的な影響を持つものでないこと、~~
- (3) その行為について、内閣が責任を負うものであること、
という3つの制約があるとされている。

(更に、天皇陛下のおことばに陛下の御意思は反映されるのか、と問われた場合)

答 憲法上、天皇は国政に関する権能を有しないとされているから、天皇が国政に関与されることにならないよう内閣として十分な配慮をすべきことは当然であるし、そのことについては、天皇陛下も十分に御承知のことであると考える。



この新70に
関係する

問5 おことばの中で中国に対し謝罪の意を表すのか。

答 天皇陛下の御訪中は我が国と中国との間の友好親善関係を増進することを目的としており、このような目的が達成されるよう十分な配慮がなされるべきものと考えます。

御訪中に際してのおことばについては、今後、政府において十分検討していくこととなるものと考えます。

(いれたいこととそうでないこと、政治的な意味を持つものとか、政治的な影響を持つものが含まれてはならないことという憲法上の制約があるものと考えられている。)

(更に、おことばの内容について明らかにすべきである、と問われた場合)

答 天皇陛下のおことばについて、事前にその内容を申し上げるのは差し控えたい。

(更に、天皇陛下が謝罪することは国政に關与したことになるのではないかと問われた場合)

答1 天皇陛下のおことばについては、最終的には内閣が責任を負うべきものであるが、その内容は、国政に関する権能が含まれていないこと、すなわち、政治的な意味を持つものとか、政治的な影響を持つものが含まれてはならないことという憲法上の制約があるものと考えられている。

2 したがって、おことばについては、最終的に責任を負うべ
内閣において、その具体的内容に政治的な意味や政治的な影
響を持つものが含まれていないかどうか十分検討されること
となる。

3 今回のおことばについても、その内容は、政治的な意味や
政治的な影響を持つものが含まれることは考えられず、国政
に関与することに当たるものではないと考える。

問6 先の大戦についての天皇陛下のおことばには、どのようなものがあるのか（対中国，対韓国ほか）。

答 先の大戦についての天皇陛下のおことばは、次のとおりである。

○ 先の大戦に係る天皇陛下のおことば

1 フィリピン国大統領ガルシア閣下同夫人のための宮中晩餐

（昭33. 12. 2）

……，不幸な第2次世界大戦により両国の伝統的関係が一時中断されたことは，まことに遺憾な次第でありました。

幸いに今日両国の正常な国交が回復せられ，日一日と密接強固になりつつあることは，御同慶にたえないところで，……

2 インドネシア国大統領スカルノ閣下のための宮中晩餐

（昭34. 6. 8）

……，不幸にしてこの伝統的な関係が，過去数年の間，中絶されるに至ったことは，まことに遺憾に堪えない次第でありました。今や新たに両国の親善関係が急速に強固さを加えつつあることは，われわれの深く満足に思うところであります。

3 フィリピン国大統領マルコス閣下同夫人のための宮中晩餐

（昭41. 9. 29）

先年の誠に不幸な戦争の後も，両国の親善関係は漸次回復し，閣下が大統領に御就任になってからは，特に対日関係を重視せられて，両国の間に安定した政治的経済的なつながりを強化するために努力されておりますことは，慶賀に堪えないところで，……

4 インドネシア国大統領代行スハルト閣下同夫人のための宮中晩餐
(昭43. 3. 29)

先年の誠に不幸な戦争の後も、この伝統的な関係は急速に回復し、いまや、新たな両国の親善関係が日ましに深まっておりますことは、慶賀に堪えないところであります。

5 アメリカ合衆国大統領フォード閣下のための宮中晩餐
(昭49. 11. 19)

このような友好的な両国の間にも、一時はまことに不幸な時代をもちましたことは遺憾なことでありました。しかしながら、戦後の日本は、ひたすら平和の理念に徹する国家の建設に邁進して今日にいたりました。その間、貴国政府の提唱と協力による対日平和条約が早期に締結され、また、終戦直後の混乱期において、貴国が我が国に対し、好意と援助を寄せられましたことにつき、この機会に、貴国の政府並びに国民に対し、厚く御礼を申し上げる次第であります。

6 英国女王エリザベス二世陛下及びエディンバラ公殿下のための宮中晩餐

(昭50. 5. 7)

このような、貴国との友好親善の関係は、その後、時代の変遷に伴い、大きな試練を経ました。しかし、両国国民の絶えざる努力によって、貴我両国の絆が、以前にもまして鞏固なものになりつつあることは、まことに喜ばしいことであります。

7 御訪米の際の歓迎式（ホワイトハウス）

（昭50.10. 2）

今回の米国訪問は、私にとりまして、日米両国の関係の過去を思い、未来を考える貴重な機会であります。両国の国民は、静けさの象徴である太平洋に波風の立ち騒いだ不幸な一時期の試練に耐え、今日、ゆるぎない友好親善のきずなを築き上げております。私は、このことに限りない喜びを感じるとともに、両国関係の将来に、大きな期待を抱くものであります。

8 御訪米の際のフォード大統領夫妻主催晩餐会

（昭50.10. 2）

私は、多年、貴国訪問を念願にしておりましたが、もしそのことが叶えられた時には、次のことを是非貴国民にお伝えしたいと思っておりました。と申しますのは、私の深く悲しみとする、あの不幸な戦争の直後、貴国が、わが国の再建のために、温かい好意と援助の手をさし延べられたことに対し、貴国民に直接感謝のことばを述べることであります。

9 中華人民共和国副首相鄧小平閣下との御会見

（昭53.10.23）

鄧副首相が「過ぎ去ったことは過去のものとして、今後は前向きに両国の友好関係を建設し、進めて行きたいと思います」と述べ、これにこたえて陛下は、「両国の間には長い歴史があり、その間に一時不幸な出来事もあったけれども、（鄧副首相の）お話のように過去のこととして、これからは長く両国の親善の歴史が進むことを期待しています」の述べられた。

（湯川式部官長レクによる報道記事）

10 大韓民国大統領全斗煥閣下のための宮中晩餐

(昭59. 9. 6)

..... , 今世紀の一時期において、両国の間に不幸な過去が存したことは誠に遺憾であり、再び繰り返されてはならないと思います。

11 大韓民国大統領盧泰愚閣下のための宮中晩餐

(平 2. 5. 24)

..... , このような朝鮮半島と我が国との長く豊かな交流の歴史を振り返るとき、昭和天皇が「今世紀の一時期において、両国の間に不幸な過去が存したことは誠に遺憾であり、再び繰り返されてはならない」と述べられたことを思い起こします。我が国によってもたらされたこの不幸な時期に、貴国の人々が味わわれた苦しみを思い、私は痛惜の念を禁じえません。

12 ソヴィエト社会主義共和国連邦ゴルバチョフ大統領閣下のための宮中晩餐

(平 3. 4. 16)

..... , 両国の間には苦しみや悲しみの伴う時期もありましたが、今日、日ソ両国の各層の間に相互の理解と信頼を深め、新たな隣国関係を築こうとする熱意が高まっていることは喜ばしい限りであります。

13 タイ国プーミポン国王王妃陛下主催晩餐会 (平 3. 9. 26)

日本は、先の誠に不幸な戦争の惨禍を再び繰り返すことのないよう平和国家として生きることを決意し、この新たな決意の上に立って、戦後一貫して東南アジア諸国との新たな友好関係を築くよう努力してきました。

14 マレーシア国アズラン・シャー国王王妃陛下主催晩餐会

(平 3. 9. 30)

顧みれば、日本は、先の誠に不幸な戦争の惨禍を再び繰り返すことのないよう平和国家として生きることを決意し、この新たな決意の上に立って、戦後一貫して東南アジア諸国との新たな友好関係を築くよう努力してきました。

15 インドネシア国大統領スハルト閣下同夫人主催晩餐会

(平 3. 10. 3)

日本は、先の誠に不幸な戦争の惨禍を再び繰り返すことのないよう平和国家として生きることを決意し、この新たな決意の上に立って、戦後一貫して東南アジア諸国との新たな友好関係を築くよう努力してきました。

16 オランダ国ベアトリックス女王陛下のための宮中晩餐

(平 3. 10. 22)

このような友好関係が第2次世界大戦によって損なわれたことは、誠に不幸なことでありました。戦後日本は、このような戦争の惨禍を再び繰り返すことのないよう、平和国家として生きることを決意し、世界の平和と繁栄のために積極的に協力しつつ、一貫して貴国を始めとする世界各国との間で新たな友好関係を築くよう努力してきました。

《参考2》

・中華人民共和国からの賓客の来日（抄）

昭和53年10月	鄧 小平	国務院副総理（公賓）
	同夫人	
昭和55年5月	華 国鋒	国務院総理（国賓）
～6月		
昭和55年7月	華 国鋒	国務院総理（故大平正芳首相内閣・自由民主党合同葬儀参列）
昭和57年5月	趙 紫陽	国務院総理（公賓）
～6月		
昭和58年11月	胡 耀邦	中国共産党中央委員会総書記（公賓）
昭和60年4月	彭 真	全国人民代表大会常務委員会委員長
	同夫人	（国会の賓客）
平成元年2月	錢 其琛	外交部長（昭和天皇大喪の礼参列）
平成元年4月	李 鵬	国務院総理（公賓）
	同夫人	
平成2年11月	呉 学謙	国務院副総理（即位礼正殿の儀参列）
平成4年4月	江 沢民	中国共産党中央委員会総書記（公賓）
平成4年5月	万 里	全国人民代表大会常務委員会委員長
～6月		（国会の賓客）

《参考3》

- ・ 中華人民共和国賓客との御会見の際の天皇陛下のおことば
〔（注）いずれも、先の大戦については言及されていない。〕

① 華国鋒國務院総理のための宮中晩餐における天皇陛下のおことば (昭55. 5. 27)

本日、華国鋒総理にお会いし、今宵、宴席をともにできますことは、私の大きな喜びであります。

このたび、我が国は貴総理を中国から最初の総理として、お迎えできました。この意義ある御来訪によって、日中交流の歴史は、新たな1ページを開くことになるかと確信いたします。貴国と我が国が、今後末永く相携え、世界の平和と繁栄のために、貢献してゆくことを、願ってやみません。

貴総理には、我が国の実情を御視察になり、また、各界の人々と接していただくなど、お忙しい御日程と伺っておりますが、この機会に初夏の風光もお楽しみになり、御滞在が快適で実り多きものでありますよう、期待いたします。

ここに杯を挙げて、華国鋒総理の御健康と中華人民共和国の繁栄を祈ります。

② 趙 紫陽國務院総理との御引見の際のおことば

(昭57. 6. 1)

陛下は、「日中国交回復10年目に当たる良き年においでに下さってうれしく思います。今後も日中友好が強化されることを望みます」と話された。

(山下式部副長レクによる報道記事)

③ 彭 真全国人民代表大会常務委員会委員長との御引見の際のおことば

(昭60. 4. 23)

陛下が「日本と中国は永遠の付き合いをしなければならない」と話された。

(安倍式部官長レクによる報道記事)

④ 李 鵬国務院総理との御引見の際のおことば

(平元. 4. 13)

安倍式部官長レクでは、「二千年に及ぶ日中関係についてご自分の見解を述べ、将来の友好関係への強い希望を率直に言われた」と説明しただけで、具体的な内容は明らかにされなかった。

しかし、李氏が同日午後の日本記者クラブでの内外記者団との会見において、天皇陛下が「日中両国は長い歲月の中で早くから交流を行っており、関係は良好だった。近年において不幸な歴史があったことに遺憾の意を表する」というおことばを述べられたことを明らかにした。

(報道記事)

⑤ 江 沢民中国共産党中央委員会総書記との御引見の際のおことば

(平 4. 4. 7)

江 沢民総書記が、「中国側としては、本年秋、両陛下を中国にお迎えできることを期待しております」と述べ、時期を明示して両陛下の訪中を招請した。これに対して陛下は、「ご招待ありがとうございます」と述べたうえで、「この件は政府が真剣に検討していると承知しています」と答えられた。

(角谷式部官長レクによる報道記事)

⑥ 万里全国人民代表大会常务委员会委員長との御引見の際のおこ
とば

(平 4. 5. 26)

「両国との友好はアジアや世界の安定につながる」と万里氏が友好関係の重要性を強調、陛下は「(日中国交正常化) 20周年を機に友好が進むことを期待します」と述べられた。さらに共通の趣味のテニスや、先に都内で開催された中国の「曾侯乙墓」展などが話題に上ったが、天皇訪中に関する話はなかった、という。

(角谷式部官長レクによる報道記事)

問7 宮内庁は、中国についてどのように認識しているのか。

答 中国は、我が国と極めて長い交流の歴史を有し、また、地理的にも一衣帯水の間にある国であり、末長く友好親善関係を維持増進していくべき国であると考えている。

(含 時期尚早論)

問8 宮内庁は、御訪中に反対する声をどのように評価しているのか。

答 御訪中については、種々の議論があることは承知しているが、政府において十分検討がなされたものと考えているところである。

承知している

決定した

問9 宮内庁は、御訪中は天皇陛下を政治的に利用することになると考えないのか。

答 天皇陛下の外国御訪問は、あくまでも友好親善関係を増進するためのものであり、宮内庁としては、我が国と中国との友好親善関係が増進されるよう十分配慮していく考えである。

しかし宮内には宮内庁はあてはまらない

問10 宮内庁は、現在の情勢下では、御訪中は時期尚早であると考えないのか。

答 ~~御訪中の時期については、政府において十分検討がなされたもの~~
~~考える。~~ (~~かかき質問には宮内庁としては答へるべきでない。~~)

秘
無期限

※総第 084570号001公館宛

平成 4 年 8 月 17 日
19 時 42 分 5 秒受付

電 信 案

電信課長 ⑧	大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典長 儀典官 儀典官 調整官 首席事務官 事務官	※発電係 1 ⑧ 2 ⑧ 起案 平成 4 年 8 月 17 日 起案者 電話番号 村角 451
	協議先 中国課長		

(※印欄内は電信課記入)

(注意) 1 枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

在	中国	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名	EEV (応答要領)			
主管・文書記号	※電番	大至急 普通	至急 (優先処理)	パターン・コード
係	第2354号	[Redacted]		
転電 転送 在 転報	※転電番号	大至急 至急 普通 (優先処理)		
大使・総領事あて				
(八〇字) 本件応答要領を別FAX信にて送付するの で、中国側に手交ありたい。(了)				
※				
08457059 優先 TYUUGOKU 漢				
GB-1 外務省				回覧番号

(昭和六三・六・三十改正)

GM:5332- P15

※総第084571号001公館宛 GM5332 FAX信

平成※平成19年8月17日 秒受付



秘
無期限

電信案

電信課長 (B)	大臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典長 儀典官 儀典官 調整官 首席事務官 事務官	※発電係 1 (B) 2 (X)
	協議先 2 中国課長		起案 平成4年8月17日 起案者 打角 電話番号 4151

(※印欄内は電信課記入)

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

在 中国	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名	EEV (応答要領)		
主管・文書記号	※電番	大至急 普通	至急 (優先処理)
儀	FAX信	パターン・コード	
転電 転送 在 転報	※転電番号	大至急 至急 普通 (優先処理)	
往電が2354号別FAX信。			
※			
08457172 優先 TYUUGOKU F信			
GB-1	外務省		回覧番号

(昭和六三・六・三十改正)

天皇・皇后両陛下の中国御訪問
(記者会見用擬問擬答)

平成4年8月
外務省

1. 中国から元首は訪日しているか。(まず、中国側から訪日すべきで、陛下の御訪問は答礼として考えるべきとの考え方を念頭においたもの)

(更問) 今回の御訪問は答礼との趣旨があるのか。

2. 天皇陛下は対外的に元首であるか。

(更問) 中国側は陛下を元首として受入れるか。

3. 今次の中国御訪問の目的・意義如何。

4. 憲法第4条第1項との関係で御訪問は陛下の如何なる行為に当るのか。

5. 天皇陛下を政治的に利用することにならないか。

6. 過去の歴史との問題はどう位置付けられるのか。

(更問) 天皇陛下は中国に謝罪されるのか。

7. 賠償問題や従軍慰安婦問題は出ないのか。

(更問) 従軍慰安婦、民間賠償、靖国、PKO批判、尖閣諸島問題など日中両国間には真に安定した友好関係が築かれているとは言い難く、このような時期に天皇陛下に御訪問頂くのは適当でないのではないか。

8. 人権抑圧を行なっている中国を天皇陛下が御訪問になることは、他の自由諸国との友好関係を損なうことになるのではないか。

9. 現在の中国の国内情勢は不安定であり、このような国を現在両陛下が御訪問されることは不適當ではないか。

10. 総理は「国民の祝福の中で御訪中頂くことが望ましい」と語っているが、そのような状況であると認識しているのか。

11. 御日程はいつごろ固まるか。

12. 首席随員は誰になるのか。

13. 韓国との関係で訪中を先にすることにつき問題はないか。

(更問) 欧米諸国との関係で問題はないのか。

(更問) 御訪問先がアジアに偏っているのではないか。

問 1. 中国から元首は訪日しているか。

(答)

1. 昭和五十五年に華国鋒国務院総理兼共産党主席（当時）がはじめて国賓として訪日している。
2. 当時の中国において元首の定義は必ずしも明確ではなかったが、政府及び党の長として国内において第一位の地位であったことに鑑み、国賓として招請したものである。

(注 1) 昭和 55 年当時の中国は国家主席をおかず、憲法上も特に元首についての規定はなかった。なお、現行憲法（昭和 57 年改正）では、第 3 章第 2 節（第 79 条～84 条）において国家主席について述べられており、「中華人民共和国を代表し、外国の使節を受け、全国人民代表大会の常務委員会の決定に基づいて外国駐劄の全権代表を派遣或いは召還し、外国と締結した条約と重要な協定を批准或いは廃棄する」（第 81 条）と規定されている。

(注2) 中国要人の訪日歴

華国鋒総理	(1980年5～6月)	(国賓)
趙紫陽総理	(1982年5～6月)	(公賓)
胡耀邦総書記	(1983年11月)	(公賓)
彭真全人代委員長	(1985年4月)	(国会の賓客)
李鵬総理夫妻	(1989年4月)	(公賓)
江沢民総書記	(1992年4月)	(公賓)
万里全人代委員長	(1992年5～6月)	(国会の賓客)

(更問) 今回の御訪問は答礼との趣旨があるのか。

(答)

1. 今回の訪問は中国側より再三にわたり国交正常化20周年の本年に御訪中頂きたいとの招請が行われたことを受けて行われるものであり、二国間の友好親善関係の増進を図ることを目的としている。
2. 中国よりは既に国賓として訪日していることに鑑みれば、答礼との位置づけも可能であると考えられるが、今次御訪問は前述の如く幅広い観点より二国間の友好親善関係の増進を図るもの。

問 2. 天皇は対外的に元首であるか。

(答)

一般論として、天皇が元首であるかどうかは元首の定義如何による。昔のように内治、外交の全てを通じて国を代表し、行政権を掌握している存在として元首を定義するならば、日本国憲法のもとでは、天皇は元首であるとはいえない。しかし、天皇は、現在の憲法のもとにおいて、国の象徴とされており、ごく一部ではあるが、外交関係において国を代表する面を持っているのでそのような面を有するものを元首と定義するならば、天皇は元首であるということができる。

(更問) 中国側は陛下を元首として受け入れるか。

(答)

天皇陛下が御訪問される際、外国が如何なる接遇をするかは訪問先の国がその国の基準なり、方針なりに従って決めるべきことであるが、受入れ国も日本国の象徴であられる天皇の基本的な御地位については十分理解していると考えられるので、かかる象徴たる地位にあられる天皇として相応しい接遇がなされることになろうと思われる。

問3. 今次の中国御訪問の目的・意義如何。

(答)

1. 中国側より再三にわたり外交儀礼にかなった招請あり。これに対し誠意をもって対処することが必要。

(注) 中国側は、(1) 御訪中は日中両国の国民間の友情を深めるためのものであり、大歓迎すること、(2) 日本側を困らせることは決してしないこと、を明確にしている。

2. 本年は国交正常化20周年という重要な節目でもあり、天皇・皇后両陛下の御訪中は、友好親善訪問という本来の目的に適うもの。

3. アジア諸国は我が国のアジアに対する基本姿勢を強い関心を持って見守っている。昨年の両陛下の東南アジア諸国御訪問に続く本年の中国御訪問は、このようなアジア諸国によって歓迎され、また評価されよう。

4. 広範な中国国民は、両陛下の御訪中によって、平和国家日本の姿のみならず、新憲法下の我が国の皇室像を深く理解することとなろう。

更に、両陛下の誠実かつ暖かいお人柄は、必ずや中国の人々に強い感動をもたらすものとなろう。

問4. 憲法第4条第1項との関係で御訪問は天皇陛下のいかなる行為に当たるのか。

(答)

1. 国事行為は、憲法上限定列挙されており、天皇の外国御訪問は、国事行為に当たらない。
2. 天皇陛下が国際親善のために外国を御訪問される行為は、天皇の象徴としてのお立場に基づいて行われるものであり、天皇の公的行為に当たると考える。

(参考)

天皇の公的行為とは、憲法の定める国事行為以外の行為で、天皇が象徴としての地位に基づいて公的な立場で行われるものをいう。

天皇の公的行為については憲法上の明文の規定はないが、象徴たる地位にある天皇の行為として当然に認められるというのが従来からの政府の立場である。

なお、天皇の公的行為がいやしくも国政に影響を及ぼすものであってはならないことはいうまでもない。

問5. 天皇陛下を政治的に利用することにならないか。

(答)

天皇陛下の今次御訪問は、国際親善のための御訪問であり、親善の効果があがるよう政府として配慮することは当然である。また、政治に関与されないという天皇の御立場に鑑みれば、今回の御訪問が政治的なものにならぬよう政府においても十分配慮する所存であり、いわんや政府が天皇陛下の御訪問を政治的に利用することはあり得ない。

(ちなみに、中国側は、天皇陛下の御訪中は将来にわたる日中両国の国民間の友情を深めるためのものであり、政治利用することなど毛頭考えていないことを明らかにしている。)

問6. 過去の歴史との問題はどう位置付けられるのか。

(答)

国交正常化20周年を迎え両国の平和友好関係を更に発展させていこうとしている中であって、陛下の御訪中は、両国間の友好親善関係を深めるために行なわれるものである。

(更問) 天皇陛下は中国に謝罪されるのか。

(答)

陛下は「謝罪」のために訪中されるのではなく、両国間の友好親善関係の増進を図るためにおいでになる。この点は、中国側も繰り返し同様の認識を明らかにしている。

問 7. 賠償問題や従軍慰安婦問題は出ないのか。

(答)

陛下は、両国間の友好親善関係を深めるため訪問されるものであり、賠償問題や従軍慰安婦問題が議論されることはあり得ない（中国側は、日本側を困らせることは決してしないことを明確にしている）。

(更問) 従軍慰安婦、民間賠償、靖国、PKO批判、尖閣諸島問題など日中両国間には真に安定した友好関係が築かれているとは言い難く、このような時期に天皇陛下に御訪問頂くのは適当ではないのではないのか。

(答)

1. 関係の深い二国間にあつて懸案があるのはむしろ自然。
2. 要は、困難を乗り越え種々の努力を継続することにより、日中両国は「過去」の不幸な歴史に由来する種々の困難を含めこれ乗り越える共同努力を行ってきた。
3. 天皇陛下の御訪中は必ずや両国間の友好親善関係を更に増進させるものとなる。

問 8. 人権抑圧を行っている中国を天皇陛下が御訪問になることは、他の自由諸国との友好関係を損なうことになるのではないか。

(答)

我が国は天安門事件に対する国際批判と同一歩調を取りつつも、中国を完全な国際孤立に陥れないために努力。中国は今や市場経済を指向する政策へと大転換を遂げつつあり、これは我が国の努力が実を結んだ結果。このような状況下で、両陛下が日中国交正常化20周年を祝って訪中されても、国際社会に波風が立つことはない。

(更に追及ある場合)

(答)

1. 中国の人権問題については、我が国は西側各国（特にG7）と共通の認識に立って、高いレベルで関心を表明してきている。中国側もこれを受け国際世論に歩み寄りを示しつつある。
2. 他方、中国における人権問題の解決の必要性和天皇陛下の御訪中とは同次元の問題に非ず。天皇陛下の御訪中は純粋に友好親善の観点からなされるもの。中国の人権問題へのアプローチは政治のレベルでなされるべきもの。

問9. 現在の中国の国内情勢は不安定であり、このような国を現在両陛下が御訪問されることは不適當ではないか。

(答)

中国側は国を挙げて陛下の御訪中を歓迎しており、中国の内政に陛下の御訪中を関連付けようとの意図はないと承知。

(注) 中国の国内情勢は安定。俗に言われる「改革」派と「保守」派の対立というのは改革・開放のテンポを巡っての政策面での意見対立が中心。また、かかる政策面での対立も、改革・開放の一層の推進に収斂しつつある。

問10. 総理は「国民の祝福の中で御訪中頂くことが望ましい」と語っているが、そのような状況であると認識しているのか。

(答)

1. 陛下の外国御訪問が国民の祝福を受けて行われるのが望ましいことは、訪問先が中国でなくとも当然のこと。
2. 今次御訪中についても中国側は政府・国民を挙げて歓迎する旨述べており、また、我が国国内の各種世論調査や各紙社説も概ね陛下の御訪中に賛成であると承知している。

問11. 御日程はいつごろ固まるのか。

(答)

今次訪問の御日程については、今後、中国政府と協議の上決めることとなるが、決定の時期については未定。

問12. 首席随員は誰になるのか。

(答)

両陛下の外国御訪問の首席随員については、今後政府部内で検討していくことになる。

(参考)

昭和天皇・皇后両陛下の訪欧・訪米の際の首席随員

訪欧（昭. 46）福田外務大臣（当時）

訪米（昭. 50）福田総理兼経企庁長官（当時）

今上天皇・皇后両陛下のASEAN訪問の際の首席随員

訪ASEAN（平成3）倉成正衆院議員（元外相）

問13. 韓国との関係で訪中を先にすることにつき問題はないのか。

(答)

中国と並んで、韓国御訪問も避けて通れない課題であるが、本年は韓国大統領選挙の年でもあり、御訪問の機が熟していない。

(更問) 欧米諸国との関係で問題はないのか。

(答)

ない。(いかなる形であれ欧米諸国の政府から天皇陛下の中国御訪問について懸念めいた話がよせられたことはない。)

(更問) 御訪問先がアジアに偏っているのではないか。

(答)

種々の事情により、偶々アジア諸国への御訪問が昨年及び本年と続くこととなったが、右をもってアジアに偏っているとの見方は当たらない。

(了)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の内容に関する照会は検閲班（内線2171、2174）。
3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班（内線3169）に連絡ありたい。

電信写

08-029

大 政事外外官
大 務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

北経環査官 外
大大ア察括房 研
使使大審審審 長

口対文厚情研

察人電在警史オ

外 報 官
参 内

文 長
審 二

参 政 保 旅 外

参 政 保 旅 外
参 政 保 旅 外

北 米 長
審 一 二 保 地

中 南 長
参 一 二

欧 審 西 口 洋
西 東

参 一 二 ア ア
一 二

次 総 経 途
参 経 漁 国
一 経 エ 国
安 ネ 二

参 海 審 準

参 国 開 無
審 調 技 有 理

条 長 審 条 協 規

国 審 政 経 人
長 参 軍 社

科 審 科 原

情 調 長 審 情 析 調
企 安

総 番 号 R165803

月 18日

平成 4年 8月 18日

中 国 発

本 省 着

主 管

儀

外 務 大 臣 殿

橋 本 大 使

EEV (応答要領)

第3121号 秘 大至急

(以下FAX送信 PK0917-01)

(三八〇字)

中国の人口は7億5千万に達している。中国
の人口は新人口主義と旧人口主義の間にあり
内閣は、この間の人口政策を準備している。見
るべき内閣の数は見えてくる。人口政策の
間3、間6、間7、間10、間11、間12の間
年変率は1.5%、右の人口政策は、人口政策
地方都市間の人口政策を準備している。人口政策
1.5%と1.5%。右の人口政策は、人口政策
予定である。人口政策は、人口政策

p2

電 信 案

秘
無期限

Y Y Y

電信課長	天 臣 秘書官	主管 儀典長 儀典官 首席事務官	※発電係 1 <i>lv</i> 2 <i>Q</i>
	政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長		起 案 平成 4 年 8 月 18 日 起案者 電話番号 片山 2425
協議先			

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います

在	中 国	大 使 総領事	あて	外務大臣 発
件名 EEV(応答要領)				
主管・文書記号 儀		※電番 第2382号	大至急 普通 至急 (優先処理)	パターン・コード
転電 転送 在 転報		※転電番号 大 使 ・ 総領事 あ て		大至急 至急 普通 (優先処理)
√				
※				
08553020 優先 TYUUGOKU F 電				

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

GB-1

外 務 省

回覽番号

2
往電儀第2354号及び貴電第3121号に関し、GM:5671-

冒頭往電の次第はあるも、本件応答要領を中国側に手交することは差し控えられたい。

なお、地方都市部分等については追って送付する。

(了)

②

午後8時以降受付往電案

秘
無期限

※総第 086708号002公館宛

平成 4年 8月 21日
20時 14分 22秒受付

電 信 案

電信課長 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 儀典長 儀典官 首席事務官	※発電係 1 起案 平成 4年 8月 21日 起案者 電話番号 片山 4152
	協議先 中国課長 首席事務官 総務班長	

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

在 中国	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名 EEV(応答要領追加分)			
主管・文書記号 儀	※電番 第2423号	大至急 普通	至急 (優先処理)
※転電 転送 在 上海 転報	※転電番号 第448号	大至急 普通	至急 (優先処理)
往電儀第2382号に關し、			
↓			
※			
08670813 優先 TYUUGOKU 等002 漢			
GB-1 外務省		回覧番号	

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

応答要領追加分次の通り。尚、閣議決定まで
右取り扱いに留意したい。



問1. 御出発日が10月23日、御帰国日が28日となった経緯如何。



(答) 今次御訪中の日程は日中双方の都合を勘案して、双方の協議により決定されたものである。(今次中国側との協議が整うまで特定の日時が決定されていたということは全くない)



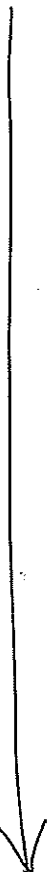
問2. 中華人民共和国主席からの招請となった経緯如何（天皇陛下、皇后陛下に対する招請は中華人民共和国政府からのものではなかったのか）。



（答）

1. 両陛下に対してはこれまで中国政府より累次の招請がなされてきており、今般国を代表する国家主席より招請があったのは、形式を整える上で必要なものであったと理解。

2. 中国においては、特に、最高の接遇を行なう招請については、国家主席よりの招請という形式によるものと承知している。



問3. 地方御訪問先はどこか。



(答) 詳細日程等については、今後日中両国政府間で協議の上、決定することとなるが、西安及び上海が地方御訪問候補先として検討されている。

上海に転電した。

(3)

大 政事外外儀官
大務務 典房
次次
臣秘官官審審長長

外政審議室長

至 急 回 覽

北澤殿 森總 外
大 了 察情 研
使 大 審審 長
總口 文 会 厚情 研
察人 電 有 儀 史 才
外 報 官 參 報 際 內 外
文 長 密 一 二
領 移 長 參 政 保 對 旅 外
了 密 地 東
長 參 北 東 西
北 米 長 密 一 二 保 地
中 南 長 參 一 二
政 密 西 口 洋
長 西 東
近 了 長 參 一 二 了 了
經 次 總 達 途
長 參 經 漁 國
經 工 國
安 本 二
參 海 審 準
經 協 長 密 政 國 開 無
密 調 技 有 理
參 長 密 須 協 規
國 密 政 經 入
長 密 軍 社
科 科 原
情 參 情 折 調
調 今 年

政 務 次 官
事 務 次 官
外 務 審 議 官
外 務 審 議 官
官 房 長
總 括 審 議 官
總 務 課 長
企 画 官
情 報 課 長
企 画 課 長
大 臣 秘 書 官

經 濟 局 長
經 濟 協 力 局 長
条 約 局 長

外 務 報 道 官
文 化 交 流 部 長
報 道 広 報 担 当 參 事 官
報 道 課 長

国 際 報 道 課 長
国 内 広 報 課 長
海 外 広 報 課 長

一 般 情 報 班

(担 当 村 内 26 人)

大 臣 記 者 会 見 要 旨

(8 月 2 (日) (火))

(於 会 見 室 10 : 48 ~)

。 閣 議 。 模 樣

。 至 濟 閣 僚 会 議

。 天 皇 訪 中

○ 閣議の模様

(大臣) 天皇皇后両陛下の中華人民共和国御訪問についての閣議決定をし、それに引き続き総理大臣の談話を了解し、発表した。総理大臣並び外務大臣から

それぞれ天皇訪中の件について、非常に短い時間であるが、外務省としては在外公館をあげて御訪問が成功するように万全の準備を進めていくので、関係各

省庁もよろしくお願ひしたい旨発言した。パギスタンの洪水被害の緊急援助について、20万ドルを人道上の立場から拠出することとした旨報告した。また、

自分(大臣)の29日から9月4日までの(ロシア訪問)海外出張について、閣議了解を得た。出張不在中の代理は加藤官房長官である。

○ 経済閣僚会議

(大臣) 経済閣僚会議で一応の報告があった。自分(大臣)から2-3か月おくれではあるが、遅ればせながら、経済の実態認識について政府側とほぼ同じ

くなってきたことは喜ばしい旨発言した。金融システムに関する大蔵省の先の発表は時宜を得たものである。今、株は大きく下がっているが、いずれ、来年

の3月頃には上がるから慌てて売るな、また、9月決算はむりして実態に合わせなくてもよいということであり、これは大事なことである。安心感を持たせ

る。金融機関の土地取得問題について、第3の機関をつくって、地銀や企業を駆り出してやるならば、日銀も応援するということがポイントである。具体策

については、28日までに総合的にまとめるのは難しいであろうが、28日で終りではなく決意表明をし、引き続き検討をしたほうが良いと述べた。自分

(大臣)は赤字国債をどんどん発行しろと言っている訳ではなく、今年は税収はこのままでいくとおそらく10兆円位足らなくなると思う。やってみないと

判らないが、1-6月の状況からするとどうもえらく足りなくなる危険性がある。そのなかで、税金を頼りにいろいろなことをやっても無理ではないか。財

投を運用したほうがよい。マネーサプライが少なくなっている原因の一つは、やはり政府に金が集まっており、民間の金が少ない。だから、財投を集めた金

を投資する方向で検討したほうが良い旨発言した。そういうこと等を含めて、党ともう少しすりあわせてやりたい。自分（大臣）は赤字国債を出せと言って

いる訳ではなく、極力赤字国債を出さない形でできるだけことはやるが、死ぬのが先かどうかというときは別である。要するに、政府はこれ以上景気を悪

化させたり、株を暴落させないためには、できることを考えてなんでもやらなければならない。

○ 天皇訪中

（問）閣議のなかで他の閣僚の発言はあったか。

（大臣）一切ない。

（問）大臣も同行するのか。

（大臣）先の話して決まっていない。

（問）本日閣議決定された訳であるが、天皇訪中問題がでてくるに際して、反対、賛成、慎重論といろいろな意見がでたが、これだけ大騒ぎになる根本部分

はなんであると思うか。

（大臣）日本の歴史始まって初めてであるので、大きな歴史的な事であること

は確かである。

（問）前から言われていた、国民から祝福される形で訪中することはどうか。

（大臣）国民の大多数は祝福している。100%はどうか知りませんが、共産

党にいくら祝福しろと言っても祝福しませんから。その他にも祝福しない人がいるでしょうから、できるだけたくさんの方に（祝福してもらう）。

というところある

（問）お言葉の問題に関する基本的考え方はどうか。

（大臣）なんらかのお言葉があると思うが、極めて自然な形が良いと思う。

92.8.26

訪中準

(問) 先遣隊の派遣時期、レベルはどのようなものになるのか。

(答) 日中双方とも御訪中の所要の準備を取り進めており、先遣隊についても派遣時期について中国側と調整中であり、9月のできる限り早い時期に派遣したいと考えている。

先遣隊のメンバーについては、外務省、警察庁、宮内庁を予定しているが、そのレベルは未定である。

(更問. 第2次先遣隊の時期及びレベルについて問われる場合。)

(答) 第2次先遣隊の派遣も予定しているが、時期及びレベルは未定である。

(対外応答要領)

92年9月17日

訪中準

(問) 17日付け読売新聞第1面は、天皇皇后両陛下の御訪中つき詳細日程が固まった旨報道しているところ、事実関係如何。

(答) 天皇皇后両陛下の中国御訪問の日程については、現在、中国側と鋭意協議中であり、日程は未だ固まっていない。

(更問) 関係省庁の先遣隊が9日～16日に訪中し、中国側と御日程を詰めたのではないか。

(答) 中国側との協議を含め各種準備作業を行ったが、日程が固まったとの事実はない。

(更問) 御日程についてはいつ頃発表されるのか。

(答) 今後、中国政府と協議の上、決めることとなるが、時期については未定。

農村視察、学生と懇談

天皇訪中の日程固まる

天皇、皇后両陛下の中国
訪問の詳細日程が十六日ま
でに固まった。北京と上海
で二度、学生や文化人、学
者と懇談されるなど、昨年
の東南アジア諸国連合(A
SEAN)訪問と同様、民
間人との交流が重視されて
いる。さる九日から現地で
中国側と協議していた宮内

庁など関係省庁の先遣隊が
十六日夜帰国、中国側と話
めた日程を持ち帰った。国
内での調整を経たのち今月
中に閣議に報告され、最終
決定する。

それによると、十月二十
三日は午前中に羽田をたち、
午後北京入り。天安門広場
での歓迎行事に臨んだ後、

人民大会堂で楊尚昆国家主
席と会見、夜は同主席主催
の晩さん会に出席される。

学 午後は学者と懇談した
あと、江沢民総書記、李鵬
首相らと会談、同総書記主
催の晩さん会に臨まれる。

と懇談、最終日には近郊の
農村も視察される。在留邦
人との懇談があった後、午
後上海から帰国される。

三日目は故宮博物館見学
をすませて午後には古都、
西安に移動。翌二十六日は
陝西省歴史博物館などで中
国の古い歴史にふれられ
る。二十七日からは上海に
移り、大学生や文化人など

午後8時以降受付往電案

秘
無期限

※総第102371号001公館宛

平成※平成 4 年 10 月 1 日 秒 0 40 分 9 受付

電 信 案

電信課長 9C	大 臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 儀典長 訪中室長 首席 総務班長 ロジ班長 会計・庶務班長	※発電係 1 2 起案 平成 4 年 9 月 30 日 起案者 電話番号 近藤 4152
	協議先 (A)		

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

在 中国	大使 総領事 あて	外務大臣 発
件 名 EEV (閣議報告・閣議決定関係想定問答)		
主管・文書記号 儀	※電番 第2931号	大至急 至急 普通 (優先処理)
転電 転送 在 転報	※転電番号 大使・総領事あて	大至急 至急 普通 (優先処理)
(ハ〇字) 10月2日に予定されている御日程視察に係る 閣議口頭報告及び随員に係る閣議決定関係想定 問答(作成済み)を、貴館参考までに、別FAX信に 送付する。(3)		
※ 10237125 優先 TYUUGOKU 漢 GB-1 外務省 回覧番号		

(※印欄内は電信課記入)

(昭和六三・六・三十改正)

GM:2405-

午後8時以降受付往電案

FAX信

※総第102372号001公館宛 GM2405-07

平成※平成40年4月15日
時分秒受付

FAX

電信案

大 臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管	議典長 訪中室長 首席 総務班長 口ジ班長 会計・庶務班長	※発電係	12 27
	協議先		起案 平成4年9月30日 起案者 電話番号 近藤 4152	

(※白欄内は電信課記入)

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在	中 国	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名	EEV(閣議報告・閣議決定関係 想定問答)			
主管・文書記号	※電番	大至急 普通 (優先処理)	パターン・コード	
(義)	FAX信			
転電 転送 在 転報	※転電番号	大至急 普通 (優先処理)	大至急 至急 普通 (優先処理)	
伝電第2931号別FAX信。				
※				
10237238 至急 TYUUGOKU F信				
GB-1 外務省				回覧番号

(昭和六三・六・三十改正)

天皇皇后両陛下御訪中の御日程概要に係る閣議口頭報告

(内閣官房長官発言) 関係想定問答

4. 9. 29 作成

訪中 準

問1. 御日程の詳細はいつ決まるのか。

答1. 御日程の概要はお配りの資料のとおりであり、10月23日(金)東京御出発、同月28日(水)御帰国で、北京、西安、上海を御訪問になる。

御日程の詳細は、10月上旬に行われる関係省庁(外務省、警察庁、宮内庁)の現地調査の結果及び相手国政府・関係機関との協議を踏まえ決められることになるかと聞いている。

GM:2405

問2. 御訪問先を北京、西安、上海とした理由如何。

答2. 御訪問先については、中国政府と協議の上決定したが、北京は中国の首都であり、政治・経済・文化の中心地であること、西安は同国の旧都として我が国とも古くから交流があり、我が国の歴史文化と深いかかわりがある都市であること、上海は中国最大の商工業都市として現在ますます発展している都市であることから、それぞれ中国を代表する都市であり日中両国の友好親善関係の増進のためにふさわしいことから御訪問先とした。

問3. 随員、随行員の数と発令時期について問う。

答3. 今回の両陛下の御訪中に当たっては、御訪問国との友好親善の実が上がるようにすることを基本にしつつも、随員、随行員については、御訪問に支障のない最小限の人数に厳選したいと考えている。

また、随員は閣議決定により内閣が発令し、随行員は宮内庁長官が発令することとなるが、準備が整い次第発令することとなる。

(参考) 天皇皇后両陛下及び昭和天皇・皇太后陛下の外国御訪問時の随員、随行員数

	首席随員	随員	随行員	計
昭和46年 御訪欧 (9/27~10/14)	1人	19人	14人	34人 (9月3日発令)
昭和50年 御訪米 (9/30~10/14)	1人	21人	15人	37人 (9月5日発令)
平成3年東南アジア諸国御訪問 (9/26~10/6)	1人	19人	14人	34人 (9月3日発令)

GM:2405-

問4. 国事行為の臨時代行の設置について問う。

答4. この度の天皇陛下の中国御訪問は、国事行為の臨時行為に関する法律（昭和39年法律第83号）第2条に規定する「事故」に該当するので、天皇陛下には、中国御訪問の期間、国事に関する行為を皇太子殿下に委任して臨時に代行させられることになる。

（備考）

1. 天皇陛下の中国御訪問の期間は、10月23日（金）から同月28日（水）まで。
2. 国事行為の臨時代行の設置の手順は次のとおりである。

①内閣の助言と承認

国事行為の臨時代行に関する法律第2条第1項に規定する「内閣の助言と承認」が必要であり、その助言と承認は閣議決定によってなされる。

②天皇陛下の意思表示

国事行為を委任される旨の天皇陛下の御意思が必要であり、その意思表示は通常、勅書をもって伝達される。

③内閣の公示

国事行為の臨時代行に関する法律第5条の規定により国事行為を委任されたときは、内閣がその旨を公示する必要がある、それは内閣告示をもってなされる。

儀典官

天皇皇后両陛下御訪中の随員に係る閣議決定関係想定問答 追加分

4.9.30作成
訪中準5/
問2. 首席随員を渡辺美智雄副総理兼外務大臣にした理由は何か。

答2. 天皇皇后両陛下の外国御訪問については、内閣が責任を負うべき立場にあり、昭和46年の御訪欧の際は福田赳夫外務大臣を、昭和50年の御訪米の際は福田赳夫副総理兼経済企画庁長官を、また、平成3年の東南アジア諸国御訪問の際は外務大臣経験者である倉成正衆議院議員を、それぞれ首席随員に発令してきている。

今回の御訪問に際しても、首席随員の役割に鑑み、また、これら前例を踏まえ、渡辺美智雄副総理兼外務大臣が首席随員にふさわしいと判断したものである。

~~（印）~~

問3. 対外スポークスマンはなぜ必要なのか。

答3. 今日の国際社会における日本の役割及び日本に対する関心の増大に伴い、対外プレス対策の重要性は一段と増大している。

これを踏まえ、両陛下の今回の御訪問についても、御訪問及び第三国のプレスに対し、今次御訪問の意義や陛下の御動静につき説明するため、対外スポークスマンを随員の一員として発令した。

問4. 対外スポークスマンを加賀美秀夫大使にした理由は何か。

答4. 今回の両陛下の外国御訪問の対外スポークスマンについては、外務省情報文化局長や侍従職御用掛（昭和53年2月～昭和54年10月）、国連大使（昭和62年12月～平成2年4月）等の豊富な経験を有し、また、平成3年の東南アジア諸国御訪問の際に対外スポークスマンを務めた外務省参与（平成2年9月～）である加賀美秀夫大使にお願いすることとした。

対外応答要領

平成4年9月18日
東京会議準備本部

問 本18日の閣議で、渡辺大臣が10月23日より28日までの天皇皇后両陛下の御訪中の首席随員に任命されたが、右は10月28、29日の両日に開催予定の「旧ソ連支援東京会議」に何らかの影響を与えるのか。

答1 「旧ソ連支援東京会議」の開催は、渡辺大臣が出席した本年1月のワシントン会議で、旧ソ連諸国の民主化、市場経済化への支援という国際的枠組みの中における貢献の一つとして我が国から提案したもので、会議では渡辺外務大臣自身が議長を務められる。

2 今般の決定により、渡辺大臣が28日夜に帰国されることになったところ、「旧ソ連支援東京会議」は予定を1日変更し、29、30日の両日開催することとし、関係国に対する連絡を開始したところである。

(更問 我が国だけの都合で会議の日程を変更するのは、外交上非礼ではないのかと問われた場合。)

答 今回会議の日程については、分科会共同議長国を中心に28、29日の両日開催というラインで調整をしてきたのは事実であるが、未だ会議への正式招待状を発出した訳ではなく、また会議までは1カ月以上を残しており、開催日が1日程度ずれることは外交上非礼との指摘は当たらず、関係国の理解も得られると考える。

(参考) ワシントン、リスボン、東京と続いてきた旧ソ連支援調整会議には5つの分科会があり、それぞれの共同議長国は次の通り。

食糧	加、英、独
医療	日本、米、仏
住居	独、伊
エネルギー	蘭、ヴェネズエラ
技術支援	日本、米、EC委

(了)

儀典宣

訪中華

①

政策課長

応答要領作成依頼

平成4年10月16日

国際報道課

今般E E V想定問答集作成の為、想定質問事項を別添の通り取り纏めましたところ、貴課担当部分につき（要すれば関係課と協議の上）応答要領を作成願いたく、翻訳作成の都合もありショートノーズにて恐縮ですが、19日（月）までに当課（担当：谷口 内線3181）まで提出願います。

（了）

応答要領作成依頼

平成4年10月16日

国 際 報 道 課

1. 天皇陛下の外国訪問は憲法違反なのではないか。

(更問) 天皇陛下の外国訪問は憲法違反であるとしてこれまでに違憲訴訟が提起されたことはあるのか。

~~2. 戦時中の日本軍の中国における行為により中国国民が被った影響についての認識如何。~~

~~3. 中国の人権状況及び軍事力増強の中での日本の対中援助はODA大綱の精神に反するのではないか。~~

~~4. 中国の人権政策に関する日本と欧米諸国との間の見解の相違如何。~~

~~5. 天皇陛下はトウ小平に会うのか。~~

~~6. 天皇陛下は楊尚昆主席を日本に招待するの否。~~

(応答要領)

天皇皇后両陛下御訪中

92.10.19

訪中準備室

問1. 天皇陛下の外国訪問は憲法違反ではないか。

(答)

1. 天皇陛下が国際親善のために外国を御訪問される行為は、天皇の象徴としての立場に基づいて行われるものであり、天皇の公的行為に当たると考える。
2. 天皇の公的行為については憲法上の明文の規定はないが、象徴たる地位にある天皇の行為として当然に認められるというのが従来からの政府の立場である。

(注) 天皇の公的行為とは、憲法の定める国事行為以外の行為で、天皇が象徴としての地位に基づいて公的な立場で行われるものをいい、外国公式御訪問、国内巡行、国体・植樹祭への御参加等が挙げられる。

尚、公的行為の要件について、1975年3月18日の衆議院内閣委において角田内閣法制局第一部長（当時）は、（1）政治的な影響を持たないこと、（2）内閣が責任を取る行為であること、（3）象徴たる地位に反しないこと、の3点を挙げている。

(更問) 天皇陛下の外国訪問は憲法違反であるとしてこれまでに違憲訴訟が提起されたことはあるのか。

(答) そのような事実はないと承知している。

(対外応答要領)

平成4年10月19日

訪中準備室作成

(問) 19日付け産経新聞夕刊11面は、北京の画家から絵画の献上希望が寄せられ、右を宮内庁が受け入れた旨報じているが、事実関係如何。

(答) そのような事実は承知しておらず、原則として個人からの献上は受けないものと承知。

(更問) 中国外交当局より外務省に対し献上希望が寄せられたのではないのか。

(答) 中国外交当局より個人からの献上について特に我が方に伝えられたことはない。

(了)

1992年10月19日

産経新聞 夕刊

11面

「陛下に絵を献上したい」

二十三日からの天皇、皇后両陛下の中国訪問を前に、中国の著名な老画家が、自分の描いた絵を陛下に献上したいと申し入れていることが十九日までに明らかになった。両陛下の外国訪問に絡んで、相手国の民間人から、こうした希望が出たのは極めて異例という。

この話は両国の外交当局、例外的な措置として絵を受
けて取ることと決め、関係省
で、十年前に亡くなった夫
人の六格格（ろくかくひ
め）は清朝の最後の皇帝・
宣統帝で、後に旧満州国皇
帝となった愛新覺羅溥儀

金王朝皇帝の末裔 北京の王さん



平山郁夫さん

（あいしんくら・ふぎ）
氏の妹。王さんは北京画院
卒で、王さんの絵は、「周
恩来首相画像集」などにも
収録されている。

王さんは早大留学の経験
もあり、その際は日本画の
横山大観、川合玉堂などの
交流もあるほか、これまで
英国のエリザベス女王やス

ウェーデンのグスタフ国王
にも絵を献上したことがあ
る。今回、献上を希望して
いる絵は夫人との合作で、
花鳥風月をテーマにしたも
のだったという。
王さんは、九月初旬に日
した経緯を中国国内の報道

平山画伯に依頼 宮内庁、例外として受け入れ

中二十一世紀委員会出席の
ため訪中していた日中友好
協会会長でもある平山郁夫
画伯を、宿舎の北京市内の
ホテルに訪ねて、陛下に自
分の描いた絵を献上したい
旨を伝えた。
平山画伯は、王さんの希
望を日中の外交当局に伝
え、今回のケースは売名行為に

は当たらないことなども勘
案して、前例としないこと
で、王さんからの絵を受け
取ることにした。
王さんの絵は、ご訪中が
終了した後、いったんは日
本国内の画家に送られ、そ
の画家が宮内庁に寄贈する
という形を取ることにして
いる。

二十三日からの中国訪問
では、両陛下は北京で滞
在中に日中双方の関係者ら
と懇談されることになって
いるが、その席に王さんが
出席する案も検討されてい
る。

平

平成 4 年 10 月 30 日 4 時 34 分 4 秒 受付

電信課長

大臣
秘書官
政務次官
事務次官
外務次官
審議官
官房長

儀典長
 訪中準室長
 首
 総務班長
 口シ班長
 会計・庶務班長

※発電係 1 2

起 案、
平成 4 年 10 月 30 日

起案者 電話番号
村角 4651

(※印欄内は電信課記入)

協議先

長誅報道國際

中國課長

（注意） 1 枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います

在 中国 上海

大使
総領事

外務大臣 發

件名

EEV (新聞送付依頼)

主管・文書記号

儀

※電番

合第21350号普通

大至急

至急

優先処理

パターン・コード

電轉

轉送 在

報轉

※転電番号

大使・総領事あて

大至急

至急

普通 (優先処理)

(八〇字)

今般~~々~~天皇皇后兩陛下御訪中仁園可子記事

が掲載されている貴地新聞各紙(英字紙)各主

入るに必要だ。今は早くから現れ、
部を互に穴送りしたい。(J) の

免附本電報：中國、上海（同建）

* 由于... ~~...~~ ... 可能... (70212)

11530389

優先

TXUUGOKU

漢 002 等

GB-1

外務省

回覧番号

(昭和六三・六・三十改正)

※総第

※平成 年 月 日
時 分 秒 受付

電 信 案

電信課長

大臣
秘書官
政務次官
事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長

主管 儀典長
訪中室長
首席

※発電係 1 2
起案 平成 4 年 10 月 30 日
起案者 電話番号 村角 4151

(※印欄内は電信課記入)

協議先

国際報道課長 中国課長

(注意) 1枚目は、機械で処理しますので、折り曲げない様願います。

(八〇字)

在 中国, 上海	大使 総領事	あて	外務大臣 発
件名 EEV(新聞送付依頼)			
主管・文書記号 儀	※電番	大至急 普通	至急 (優先処理)
転電 転送 在 転報	※転電番号	パターン・コード	
大 使・総領事あて		大至急 至急 普通 (優先処理)	
今般宮内庁より天皇皇后両陛下御訪中に関する記事が掲載されている貴地主要紙(英字紙。また西安も含めて)を入手したい旨要請越した。右は宮中において現地の事実から事後までの報道ぶりを全体を通して御覧になりたい趣意であり、ついでには右主要紙を可能な範囲で各一部至急密送ありたい。(了)			
GB-1	外務省	回覧番号	

(昭和六三・六・三十改正)

記者会見用 擬問 擬答 (ア中)

部数指示	発信通数	執務用	計
主信(写共)	/	/	2
付	有	備考	
属	無		

秘 無期限 作成済 取付注意

発送処理日	平成4年8月25日
発信	検査 あ

文書課長 儀 公信案 (在外公館あて専用)

公信番 儀 第 8 / 号	公信日付 平成 年 月 日 平成4年8月21日
大 臣 秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 儀典長 儀典官 首席事務官 起案者 電話番号 片山 2425
協議先 中国課長 首席事務官 総務班	
受信者 在上海総領事	発信者 外務大臣
写送付先	(希望発送日) 月 日
件 名 EEY (記者会見用疑問擬答)	

GA-11

外務省

回覧番号

(昭和六三・四・一改正)

秘

まで

儀 第 8/ 号

平成4年8月21日

在 上 海 総 領 事 殿

外 務 大 臣

件名

EEV(記者会見用 擬問 擬答)

引用公・電信

日付・番号

取り敢えずの記者会見用 擬問 擬答 を送付する。

尚、閣議決定を了するまで右取り扱いに留意あり

たい。

(3)

文書課記入欄

付属添付 ☒

付属空便(行) ☐

付属空便(DP) ☐



儀 第 8/ 号

平成4年8月21日

在 上 海 総 領 事 殿

外 務 大 臣

件名

EEV(記者会見用 擬問 擬答)

引用公・電信

日付・番号

取り敢えずの記者会見用 擬問 擬答 を送付する。
尚、閣議決定を了するまで右取り扱いに留意あり
たい。

(?)

文書課記入欄

付属添付 ☒

付属空便(行) ☐

付属空便(DP) ☐

儀典長了

アジア局長おけり
審議官了
参事官了
中
地
首席事務官

(対外応答要領)

儀典官了

平成4年9月9日

アジア局中国課

問、文芸春秋(10月号)は、「宮内庁が外務省につきつけた質問状」と題する一文の中で「質問状」として質疑応答を掲載しているが、宮内庁よりそのような質問があったのか。

(答)

そのような事実はない。

(更問) このようなQ & Aを作成した経緯はあるのか。

(答)

種々準備資料を作成することは事実であるが、文書の性格上これ以上のコメントは差し控えたい。

(更問) 冒頭の解説では外務省側と宮内庁側との間での認識の違いが指摘されているが、実体如何。

(答)

そのような事実は全くない。

(了)

宮内庁が外務省に つきつけた質問状

解説 大原康男
(國學院大学教授)

〈解説〉

天皇陛下下の御訪中は前途にさまざまな問題をかかえながらも、八月二十五日の定例閣議において正式に決定された。本年初頭以来、日中兩國の当局者によってひそかに進められてきたと推測される今回の御訪中計画は、宮内首相が繰返し述べてきた「國民的合意を得て、全國民が祝福する形で実現する」との約束とはほど遠い、密室の中での決定であったと言わざるを得ない。

去る八月十七・十八の両日、政府は各界の代表十四人を招いて御訪中に関する意見聴取を行なった。既にその一週間前の八月十日に

宮内首相が御訪中実現の決断を自民党四役に伝え、協力を要請した後の意見聴取など、茶番劇以外の何ものでもないが、とにかく、その招かれた一人として私はこれまでの自説である御訪中反対論を七項目に分けて、いささか詳細に述べておいた。

そこで指摘した危惧や疑問点は、その直後に本誌編集部が全文を入手したある文書の内容と偶然にも基調音を同じゅうするものであった。その文書とは、宮内庁と外務省の間に交わされた御訪中に関する質疑応答である。時期は前後の事情から、質問は七月下旬、回答は八月上旬から中旬にかけてのことと推定される。

宮内庁が御訪中問題について、予てから慎重な姿勢をとっているということは耳にしていたが、十三項目にわたる質問の一つ一つを見ていくと、ことごとく基本的な問題であり、かつ、もつともな内容であることがわかる。今般の御訪中を心配する國民が心底から問い糺したかったことがらばかりである。

これに対する外務省の回答は、率直に言って、素っ気ない紋切り型の説明や、樂觀的な見通しのものが少なくなく、事態を深刻に案じている宮内庁側との間の認識の違いをまざまざと感じさせる。

何よりも御訪中をめぐる閣論が二分されているこの時期に、直接の担当官庁である外

務省と宮内庁の間でこのようなQ&Aが作成されたという事実は、政府内部において御訪中に関する姿勢が必ずしも一致していないことを物語っており、ことは重大である。平成の御代のもと、皇室外交の大きな一歩を踏み出される壮途にしては多くの問題が未処理のまま残されているようにみえる。今後の皇室のあり方を示唆する上で重大な論点を以下指摘しておきたい。(解説は上部に野線を引いた部分)

〈質問状〉

問1 中国から元首は訪日しているか。

(答)

1 昭和五十五年に華國銓務院總理兼共產黨主席(當時)がはじめて國賓として訪日している。

2 当時の中国において元首の定義は必ずしも明確ではなかったが、政府及び党の長として國內の序列において第一位であった地位に鑑み、通常、外國元首に對する招待形式である國賓として招請したものである。

(注1) 昭和五十五年当時の中国は國家主席をおかず、憲法上も特に元首についての規

定はなかった。なお、現行憲法(昭和五十七年改正)では、第三章第二節(第七十九條)八十四條において國家主席について述べられており、「中華人民共和國を代表し、外國の使節を接受し、全國人民代表大會の常務委員會の決定に基づいて外國駐劄の全權代表を派遣或いは召還し、外國と締結した條約と重要な協定を批准或いは廢棄する」(第八十一條)と規定されている。

(注2) 中國要人の訪日歴

華國銓總理(一九八〇年五月六月)(國賓)

趙紫陽總理(一九八二年五月六月)(國賓)

胡耀邦總書記(一九八三年十一月)(國賓)

彭真全人代委員長(一九八五年四月)(國會の賓客)

の賓客)

李鵬總理夫妻(一九八九年四月)(公賓)

江沢民總書記(一九九二年四月)(公賓)

万里全人代委員長(一九九二年五月六月)

(國會の賓客)

「國賓等の待遇について」(昭和三十九年六月三十日閣議決定)によれば「國賓」とは「政府が儀礼を盡して公式に接遇し、皇室の接遇にもあずかる外國の賓客をいい、元首、首相、その他これらに準ずる者であつてこの待遇を適當とするも

のにつき、外務大臣において宮内庁長官と連絡の上その諸議により閣議において決定するもの」であつて、「公賓」とは「國際禮讓に照らし相當の接遇を供する外國の賓客をいい、皇族、閣僚その他のものであつてこの待遇を適當とするものにつき、外務大臣が關係各大臣と協議の上、閣議了解を経て決定するもの」である。

華國銓總理の場合は、「元首に準ずる者」に該当するとして國賓として待遇したのであるが、元首である國家主席が復活した後も、國家主席が一度も来日したことがないという事実は変わらない。

(更問) 今回の御訪中は答礼との趣旨があるのか。

(答)

1 今回の訪問は中國側より再三にわたり國交正常化二十周年の本年に御訪中頂きたいとの招請が行われたことを受けて行われるものであり、二國間の友好親善關係の増進を図ることを目的としている。

2 中國よりは既に國賓として訪日していることに鑑みれば、答礼との位置づけも可能

であると考えられるが、今次御訪問は前述の如く幅広い観点より二国間の友好親善関係の増進を図るもの。

問2 天皇は対外的に元首であるか。

(答)

一般論として、天皇が元首であるかどうかは元首の定義如何による。昔のように内治、外交の全てを通じて国を代表し、行政権を掌握している存在として元首を定義するならば、日本国憲法のもとでは、天皇は元首であるとはいえない。しかし、天皇は現在の憲法のもとにおいて、国の象徴とされており、ごく一部ではあるが、外交関係において国を代表する面を持っているので、そのような面を有するものを元首と定義するならば、天皇は元首であるということが出来る。

天皇が元首であるかどうかについては、国会で何度か論じられたことがあるが、たとえば、昭和四十五年三月十二日の衆議院内閣委員会において、真田秀夫法制局長官(当時)の「昔のように、すべて内治外交面を通じて国を代表し、行政権を掌握しているという内容の存在をもって元首という、そういう定義を前提

(質問) 中国側は陛下を元首として受け入れるか。

(答)

天皇陛下が御訪問される際、外国が如何なる接遇をするかは訪問先の国がその国の基準なり、方針なりに従って決めるべきことであるが、受け入れ国も日本国の象徴であられる天皇の基本的な御地位については

十分理解していると考えられるので、かかる象徴たる地位にあられる天皇として相応しい接遇がなされることになろうと思われる。

問3 今次の中国御訪問の目的・意義如何。

(答)

1 中国側より再三にわたり外交儀礼にかなった招請あり。これに対し誠意をもって対応することが必要。

(注) 中国側は、(1)御訪中は日中両国の民間の友情を深めるためのものであり、大歓迎すること、(2)日本側を困らせることは決してしないこと、を明確にしている。

2 本年は国交正常化二十周年という重要な節目でもあり、天皇・皇后両陛下の御訪中は、友好親善訪問という本来の目的に適うもの。

3 アジア諸国は我が国のアジアに対する基本姿勢を強い関心を持って見守っている。昨年の両陛下の東南アジア諸国の御訪問に続く本年の中国御訪問は、このようなアジア諸国によって歓迎され、また評価される。

— 中国は冷戦終了後もひとり突出して軍

問4 憲法第四条第一項との関係で御訪問は天皇陛下のいかなる行為に当たるのか。

(答)

1 国事行為は、憲法上限定列挙されており、天皇の外国御訪問は、国事行為に当たらない。

2 天皇陛下が国際親善のために外国を御訪問される行為は、天皇の象徴としてのお立場に基づいて行われるものであり、天皇の公的行為に当たると考える。

(参考)

天皇の公的行為とは、憲法の定める国事行為以外の行為で、天皇が象徴としての地位に基づいて公的な立場で行われるものをいう。

天皇の公的行為については憲法上の明文の規定はないが、象徴たる地位にある天皇の行

為として当然に認められるというのが従来からの政府の立場である。

なお、天皇の公的行為がいやしくも國政に影響を及ぼすものであつてはならないことはいうまでもない。

問5 天皇陛下を政治的に利用することにならないか。

(答)

天皇陛下の今次御訪問は、国際親善のための御訪問であり、親善の効果があがるよう政府として配慮することは当然である。また、政治に関与されないという天皇の御立場に鑑みれば、今回の御訪問が政治的なものにならぬよう政府においても十分配慮する所存であり、いわんや政府が天皇陛下の御訪問を政治的に利用することはあり得ない(ちなみに、中国側は、天皇陛下の御訪中は将来にわたる

4 広範な中国国民は、両陛下の御訪中によって、平和国家日本の姿のみならず、新しい皇室像を深く理解することとなる。更に、両陛下の誠実かつ暖かいお人柄は、必ずや中国の人々に強い感動をもたらしものとなる。

はなまる節
燃えるような自然のまただ中、ドラマチックな何かが起りそう。
思い出づくりの温泉リゾートライフ。

【施設のご案内】
●洋室55室/40洋室6室/40室9室 計70室
●温泉風呂の家族風呂●金沢文
●宴会場●お食事室、和・洋食

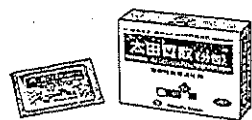
心うるおう温泉
箱根仙石原 **花月園**
ホテル
(〒250-06) 神奈川県箱根町仙石原
TEL(0460)4-8621・代表
予約センター／東京 ☎(03)5687-6031
横浜 ☎(045)312-7751

飲みすぎ
胃のもたれ
胃の痛みに…



太田胃散

天然の良さを生かした
「生薬」の配合による
たしかな効きめ…



・分色タイプ・

株式会社太田胃散

(答)
我が国は天安門事件に対する国際批判と同

(答)
(更に追求ある場合)

問8 人権抑圧を行っている中国を天皇陛下が御訪問になることは、他の自由諸国との友好関係を損なうことになるのではないか。

これまでの懸案処理のあり方は、決して「共同努力」などと呼べるものではない。中国側の一方的な主張に日本政府が屈服したことが少なからずあった。こうした軋轢が日中間に現に存在する中で、真の友好関係の樹立は、政府が全責任を負って行うべきであって、天皇陛下に御負担をおかけしてはならない。

一步調を取りつつも、中国を完全な国際孤立に陥れないために努力。中国は今や市場経済を指向する政策へと大転換を遂げつつあり、これは我が国の努力が実を結んだ結果。このような状況下で、両陛下が日中国交正常化二十周年を祝って訪中されても、国際社会に波風が立つことはない。

「国際社会に波風が立つことはない」と自信たっぷりな断言しているが、その具体的根拠が示されていない。いや、既に米上院外交委員会主任顧問W・トレビット氏や、元国防長官C・ワインバーガー氏等は御訪中が欧米諸国の反撥を招きかねないことを警告しているではないか。

(答)

中国側は国を挙げて陛下の御訪中を歓迎しており、中国の内政に陛下の御訪中を関

3 天皇陛下の御訪中は必ずや両国間の友好親善関係を更に増進させるものとなる。

(答)
(更問) 天皇陛下は中国に謝罪されるのか。

国交正常化二十周年を迎え両国の平和友好関係を更に発展させていこうとしている中、陛下の御訪中は、両国間の友好親善関係を深めるために行われるものである。

(答)

問6 過去の歴史との問題はとうとう位置付けられるのか。

いわゆる「皇室外交」は、現実の政治・経済の次元を超えたところで、親善の実をあげるのが本義であり、昨年の東南アジア三カ国御訪問に見られるように、そのことによって結果として「アジアの安定と平和」に寄与することが望まれるのであるが、今回の御訪中は、政府のこれまでの言明にも明らかになように、日中の緊密な関係を深めることによって「アジアの安定と平和」を目指すことが直接の目的になっているという点で、すぐれて政治的なものといえる。

陛下は「謝罪」のために訪中されるのではなく、両国間の友好親善関係の増進を図るためにおいでになる。この点は、中国側も繰返し同様の認識を明らかにしている。

問7 賠償問題や従軍慰安婦問題は出ないのか。

(答)

陛下は両国間の友好親善関係を深めるため訪問されるものであり、賠償問題や従軍慰安婦問題が議論されることはあり得ない(中国側は、日本側を困らせることは決してしないことを明確にしている)。

(更問) 従軍慰安婦、民間賠償、靖国、PKO批判、尖閣諸島問題など日中国間には真に安定した友好関係が築かれているとは言いがたい、このような時期に天皇陛下に御訪問頂くのは適当ではないのではないか。

(答)

1 関係の深い二国間にあつて懸案があるのはむしろ自然。
2 要は、困難を乗り越え種々の努力を継続することにあり、日中国間は「過去」の不幸な歴史に由来する種々の困難を含めこれ乗り越える共同努力を行ってきている。

連付けようとの意図はないと承知。

(注) 中国の国内情勢は安定。俗に言われる「改革」派と「保守」派の対立というのは改革・開放のテンポを巡っての政策面での意見対立が中心。また、かかる政策面での対立も、改革・開放の一層の推進に収斂しつつある。

問10 総理は「国民の祝福の中で御訪中頂くことが望ましい」と語っているが、そのような状況であると認識しているのか。

(答)

1 陛下の外国御訪問が国民の祝福を受けて行われるのが望ましいことは、訪問先が中国でなくとも当然のこと。

2 今次御訪中についても中国側は政府・国民を挙げて歓迎する旨述べており、また、我が国国内の各種世論調査や各紙社説も概ね陛下の御訪中に賛成であると承知している。

政府が「国民の祝福の中で……」という環境づくりに努力したとは到底思えない。また、産経新聞に二度にわたって掲載された御訪中反対の意見広告を見て

も、学者・文化人のほとんどが御訪中反対または慎重論であり、積極的賛成論はごく僅かであるという現実からして、国民的合意が形成されたとは言いがたい。

問11 御日程はいつごろ固まるのか。

(答)

今次御訪問の御日程については、今後、中国政府と協議の上決めることとなるが、決定の時期については未定。

政府は否定したが、八月三日の時事通信北京支局電などによっても、かなり早い時期に御訪中の日程がおおよそ決定されている形跡が窺われる。

問12 首席随員は誰になるのか。

(答)

両陛下の外国御訪問の首席随員については、今後政府部内で検討していくことになろう。

(参考)

昭和天皇・皇后両陛下の訪欧・訪米の際の首席随員

訪欧(昭46) 福田外務大臣(当時)
訪米(昭50) 福田総理兼経企庁長官(当時)
今上天皇・皇后両陛下のASEAN訪問の際の首席随員
訪ASEAN(平成3) 倉成正衆院議員(元外相)

問13 韓国との関係で訪中を先にすることにつき問題は無いのか。

(答)

中国と並んで、韓国御訪問も避けて通れない課題であるが、本年は韓国大統領選挙の年であり、御訪問の機が熟していない。

(更問) 欧米諸国との関係で問題はないのか。

(答)

ない(いかなる形であれ欧米諸国の政府から天皇陛下の中国御訪問について懸念めいた話がよせられたことはない)。

(更問) 御訪問先がアジアに偏っているのではないか。

(答)

種々の事情により、たまたまアジア諸国への御訪問が昨年及び本年と続くこととなったが、右をもつてアジアに偏っているとの見方は当たらない。

宮内庁作成

問 宮内庁は、月刊誌「文藝春秋」に掲載されたような質問を外務省に対して実際に行ったのか。

答 そのような事実はない。

問 宮内庁は、月刊誌「文藝春秋」に掲載されたような文書が存在していることを知っていたか。

また、当該文書が作成されるに当たって外務省から協議を受けたか。

答 いわゆる想定問答集のようなものを外務省が作成したことは、承知している。

なお、宮内庁にも関係がある事項については協議があった。

宮内庁が外務省につきつけた質問状

解説 大原康男
(國學院大学教授)

〈解説〉

天皇陛下の御訪中は前途にさまざまな問題をかかえながらも、八月二十五日の定例閣議において正式に決定された。本年初頭以来、日中兩國の當局者によってひそかに進められてきたと推測される今回の御訪中計画は、宮澤首相が繰返して述べた「國民的合意を得て、全國民が祝福する形で実現する」との約束とはほど遠い、密室の中での決定であったと言わざるを得ない。

去る八月十七・十八の両日、政府は各界の代表十四人を招いて御訪中に関する意見聴取を行なった。既にその一週間前の八月十日に

宮澤首相が御訪中実現の決断を自民党四役に伝え、協力を要請した後の意見聴取など、茶番劇以外の何ものでもないが、とにかく、その招かれた一人として私はこれまでの自説である御訪中反対論を七項目に分けて、いさゝか詳細に述べておいた。

そこで指摘した危惧や疑問点は、その直後に本誌編集部が全文を入手したある文書の内容と偶然にも基調音を同じゅうするものであった。その文書とは、宮内庁と外務省の間に交わされた御訪中に関する質疑応答である。時期は前後の事情から、質問は七月下旬、回答は八月月上旬から中旬にかけてのことと推定される。

宮内庁が御訪中問題について、予てから慎重な姿勢をとっているということは耳にしていたが、十三項目にわたる質問の一つ一つを見ていくと、ことごとく基本的な問題であり、かつ、もっともな内容であることがわかる。今般の御訪中を心配する國民が心底から問い糺したことがらばかりである。

これに対する外務省の回答は、率直に言って、素っ気ない紋切り型の説明や、楽観的な見通しのものが少なくなく、事態を深刻に案じている宮内庁側との認識の違いをまざまざと感じさせる。

何よりも御訪中をめぐる議論が二分されているこの時期に、直接の担当官庁である外

務省と宮内庁の間で、このようなQ&Aが作成されたという事実は、政府内部において御訪中に関する姿勢が必ずしも一致していないことを物語っており、ことは重大である。平成の御代のもと、皇室外交の大きな一歩を踏み出される壮士にしては多くの問題が未処理のまま残されているようにみえる。今後の皇室のあり方を示唆する上で重大な論点を以下指摘しておくたい。(解説は上部に野線を引いた部分)

〈質問状〉

問1 中国から元首は訪日しているか。

(答)

1 昭和五十五年に華國銓國務院總理兼共產黨主席(当時)がはじめて國賓として訪日している。

2 当時の中國において元首の定義は必ずしも明確ではなかったが、政府及び党の長として國內の序列において第一位であった地位に鑑み、通常、外國元首に対する招待形式である國賓として招請したものである。

(注1) 昭和五十五年当時の中國は國家主席をおかず、憲法上も特に元首についての規定が外務省につきつけた質問状

定はなかった。なお、現行憲法(昭和五十七年改正)では、第三章第二節(第七十九条八十四条)において國家主席について述べられており、「中華人民共和國を代表し、外國の使節を接受し、全國人民代表大會の常務委員會の決定に基づいて外國駐劄の全權代表を派遣或いは召還し、外國と締結した条約と重要な協定を批准或いは廢棄する」(第八十一条)と規定されている。

(注2) 中國要人の訪日歴

華國銓總理(一九八〇年五月六月)(國賓)
趙紫陽總理(一九八二年五月六月)(國賓)
胡耀邦總書記(一九八三年十一月)(國賓)
彭真全人代委員長(一九八五年四月)(國會の賓客)

李鵬總理(一九八九年四月)(國賓)
江沢民總書記(一九九二年四月)(國賓)
万里全人代委員長(一九九二年五月六月)(國會の賓客)

「國賓等の待遇について」(昭和三十九年六月三十日閣議決定)によれば「國賓」とは「政府が儀礼を尽して公式に接遇し、皇室の接遇にもあずかる外國の賓客をいい、元首、首相、その他これらに準する者であつてこの待遇を適當とするもの」

のにつき、外務大臣において宮内庁長官と連絡の上その請議により閣議において決定するもの」であつて、「國賓」とは「國際禮儀に照らし相當の接遇を供する外國の賓客をいい、皇族、關係その他のものであつてこの待遇を適當とするものにつき、外務大臣が關係各大臣と協議の上、閣議了解を経て決定するもの」である。

華國銓總理の場合は、「元首に準する者」に該当するとして國賓として待遇したのであるが、元首である國家主席が復活した後も、國家主席が一度も来日したことがないという事実は変わらない。

(質問) 今回の御訪中は答れとの趣旨があるのか。

(答)

1 今回の訪問は中國側より再三にわたり國交正常化二十周年の本年に御訪中頂きたいとの招請が行われたことを受けて行われるものであり、二國間の友好親善關係の増進を図ることを目的としている。

2 中國よりは既に國賓として訪日していることに鑑みれば、答れとの位置づけも可能

であると考えられるが、今次御訪問は前述の如く幅広い観点より二国間の友好親善関係の増進を図るもの。

問2 天皇は対外的に元首であるか。

(答)

一般論として、天皇が元首であるかどうかは元首の定義如何による。昔のように内治、外交の全てを通じて國を代表し、行政権を掌握している存在として元首を定義するならば、日本國憲法のもとでは、天皇は元首であるとはいえない。しかし、天皇は現在の憲法のもとにおいて、國の象徴とされており、ごく一部ではあるが、外交関係において國を代表する面を持っているので、そのような面を有するものを元首と定義するならば、天皇は元首であるといえることができる。

天皇が元首であるかどうかについては、国会で何度か論じられたことがあるが、たとえば、昭和四十五年三月十二日の衆議院内閣委員会において、真田秀夫法制局長官(当時)の「昔のように、すべて内治外交面を通じて國を代表し、行政権を掌握しているという内容の存在をもって元首という、そういう定義を前提

(更問) 中國側は陛下を元首として受け入れるか。

(答)

天皇陛下が御訪問される際、外國が如何なる接遇をするかは訪問先の國がその國の基準なり、方針なりに従って決めるべきことであるが、受け入れ國も日本國の象徴であられる天皇の基本的な御地位については

十分理解していると考えられるので、かかる象徴たる地位にあられる天皇として相応しい接遇がなされることになろうと思われる。

問3 今次の中國御訪問の目的・意義如何。

(答)

1 中國側より再三にわたり外交儀礼にかなった招請あり。これに対し誠意をもって対処することが必要。

(注) 中國側は、(1)御訪中は日中兩國の民間の友情を深めるためのものであり、大歓迎すること、(2)日本側を困らせることは決してしないこと、を明確にしている。

2 本年は國交正常化二十周年という重要な節目でもあり、天皇・皇后両陛下の御訪中は、友好親善訪問という本来の目的に適うもの。

3 アジア諸國は我が國のアジアに対する基本姿勢を強い関心を持って見守っている。昨年の両陛下の東南アジア諸國の御訪問に続く本年の中國御訪問は、このようなアジア諸國によって歓迎され、また評価される。

— 中國は冷戦終了後もひとり突出して軍

為として当然に認められるというのが従来からの政府の立場である。

なお、天皇の公的行為がいやしくも國政に影響を及ぼすものであつてはならないことはいうまでもない。

問5 天皇陛下を政治的に利用することにならないか。

(答)

天皇陛下の今次御訪問は、國際親善のための御訪問であり、親善の効果があがるよう政府として配慮することは当然である。また、政治に關与されないという天皇の御立場に鑑みれば、今回の御訪問が政治的なものにならぬよう政府においても十分配慮する所存であり、いわんや政府が天皇陛下の御訪問を政治的に利用することはあり得ない(うなみに、中國側は、天皇陛下の御訪中は将来にわたる

1 國事行為は、憲法上限定列举されており、天皇の外國御訪問は、國事行為に当たらない。

2 天皇陛下が國際親善のために外國を御訪問される行為は、天皇の象徴としてのお立場に基づいて行われるものであり、天皇の公的行為に当たると考ええる。

(参考)

天皇の公的行為とは、憲法の定める國事行為以外の行為で、天皇が象徴としての地位に基づいて公的な立場で行われるものをいう。

天皇の公的行為については憲法上の明文の規定はないが、象徴たる地位にある天皇の行

燃えるような自然のまっただ中、ドラマチックな何かが起りそう。思い出づくりの温泉リゾートライフ。

はじめて季節

【施設のご案内】
●温泉55度/40分文5文/10分3文 計70文
●露天風呂の家族風呂 ●全室温泉
●全室温泉 ●お食事処、和・洋食

心うらやま温泉
花月園
ホテル
(〒250-06) 神奈川県横浜町仙石原
TEL (0460) 4-8621・代表
予約センター/東京 ☎(03) 5637-6031
横浜 ☎(045) 312-7751

日中兩國の國民間の友情を深めるためのものであり、政治利用することなど毛頭考えていないことを明らかにしている。

いわゆる「皇室外交」は、現実の政治・経済の次元を超えたところで、親善の実をあげるのが本義であり、昨年の東南アジア三カ国御訪問に見られるように、そのことによって結果として「アジアの安定と平和」に寄与することが望まれるのであるが、今回の御訪中は、政府のこれまでの言明にも明らかにかなうように、日中の緊密な関係を深めることによって「アジアの安定と平和」を目指すことが直接の目的になっているという点で、すぐれて政治的なものといえる。

問6 過去の歴史との問題はどの位置付けられるのか。

(答) 国交正常化二十周年を迎え兩國の平和友好関係を更に発展させていくというところにある中であって、陛下の御訪中は、兩國間の友好親善関係を深めるために行われるものである。
(更問) 天皇陛下は中国に謝罪されるのか。
(答)

3 天皇陛下の御訪中は必ずや兩國間の友好親善関係を更に増進させるものとなる。

これまでの懸案処理のあり方は、決して「共同努力」などと呼べるものではない。中国側の一方的な主張に日本政府が屈服したことが少なからずあった。こうした軋みが日中間に現に存在する中で、其の友好関係の樹立は、政府が全責任を負って行うべきであって、天皇陛下に御負担をおかけしてはならない。

問8 人権抑圧を行っている中国を天皇陛下が御訪問になることは、他の自由諸国との友好関係を損なうことになるのではないか。

(答) 我が国は天安門事件に対する国際批判と同

陛下は「謝罪」のために訪中されるのではなく、兩國間の友好親善関係の増進を図るためにおいでになる。この点は、中国側も繰返し同様の認識を明らかにしている。

事実は全く違ふ。二月二十一日に楊振亜・中国大使は「兩國の一時期の不幸な歴史に対して態度表明を行えば、中日兩國民ともに自然なことになる」と述べ、四月六日には訪日中の江沢民総書記が「兩國の間の不幸な過去についても、正しく対処していくことが兩國関係の健全な発展を図るうえで必要だ。中国としては、前のことを忘れて未来を見ることが必要であり、日本は、過去の歴史的教訓を真摯に見つめ平和的発展の道を堅持することが重要だ」と発言している。

さらに、六月十八日には、孫平化・中日友好協会会長が「天皇陛下のアジア各国歴訪の際、常に過去の歴史へのお言葉が議論になってきた」と語り、御訪中も例外ではないとの見解を示唆しており、これら一連の中国側の発言を見れば、いわゆる「謝罪」表現をめぐる歯止めを保証は得られていないと言っている。
万が一そのような事態になった場合、

一歩調を取りつつも、中国を完全な国際孤立に陥れないために努力。中国は今や市場経済を指向する政策へと大転換を遂げつつあり、これは我が国の努力が実を結んだ結果。このような状況下で、両陛下が日中国交正常化二十周年を祝って訪中されても、国際社会に波風が立つことはない。

「国際社会に波風が立つことはない」と自信たっぷりに断言しているが、その具体的根拠が示されていない。いや、既に米上院外交委員会主任顧問W・トレビット氏や、元国防長官C・ワインバーガー氏等は御訪中が欧米諸国の反撥を招きかねないことを警告しているではないか。

(更にも追求ある場合)

(答)

「陛下は「謝罪」のために訪中されるのではない」と断言した外務省の責任は極めて重い。

問7 賠償問題や従軍慰安婦問題は出ないのか。
(答) 陛下は兩國間の友好親善関係を深めるため訪問されるものであり、賠償問題や従軍慰安婦問題が議論されることはあり得ない(中国側は、日本側を困らせることは決してしないことを明確にしている)。

(更問) 従軍慰安婦、民間賠償、韓国、PRCの批判、尖閣諸島問題など日中兩國間には其に安定した友好関係が築かれているとは言えず、このような時期に天皇陛下に御訪問頂くのは適当ではないのではないか。
(答)

1 関係の深い二國間において懸案があるのはむしろ自然。
2 要は、困難を乗り越え種々の努力を継続することであり、日中兩國は「過去」の不幸な歴史に由来する種々の困難を含めこれを乗り越える共同努力を行ってきている。

1 中国の人権問題については、我が国は西側各国(特にG7)と共通の認識に立って、高いレベルで関心を表明してきている。中国側もこれを受け国際世論に歩み寄りを示しつつある。

2 他方、中国における人権問題の解決の必要性和天皇陛下の御訪中とは同次元の問題に非ず。天皇陛下の御訪中は純粋に友好親善の観点からなされるもの。中国の人権問題へのアプローチは政治のレベルでなされるべきもの。

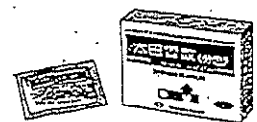
問9 現在の中国の国内情勢は不安定であり、このような国を現在両陛下が御訪問されることは不適当ではないか。

(答) 中国側は國を挙げて陛下の御訪中を歓迎しており、中国の内政に陛下の御訪中を関

飲みすぎ
胃のもたれ
胃の痛みに...



天然の良さを生かした
『生薬』の配合による
たしかな効きめ...



・分色タイプ・

一 株式会社太田胃散

國會關係圖

秘
無期限

関係者各位：

EEV（国会関係日程）

平成4年8月20日
儀典官

今後の国会の日程は下記の通りです。標記の関連で質問が出る可能性がありますので、ご留意下さい。

記

8月28日（金） 衆議院内閣委員会

9月3日（木） 参議院内閣委員会

9月8日（火）、9日（水） 参議院決算委員会

9月17日（木） 参議院決算委員会

（配布先）

アジア局長、審議官、ア地政長、中国課長、
儀典長、儀典官室
総務課長

天皇陛下の御訪中の意義

1. 中国側より再三にわたり外交儀礼にかなった招請あり。これに対し誠意をもって対処すべし。

(注) 中国側は、(1) 御訪中は日中両国の国民間の友情を深めるためのものであり、大歓迎すること、(2) 日本側を困らせることは決してしないこと、を明確にしている。

2. 国交正常化20周年を祝賀する形での御訪中は、友好親善訪問との本来の目的に適うもの。(この機会を逃せば、親善訪問のチャンスは遠のく。)

3. 我が国は国際的に新たな政治的役割を担いつつある。それだけに、アジア諸国は我が国のアジアに対する基本姿勢を重大なる関心を持って見守っている。昨年の中陛下の東南アジア諸国御訪問に続く本年の中国御訪問は、このようなアジア諸国によって大いに歓迎され、また高く評価されよう。

4. 我が国は、天安門事件に対する国際批判と同一歩調を取りつつも、中国を完全な国際孤立に陥れないために努力。中国は今や市場経済を指向する政策へと大転換を遂げつつあり、これは我が国の努力が実を結んだ結果。このような状況下で、両陛下が日中国交正常化20周年を祝って訪中されても、国際社会に波風が立つことはない。

5. 広範な中国国民は、両陛下の御訪中によって、平和国家日本の姿のみならず、新しい皇室像を深く理解することとなろう。更に、両陛下の誠実かつ暖かいお人柄は、必ずや中国の人々に強い感動をもたらすものと確信する。

天皇陛下の御訪中（『政治利用』の問題）

1. 天皇陛下が国際親善のために外国を御訪問されることは、天皇陛下の象徴としてのお立場に基づいて行われるものであり、憲法上認められるものであって(注)、これまでも同様の認識の下に諸外国を訪問されておられるところである。
2. かかる外国御訪問が政治的に利用されることがあってはならないことは当然である。親善のための外国御訪問により諸外国との善隣友好関係が更に深められることは御訪問の自然な結果である。
3. 本年の天皇陛下の御訪中は、正にこのような認識に基づいて行われるものであり、日中両国政府とも御訪問を政治的に利用する意図は一切ない。
4. ちなみに、中国側は、天皇陛下の御訪中は将来にわたる日中両国の国民間の友情を深めるためのものであり、政治利用することなど毛頭考えていないことを明らかにしている。

(注) 天皇陛下が国際親善のために外国を御訪問される行為は、天皇の象徴としてのお立場に基づいて行われるものであり、天皇の公的行為に当たる。

天皇の公的行為とは、憲法の定める国事行為以外の行為で、天皇が象徴としての地位に基づいて公的な立場で行われるものをいう。

天皇の公的行為については憲法上の明文の規定はないが、象徴たる地位にある天皇の行為として当然に認められるというのが従来からの政府の立場である。

北村 儀典 官

官務班 長

本件ペーパーは、先にお配りした根回し用ペーパーに更に手を加えた改訂版です。お手数ですが、差し替えの上ご使用願います。

9 2 . 8 . 6

中国課 長

天皇陛下の御訪中の意義

1. 中国側より再三にわたり外交儀礼にかなった招請あり。これに対し誠意をもって対処することが必要。

(注) 中国側は、(1) 御訪中は日中両国の国民間の友情を深めるためのものであり、大歓迎すること、(2) 日本側を困らせることは決してしないこと、を明確にしている。

2. 本年は国交正常化20周年という重要な節目でもあり、天皇・皇后両陛下の御訪中は、友好親善訪問という本来の目的に適うもの。

3. アジア諸国は我が国のアジアに対する基本姿勢を強い関心を持って見守っている。昨年の両陛下の東南アジア諸国御訪問に続く本年の中国御訪問は、このようなアジア諸国によって歓迎され、また評価されよう。

4. 広範な中国国民は、両陛下の御訪中によって、平和国家日本の姿のみならず、新しい皇室像を深く理解することとなろう。更に、両陛下の誠実かつ暖かいお人柄は、必ずや中国の人々に強い感動をもたらすものとなるだろう。

(参考)

(応答要領) (天皇陛下の御訪中は国際社会の批判を招く等との指摘ある場合。)

我が国は、天安門事件に対する国際批判と同一歩調を取りつつも、中国を完全な国際孤立に陥れないために努力。中国は今や市場経済を指向する政策へと大きく転換を遂げつつあり、これは我が国等の努力が実を結んだ結果とも言える。このような状況下で、両陛下が日中国交正常化20周年を祝って訪中されても、国際社会に波風が立つことはない。

天皇陛下の御訪中（『政治利用』の問題）

1. 天皇陛下が国際親善のために外国を御訪問されることは、天皇陛下の象徴としてのお立場に基づいて行われるものであり、憲法上認められるものであって(注)、これまでも同様の認識の下に諸外国を訪問されておられるところである。
2. かかる外国御訪問が政治的に利用されることがあってはならないことは当然である。親善のための外国御訪問により諸外国との善隣友好関係が更に深めらることは御訪問の自然な結果である。
3. 本年の天皇陛下の御訪中は、正にこのような認識に基づいて行われるものであり、日中両国政府とも御訪問を政治的に利用する意図は一切ない。
4. ちなみに、中国側は、天皇陛下の御訪中は将来にわたる日中両国の国民間の友情を深めるためのものであり、政治利用することなど毛頭考えていないことを明らかにしている。

(注) 天皇陛下が国際親善のために外国を御訪問される行為は、天皇の象徴としてのお立場に基づいて行われるものであり、天皇の公的行為に当たる。

天皇の公的行為とは、憲法の定める国事行為以外の行為で、天皇が象徴としての地位に基づいて公的な立場で行われるものをいう。

天皇の公的行為については憲法上の明文の規定はないが、象徴たる地位にある天皇の行為として当然に認められるというのが従来からの政府の立場である。

渡辺大臣は10月2日、~~自派~~首席随員を命ぜられ、

至急

(天皇皇后陛下下中韓人民共和國御訪問につき)

主管課

了中

参考連絡先

官房長

総括審議官

総務課長

首席事務官

総括補佐

国会班

院内担当 (半田)

本省担当 (相埒)

資料要求

(NO 1566)

平成 4 年 10 月 2 日

下記資料の提出目途 (対応ぶり) につき、可及的速やかに国会班まで連絡願います

要求先

衆・参

議員 () ()

秘書: 内線

件名

自民党新聞 松本氏

天皇陛下の訪中日程 Bw
(簡単な日程は付す)

自派の渡辺外相の正式着費
(首席随員?)

部数

部 (冊)

FAKす願います

NO. 3597-5605

提出期限

大至急

本日中 / 2~3日中 / 出来・入手次第 /

月

日

時迄

(注) 要求資料の内容、趣旨等につき照会を要する場合には、主管課にて直接要求先
連絡を取り処理すると共に、結果、国会班まで連絡願います

処理

月

日

(1) 提出

(2) 不提出

(3) 貸出

FAX MESSAGE

通番		平成4年 月 日付	
自民党新聞局 松本様 殿 FAX 3597-5605 御中		外務省 天皇皇后両陛下御訪中準備室 担当： 丸山 TEL: 03 (3580) 3311 内線 4152/4160/4161/3041 FAX: 03 (3506) 7801	
件名	資料送付		
送信枚数	本票のみ / 本票を含めて2枚		

通信欄：

下記資料送付致しませう。

1. 御訪中日程 (別紙)

2. 渡辺大臣は10月2日、天皇皇后両陛下 中華人民共和国
御訪問につき 首席随員を命じられた。

御 日 程 の 概 要

月 日	曜 日	御 日 程
10月23日	金	東京 御発 北京 御着
10月24日	土	同地御滞在
10月25日	日	西安 御着
10月26日	月	同地御滞在
10月27日	火	上海 御着
10月28日	水	同地 御発 東京 御着

衆、参両院の女性議員数

勢力分野

平成4年10月22日現在

参

衆

6

18

5

4

2

衆議院		参議院	
自由民主党	274	自由民主党	106
日本社会党 護憲共同	9137	日本社会党 護憲共同	73
公明党 国民会議	146	公明党 国民会議	24
民社党	13	日本共産党	11
日本共産党 革新共同	216	連合参議院	11
進民連	注① 5	民社党 スポーツ 国民連合	12
無所属	注② 6	二院クラブ	注① 5
		日本新党	注② 4
		無所属	注③ 6
注①：江田、阿部、榑崎、菅、田川 注②：桜内、村山、藤波、徳田、阿部 菅原		注①：青島、下村、喜屋武、島袋、西川 注②：細川、小池、武田、寺沢 注③：原、赤桐、石原、紀平、安恒、 平野	
欠員	15	欠員	0
合計	512	合計	252

37

12

※ 23日午後、中国刊至急調査を依頼。